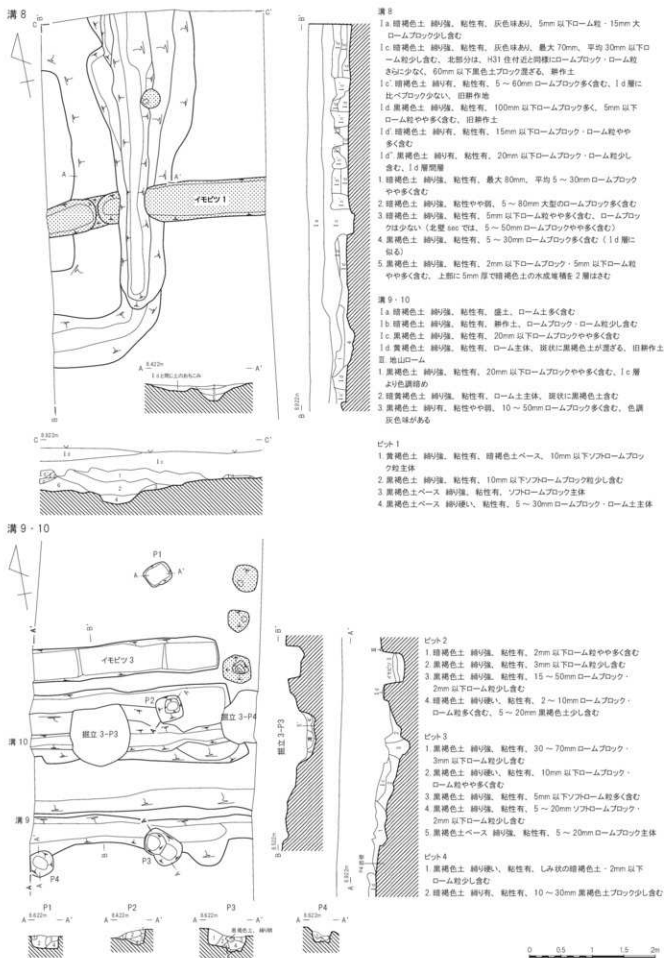


溝7

- 1 a 暗褐色土 粘り強。粘性有。ロームブロック、10mm以下粒多く含む、プラスチック含む
- 1 b 暗褐色土 粘り強。粘性有。灰色味あり、5mm以下ローム粒、15mm大ロームブロック少し含む
- 1 c (北部分にあり) 北部分は、H31住付近と同様にロームブロック・ローム粒さらに少なく、60mm以下黒色土ブロック混ざる。耕作土
- 1 d 黒褐色土 粘り強。粘性有。50mm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む。旧耕作土
- 2 黒褐色土 粘り強。粘性有。1mm以下ローム粒均一に少し含む
- 2 暗褐色土 粘り強。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く含む。耕作土
- 3 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm以下ローム粒を多く含む。10mm大ロームブロック少し含む
- 3' 黒褐色土 粘り強。粘性有。5mm以下ローム粒を3層より多く含む。全体の色調明るい
- 3' 黒褐色土 粘り強。粘性有。色調は3'より暗く3層に近い。3mm以下ソノ質のローム粒やや多く含む
- 3'' 黒褐色土 粘り強。粘性有。5mm以下ローム粒を3層より多く含む。5~40mmロームブロック少し含む
- 4 暗褐色土 粘り強。粘性有。灰色味あり、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 5 暗褐色土 粘り強。粘性有。黒褐色土分を含み、全体の色調は4層より暗い。3mm以下ローム粒を多く、5~10mmロームブロック少し含む
- 6 暗褐色土 粘り強。粘性有。20mm以下ハーフロームブロック多く、3mm以下ローム粒やや多く含む(ハーフロームブロックは、明黄褐色土と暗黄褐色土(ブラックヘッド由来)混ざる)
- 6' 暗褐色土 粘り強。粘性有。6層と同様にロームブロックを多く含むが、10~20mmと大きい黒色土少し含む
- 7 暗褐色土 粘り強。粘性有。ロームを多く含み色調明るい。しみ状に黒色土を多く、3mm以下ローム粒や多く(4~6層と比べ)、5~10mm(厚壁で40mm)ロームブロック少し含む。(8層と3~5'が混ざり合った様相で)混状
- 7' 暗褐色土 粘り強。粘性有。7層より黒色土を多く含む。5~20mmソノ質ロームブロック、3mm以下ローム粒少し含む
- 7'' 黒褐色土 粘り強。粘性有。類似する7~7'層に暗層の層の上に挟まれる。5mm以下ローム粒少し含む
- 8 暗黄褐色土 粘り強。粘性有。ローム土・3mm以下ローム粒主体。30mm以下ソノ質の黒色土ブロック少し含む
- 9 暗黄褐色土 粘り強。粘性有。8層と同じローム土・3mm以下ローム粒主体だが、5~10mm以下ロームブロックやや多く含む。20mm以下ソノ質の黒褐色土ブロック少し含む
- 10 暗黄褐色土 粘り強。粘性有。3mm以下ローム粒多く、5~30mmロームブロック少し含む
- 11 暗黄褐色土 粘り強。粘性有。ローム土と5mm以下ローム粒主体。10~50mmロームブロックやや多く含む
- 12 暗黄褐色土ベース 粘り強。粘性有。50mm以下ロームブロック主体で緻密な層様

0 1 2 3 4m

第76図 松山遺跡第45地点溝7 (1/100)



第77図 松山遺跡第45地点溝8~10・ピット(1/60)

第34表 松山遺跡第45地点遺構一覧表 (単位cm)

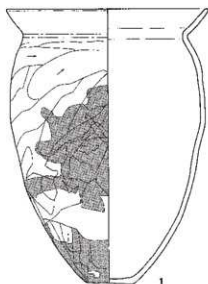
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
H34住P1	楕円形	33 × 28	7 × 5	26	
H34住P2	楕円形	29 × 28	16 × 15	40	
H34住P3	楕円形	18 × 18	14 × 10	16	
H34住P4	楕円形	16 × 14	10 × 6	22	
H34住P5	楕円形	25 × 18	6 × 5	34	
1号掘立柱P1	楕円長方形 下段1楕圆形 下段2楕圆形	125 × 100 84 × 47 54 × 42	110 × 90 79 × 33 32 × 21	90 67 54	暗褐色土と黄褐色土の交互堆積、飯塚
1号掘立柱P2	楕円形	97 × 69	74 × 56	34	22次調査掘
1号掘立柱P3	楕円長方形 下段(楕円)	153 × 103 × 55	127 × 90 × 35	40 55	22次調査掘
3号掘立柱P1	楕円形 柱痕	105 × 86 20 ×	80 × 59 ×	52 43	飯塚土(黒褐色)中に柱痕
3号掘立柱P2	楕円長方形 柱痕	95 × 83 32 ×	53 × 53 ×	45 45	飯塚土(黒褐色)中に柱痕
3号掘立柱P3	楕円長方形	95 × 93	75 × 64	29	
3号掘立柱P4	楕円長方形 柱痕	82 × 30 ×	63 × 108 ×	55 45	飯塚土(粘土質)中に柱痕
溝1	直線、断面 緩やかなV字	78 ~	20 ~ 23	14	溝2、イモビツ字より新
溝2	直線、断面 緩やかなV字	130 ~	10 ~ 15	36	溝1、3より旧

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝3	直線、断面 緩やかなV字	180 ~	10 ~ 15	44	溝2より新
溝4	直線、断面 緩やかなV字	27 ~ 45	8 ~ 12	10	
溝5	直線、断面 緩やかなV字	64 ~ 80	10 ~ 12	16	
溝6	直線、断面 緩やかなV字	80 ~ 85	14 ~ 18	23	方形のビットが50mm間隔で底面に並ぶ
溝7	方形	40 × 27	15 × 10	33	
溝8	方形	37 × 30	15 × 10	33	
溝7	直線、12m~ V字(葉形幅)	190 ~ 220	10 ~ 28 ~ 144		140 埋没後に掘り返し有、深さ80cm
溝8	7字形、断面 緩やかなV字	145 ~ 215	15 ~ 20	38	南北4.4m、西へ1.4m
溝9	直線、断面 緩やかなV字	115 ~	20 ~ 28	9	P4より新
溝10	直線、断面 緩やかなV字	185 ~	12 ~ 20	34	掘立3より新
P1	楕円長方形	41 × 34	34 × 24	19	
P2	楕円長方形	40 × 38	18 × 13	31	
P3a	円形	47 × 40	23 × 22	30	P3bより新
P3b	円形	42 × 40	23 × 22	40	P3aより旧
P4	円形	40 × 37	23 × 19	25	
溝1遺構1	長方形	(292) × 50	(290) × 42	40	イモビツ
溝2遺構2	長方形	(300) × 55	(300) × 44	35	イモビツ、H34住跡の北イモビツ、溝8より新
溝3遺構3	長方形	(340) × 57	× 48	25	

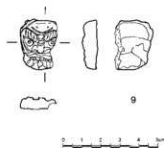
第35表 松山遺跡第45地点出土土物観察表 (単位cm)

採取番号	形成番号	遺構名	種類・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	素材/文様/その他	石材/鑑定生産地	推定年代・時期	現存/備考
78 四	1	H34号住居跡	土師器・甕	21.4	5.1	29.1	粘土細粒上、口縁部横線で、胴部外面斜方向のへう削り。胴部内面横線で、胴部は「く」字、口縁は若干内湾する/褐色/砂粒(～1mm)多量含む、脚石含む/胴部に保付着/注記A区Ⅰ～7、10、12～22、24、25、27～30、33		8C	ほぼ完形
	2	H35号住居跡	須恵器・蓋	15.2	天井径7.0	3.4	横線成形、天井部右側転削後、未調整。口縁部先端は折り返し/灰黄色/砂粒(～5mm)多量含む/注記B区Ⅲ～14、19	南比企	9C中葉	完形
	3	H35号住居跡	須恵器・蓋	(15.0)	天井径6.0	2.7	横線成形、天井部右側転削後、未調整。口縁部先端は折り返し/灰黄色/砂粒(～5mm)、海面骨針多量含む/注記B区Ⅳ	南比企	9C中葉	1/2以下残存
	4	H35号住居跡	須恵器・杯	—	(8.6)	—	横線成形、右側転削後未調整/灰黄色/砂粒(～1mm)多量含む/注記B区Ⅹ、26、32	不明	8C後半	底部片
	5	H35号住居跡	須恵器・杯	—	(8.6)	—	横線成形、底部全面転削へう削り調整/灰色/砂粒(～1mm)、海面骨針多量含む/注記B区Ⅹ、26、23	南比企	8C中葉～後半	底部片
	6	H35号住居跡	須恵器・杯	—	7.2	—	横線成形、転削後、高台削付け/灰色/砂粒(～1mm)多量含む/注記B区Ⅱ	南比企	9C前半～中葉	底部片
	7	H35号住居跡	土師器・甕	(17.8)	—	—	粘土細粒上、口縁部横線で/明褐色色/砂粒(～1mm)少量含む、脚石含む/口縁後、口縁内側に保付着/注記B区Ⅲ、28、30		9C	口縁部片
	8	H35号住居跡	土師器・台付甕	—	—	—	粘土細粒上、内外面へう削り/濃い褐色色/砂粒(～1mm)少量/外面削付け/注記B区Ⅲ、5		9C	脚部接合部
	9	遺構外	土製品・泥面子	2.6	—	0.8	空型成形/変色、裏面に色調紅褐色/褐色/砂粒少量含む/注記H5		1790年代～1890年代	一部欠

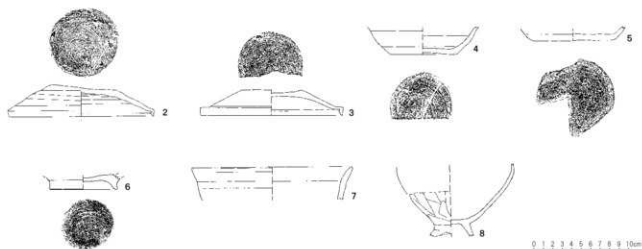
H34 号住居跡



遺構外



H35 号住居跡



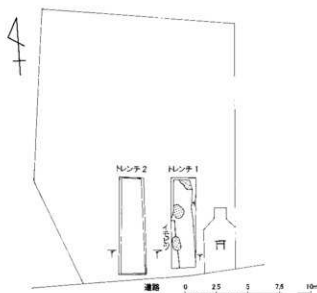
第78図 松山遺跡第45地点 H34・H35号住居跡・遺構外出土遺物 (1/2・1/4)

IV 松山遺跡第46地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2009年1月6日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年2月17日に行った。2m幅のトレンチを2カ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで80～90cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第79図 松山遺跡第46地点遺構区域図 (1/300)

第7章 東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約500～1,000m程下った右岸に位置している。標高17～20mで現谷底との比高差は約3～4mを測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、町立亀久保小学校が建ち、現在は区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約50mに江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は1976年以来2010年3月現在まで、66地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や柵跡が確認されている。

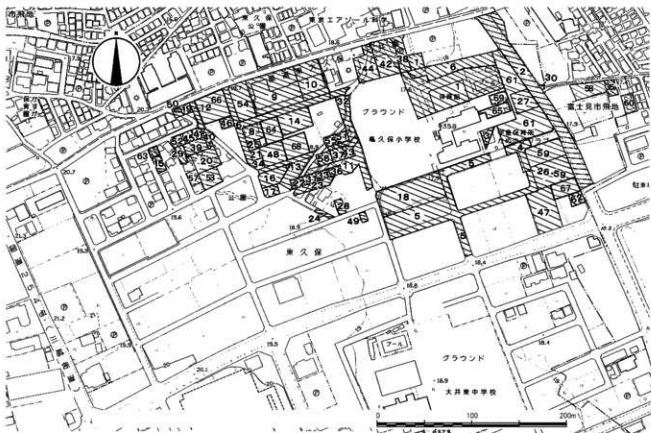
II 東久保遺跡第66地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2008年3月24日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年5月22日から同年6月11日まで行なった。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、溝跡と思われるプランを検出した。遺構の性格を確認するため検出部分のみ調査した。確認面まで90cmを測る。建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

(2) 遺構と遺物

【溝】調査区中央トレンチ2から4にかけ、東西方向の溝を3条検出した。西側は攪乱により不明。溝3は東側のトレンチ2で溝4と連続する。溝底の工具



第80図 東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第36表 東久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査時期(1)は調査年度	面積(㎡)	調査施設	確認された遺構と遺物	調査報告書
1	東久保字東久保285-1地	(1976.6.29～7.27)	10,000	小学校建設	縄文・集石土坑1、土坑3、井戸2、溝2 縄文土器・石器	大井町文化財報告書第7集 東久保遺跡
2	東久保293-1地	1994.12.19～1995.3.23 (1995.5.18～5.22)	2,472	区画整理道路	中世頃の溝4、ビット4、土坑2	調査報告書第14集
3	東久保294-1	(1996.11.15)	25	水道管埋設	溝1	町内記録係文
4	東久保304-1	(1996.5.20～5.29)	270	学童保育所建設	溝2、溝1、遺物無し	町内記録係文
5	東久保304-1	1996.6.7～6.19 (1996.9.2～9.1)	320	区画整理道路	旧石路跡跡1	町内記録係文・ 調査報告書第14集
6	東久保306	1996.11.22～1997.3.5	3,314	区画整理道路	土坑3、中世の堀跡1、溝2、ビット1	調査報告書第14集
7	東久保306-1	1996.6.7～6.19 (1996.9.2～9.1)	2,309	区画整理道路	縄文・溝2と土坑2、集石土坑1、土坑1、ビット5、溝8	調査報告書第14集
8	東久保306-1	1996.11.22～1997.3.5	3,314	区画整理道路	縄文・溝2と土坑2、集石土坑1、土坑1、ビット5、溝8	調査報告書第14集
9	東久保18街区12画地	(1997.7.29～8.2)	305	個人住宅	縄文・土坑2、ビット2	調査報告書第14集
10	東久保279,280	(1997.8.18～8.29) (1998.3.1～5.18)	1,117	井戸宅	縄文・集石土坑5、土坑13、ビット7、 近世以降の溝3	町内記録係文・ 調査報告書第14集
11	東久保19街区	(1997.9.2～10.1)	2,067	分譲住宅	縄文・集石土坑1、近世以降の溝1	町内記録係文
12	東久保	1998.7.13～8.6 1999.3.11～3.12	588	区画整理道路	中世以降の堀跡1、ビット3、溝1	調査報告書第14集
13	東久保	1999.1.19～2.21 1999.5.19～5.20	282	区画整理道路	縄文・集石土坑1、ビット10、近世以降の溝2	調査報告書第14集
14	東久保381-5他	1999.5.19～5.20 1999.11.2	360	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査報告書第14集
15	東久保18街区3画地	(1999.6.29～7.16) 1999.7.19～7.29	162	個人住宅	溝2、溝1 縄文土器1、瓦葺堀跡1	町内記録係文・ 調査報告書第14集
16	東久保3街区14～16画地	(1999.8.2)	178	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
17	東久保15街区1～5,32画地	(1999.10.1～10.16)	334	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
18	東久保381-5	(1999.6.14～6.15)	168	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
19	東久保27街区2画地	(1999.11.30～12.15)	14,899	小学校グラウンド	堀跡	町内記録係文
20	東久保3街区9,10画地	(1999.12.20～12.21)	108	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
21	東久保4街区9画地	(2000.2.28～3.3)	478	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
22	東久保18街区14画地	(2000.3.23～3.28)	114	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
23	東久保15街区28画地	(2000.3.22～3.23)	150	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
24	東久保	2000.3.13～3.16 2000.3.27～4.6	280	区画整理道路	縄文・土坑1、横土跡1	調査報告書第14集
25	東久保14街区13画地	(2000.1.19)	390	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査報告書第14集
26	東久保14街区13画地	(2000.3.13～4.16)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
27	東久保31街区9画地	(2000.4.14)	1,107	併用建設現場	溝、ビット	町内記録係文
28	東久保26街区	2000.5.17～6.8	500	区画整理道路	縄文ビット15、近世の土坑1、溝1、溝2	調査報告書第14集
29	東久保14街区8画地	(2000.6.29～7.6)	130	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
30	東久保4街区18,20画地	(2000.6.30～7.4)	218	個人住宅	溝2	町内記録係文
31	東久保294番2	2000.7.4	48	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査報告書第14集
32	東久保15街区26画地	(2000.6.7)	126	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
33	東久保277,381番他	2000.7.12～8.4 2001.7.16～11.30	265 590	区画整理道路	旧石路跡1、近世以降の溝2、縄文・土坑2、ビット12、 時期不明の溝跡・堀跡内1	調査報告書第14集
34	東久保15街区24画地	(2000.8.2～8.3)	128	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
35	東久保18街区13画地	(2000.8.29～8.30)	110	個人住宅	ビット4	町内記録係文
36	東久保23街区3,4画地	(2000.12.7～12.9)	329	個人住宅	溝1、ビット1	町内記録係文
37	東久保15街区21,22画地	(2001.1.19～1.25)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
38	東久保15街区13,35画地	(2000.12.11)	149	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
39	東久保284-1,285-1	2001.12.13～12.15	501	区画整理道路	縄文・ビット1、遺物無し	調査報告書第14集
40	東久保4街区8,9画地	(2001.3.22～3.27)	317	個人住宅	縄文・溝2と土坑1	町内記録係文
41	東久保270-3,270-4	2001.3.23, 2001.6.1	128	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査報告書第14集
42	東久保4街区6,7画地	(2001.5.28～5.29)	112	個人住宅	近世以降の溝1、遺物無し	町内記録係文
43	東久保19街区10画地	(2001.4.18～4.21)	864	駐車場	近世以降の溝1、遺物無し	町内記録係文
44	東久保15街区14,15画地	(2001.5.22～5.23)	142	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
45	東久保19街区511,512画地	(2001.5.10～6.29)	757	店舗	縄文・溝2と土坑1、堀跡4跡、ビット5、溝2	町内記録係文
46	東久保258-1	(2001.6.11)	100	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
47	東久保17街区3,4画地	(2001.6.4～6.9)	135	個人住宅	溝1、縄文土器片2、堀跡片1	町内記録係文
48	東久保31街区6,13画地	(2001.10.11～10.20)	1,203	店 舗	縄文・溝2と土坑1、溝1	町内記録係文
49	東久保18街区9,10画地	(2001.12.12～12.25)	518	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
50	東久保13街区7画地	(2002.2.12～2.13)	100	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
51	東久保3街区22画地	(2002.9.24)	102	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
52	東久保18街区11画地	(2002.12.3)	155	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
53	東久保4街区9画地	(2003.2.6～2.7)	64	個人住宅	溝、井戸	町内記録係文
54	東久保字東久保272 (19街区1画地)	(2003.5.7～5.22)	408	井戸宅	ビット1	町内記録係文
55	東久保字東久保488 (18街区7画地)	(2003.5.9～5.22)	798	井戸宅	溝3、ビット4、溝2と土坑1	町内記録係文
56	東久保字東久保15街区12画地	(2003.7.1～8.1)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
57	東久保258番24画地(14画地)	(2003.9.29～10.1)	133	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文
58	ふじみ野2-27	(2004.4.13～4.16)	537	分譲住宅	溝2	町内記録係文
59	ふじみ野2-257～9	(2004.6.29)	1,804	店 舗	土坑4、ビット9、溝2	町内記録係文・ 調査報告書第14集
60	ふじみ野2-616	(2004.7.22～7.26)	336	個人住宅	ビット1	町内記録係文
61	東久保26街区	2004.9.29～11.26	2,376	区画整理・埋蔵地	縄文時代の土坑7、ビット9、溝6、 (調査区内の一部は27画地で調査済)	調査報告書第14集
62	ふじみ野2-5-16	(2004.10.12～10.13)	220	宅地造成	溝3	町内記録係文
63	ふじみ野2-5-10,12	(2006.2.1)	105	個人住宅	遺構・遺物無し	町内記録係文 2
64	ふじみ野2-18-6の部	(2006.10.12～10.20)	437	井戸宅	近世の堀跡1、溝4	町内記録係文 3
65	ふじみ野2-22-5～7	(2008.1.18～2.20)	260	小学校建設	遺構・遺物無し	町内記録係文 4
66	ふじみ野2-19-4,19-5	(2008.5.22～6.11)	862	分譲住宅建設	溝3	町内記録係文 6
67	ふじみ野2-20-10,11	(2009.1.19)	492	分譲住宅建設	遺構・遺物無し	未報告
68	ふじみ野2-18-3	(2010.11.22～20 2010.11.29～12.8)	791	分譲住宅建設	縄文・集石1、近世以降の溝2、溝1	未報告

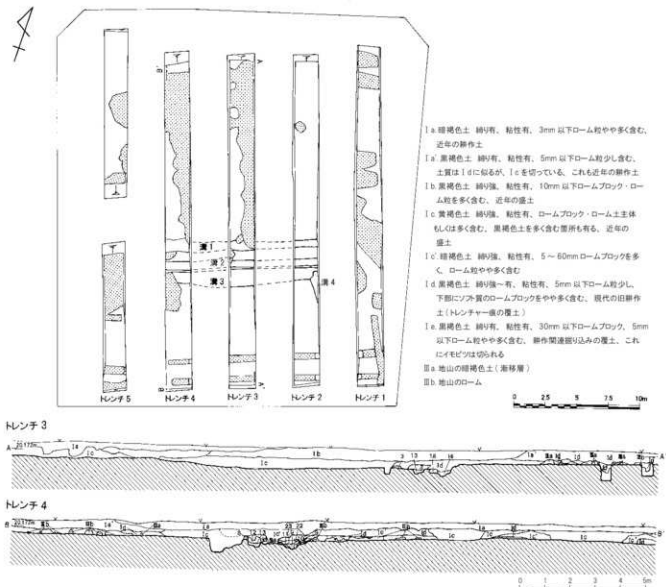
痕や土層が溝3と溝4で類似しており、底に段差はあるが、同一遺構の可能性が高い。

【溝状土坑】調査区南端で、断面「L」の長方形土坑を検出した。いわゆるイモ類を貯蔵する「イモビツ」と思われる。

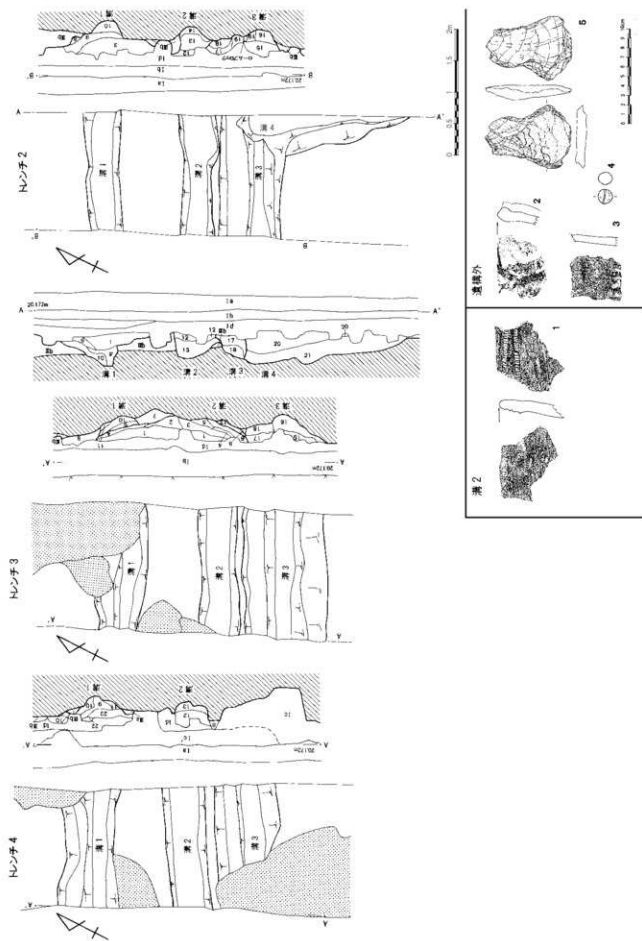
【遺物】1は溝2出土で、内面に幅広押文2列、間に三角押文を波状に巡らす浅鉢口縁。2はトレンチ3の遺構外出土で、隆帯胎に1列の角押文を施文する深鉢口縁。3もトレンチ3の遺構外出土で、雲母片含む胎土で、指頭圧痕が巡る深鉢胴部。5は溝2出土の片岩製打製石斧で完形品。抉りの入る撥形。

第37表 東久保遺跡第66地点遺構一覧表 (単位cm)

No.	平面形状	幅(長さ)	底面	深さ	備考
溝1	東西両面 12m ⁻ 、 断面L字形	47 ~ 95	20 ~ 23	34 ~ 47	東へ傾斜
溝2	東西両面 12m ⁻ 、 断面L字形	42 ~ 68	25 ~ 47	25 ~ 31	東へ傾斜
溝3	東西両面 12m ⁻ 、 断面L字形	95 ~ 105	12 ~ 32	23 ~ 38	東へ傾斜、北側に幅25~30cmの段差有
溝4	南北両面 2.7m ⁻ 、 断面I字形	(65) ~	(35) ~	42	溝3と東方、土層類似する、連続する可能性有
溝状土坑 横1	長方形、 断面I	45 ~	40 ~	62	イモビツ
溝状土坑 横2	長方形、 断面I	43 ~	43 ~	45	イモビツ



第81図 東久保遺跡第66地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



第82図 東久保遺跡66地点溝1～3(1/60)、出土遺物(1/4)

第38表 東久保遺跡第66地点出土遺物観察表 (単位:cm)

採取 番号	記載 番号	遺構名	種類・部種	口径・ 径	底径・ 幅	器高・ 厚	技法/文様/その他	石材/推定 生産地	推定年代・ 時期	保存/備考
62回	1	溝2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/内面口縁部に平截竹管による連続押引き文を2列と、その間に三角押文を波状に施文する/砂粒多量/注%2M2トレ		縄文中期・ 終期	口縁部片
	2	遺構片	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/隆帯による相間区画線を、角押文で押さえる/ 砂粒、雲母多量含む/注%3トレ1		縄文中期・ 阿玉台1b	口縁部片
	3	遺構片	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/輪組み部分にヒヤ状凹面(窪)や砂粒、褐色粘土多量含む/ 注%3トレ2		縄文中期・ 阿玉台1b	胴部片
	4	遺構片	土製品・水玉	1.4	1.45	—	粘土土、赤土を挟み込んだ跡がある/注%3トレカクラン			完形
	5	溝2	石器・打製石斧	9.06	6.70	1.60	重量96.5g 両輪鋳打技法/注%2M2トレ	緑泥片岩	縄文時代	完形

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～30mm ロームブロック多く、5mm 以下ローム粒や多く、黒褐色土の薄層を挟む
2. 黄褐色土 締り強。粘性有。50mm 以下ロームブロック・ローム土主体。黒褐色土ブロック少し含む
3. 黄褐色土 締り強。粘性有。ローム土主体 30mm 以下ロームブロック・ローム粒多く含む。黒褐色土少し含む
4. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～10mm ロームブロック少し。3mm 以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土ベース 締り強。粘性有。5～10mm ロームブロック主体。黒褐色土少し含む
6. 黄褐色土 締り強。粘性有。5～15mm ロームブロック少し。5mm 以下ソフトローム粒主体。ベースは黒褐色土
7. 黄褐色土 締りやや弱。粘性有。40mm 以下ロームブロック主体。隙間をローム土が埋める。黒褐色土を少し含む。この辺りの底面は起伏著しい
8. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～40mm(平均 10mm 以下)ロームブロックや多く。5mm 以下ローム粒多く含む
9. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～30mm ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む
- 9' . 黒灰色土 シルトブロック60～10mm やや多く含む
10. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～50mm ロームブロック多く。ローム粒や多く含む
11. 黒褐色土 締り有。粘性有。5mm 以下ローム粒や多く含む
12. 黒褐色土 締り強。粘性有。10～20mm ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む
13. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～20mm ロームブロックと 5mm 以下ローム粒多く含む
14. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～20mm ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む。ベースの土はローム分を多く含む色調明るい
15. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～30mm ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む。5～10mm 黒色土少し含む。色調は3層より暗い
16. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～40mm ロームブロック多く。5mm 以下ローム粒や多く含む。色調は4層より暗い
17. 黒褐色土 締り強。粘性有。平均 15mm 以下ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む。漸に落ち込むような構構
18. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～30mm ロームブロック多く。5mm 以下ローム粒や多く含む。北壁側に堆積する
19. 黒褐色土 締り強。粘性有。5～10mm ロームブロック多く。ローム粒や多く含む
20. 黒褐色土 締り強。粘性有。10～30mm ロームブロック少し。5mm 以下ローム粒や多く含む。最大 20cm の黒褐色土ブロックを少し含む
21. 黒褐色土 締り強。粘性有。10～80mm ロームブロック多く。ローム粒や多く含む
22. 黒褐色土 締り強。粘性有。10mm ロームブロック。2mm 以下ローム粒少し含む
23. 黄褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土ベース。ソフトロームブロック主体 15mm 以下ハードロームブロック少し含む

第8章 東久保西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保西遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡川とさかい川の間低位台地に位置する。

遺跡の南側から東側にかけて埋没河川が流れ、現在では用水路になっている。以前は埋没河川を取り巻くように段差などがみられたが、こうした地形や環境も、区画整理事業と大規模開発により無くなりつつある。以前の標高は18.0～21.0mだったが、区画整理後は19.5～20.0mである。

周辺の遺跡は北西に江川南遺跡、北側に亀久保跡遺跡・東久保遺跡、南側に東中学校西遺跡が隣接する。

本遺跡は遺物の散布地であったが、1993年に東久保西遺跡として新規登録し、さらに1997年東久保土地区画整理事業に伴い区画道路部分を調査した際、遺構の検出範囲が広がったため、遺跡の変更増補を行った。

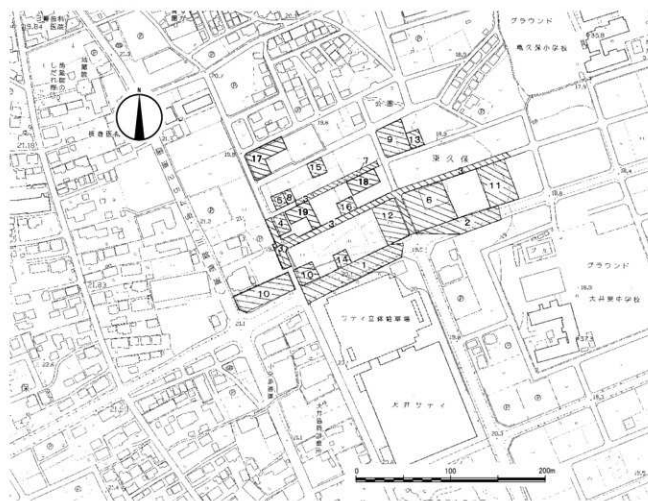
1994年の初調査以来、2010年3月現在19地点で調査を行ない、埋没河川であった用水路周辺から旧石

器時代の礫群、縄文時代の落とし穴、屋外炉、中・近世の溝などを検出している。

II 東久保西遺跡第19地点

(1) 調査の概要

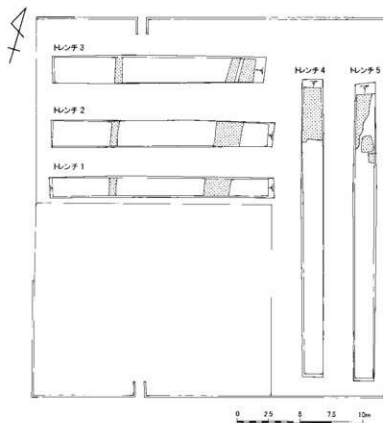
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年6月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年7月2日から3日まで行なった。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが、イモビツの他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで40cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第83図 東久保西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 39 表 東久保西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保 309-1, 400-1, 407-1.2, 408-1	1995.1.9 ~ 2.1	1,392	区画整理道路	溝状プラン確認、遺物無し	遺跡調査会報告第 14 集
		(1993.8.24 ~ 26)	75	区画整理掘坑	第 1 地点調査区内で工事立会い、遺構・遺物無し	
2	東久保 419-1 他	1997.11.27 ~ 1998.1.27 1998.2.23 ~ 3.9	1,400	区画整理道路	縄文：落とし穴 1, 土坑 1, ピット 16	遺跡調査会報告第 14 集
3	東久保	-A 区 > 1998.1.19 ~ 2.3	680	区画整理道路	縄文：落とし穴 1, 土坑 1, ピット 9, 溝 3	遺跡調査会報告第 14 集
		-B 区 > 1998.6.1 ~ 15	1,754			
		-C 区 > 1998.7.14 ~ 29				
		-D 区 > 1998.12.21 ~ 22 -E 区 > 1999.1.18 ~ 22				
4	東久保 10 街区 1 画地	(1998.12.1 ~ 2)	298	砂利敷駐車場	溝 1	町内遺跡部Ⅶ
5	東久保 9 街区 9 画地	(1998.12.10 ~ 14)	194	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡部Ⅶ
6	東久保 12 街区 1.2.10 画地	(1999.2.9 ~ 15) 1999.2.24 ~ 3.1	1,959	店 舗	旧石器時代の石器ブロック 3, 縄文時代の落とし穴 1 埋蔵石製の漆器 1	町内遺跡部Ⅶ・ 遺跡調査会報告第 14 集
7	東久保 250 - 1 他	1999.6.8 ~ 7.24	528	区画整理道路	中近世以降の溝 1	遺跡調査会報告第 14 集
8	東久保 9 街区 13 画地	(1999.11.2 ~ 5)	135	個人住宅	ピット 1	町内遺跡部Ⅷ
9	東久保 14 街区 1.2.12 画地	(2000.1.28 ~ 2.9)	1,074	共同住宅	溝 1, ピット 11	町内遺跡部Ⅷ
10	東久保 11 街区 3.11 画地	(2000.5.8 ~ 10)	1,760	店 舗	遺構・遺物無し	町内遺跡部Ⅷ
11	東久保 12 街区 5.9 画地	(200.6.11 ~ 12)	1,445	駐車場	遺構無し、土器片 3	町内遺跡部Ⅷ
12	東久保 11 街区 9.13 画地	(2001.6.25 ~ 7.2)	1,074	店 舗	遺構無し、近世以降の陶磁器片 7	町内遺跡部Ⅷ
13	東久保 14 街区 11 画地	(2001.10.13 ~ 26)	275	個人住宅	黒色プラン確認、遺物無し	町内遺跡部Ⅷ
14	東久保 11 街区 10 画地	(2002.1.31 ~ 2.4)	237	店 舗	遺構・遺物無し	町内遺跡部Ⅷ
15	東久保 9 街区 3 画地	(2003.2.3 ~ 9)	225	個人住宅	溝 2, 土坑 1, ピット 1	町内遺跡部Ⅷ
16	東久保 10 街区 6 画地	(2003.6.3 ~ 4)	273	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡部Ⅷ
17	ふじみ野 2-9-1.2.3	(2006.10.26)	919	共同住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 3
18	ふじみ野 2-11-8.11-5	(2007.1.16 ~ 19)	478	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 3
19	ふじみ野 2-11-3.11-4	(2008.7.2.3)	824	個人住宅建設	遺構・遺物無し	市内遺跡部 6



第 84 図 東久保西遺跡第 19 地点調査区域図 (1/300)

第9章 東中学校西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は人間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の標高は20.0～21.0mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川(現在用水路)が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

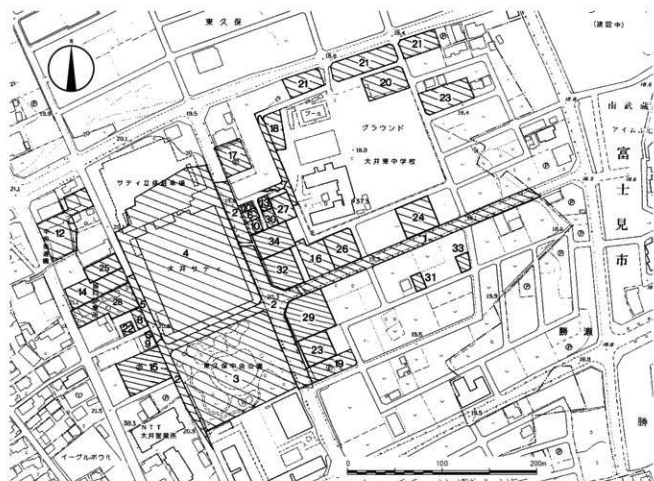
遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約50mに東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代では早期の穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋土、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓壇・溝・柵列などが確認されている。本遺跡の調査は1995年以来2008年1月現在、30ヶ所で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

II 東中学校西遺跡第32地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び店舗建設に伴うもので、原因者より2008年4月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年6月13日から25日まで行なった。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。トレンチ1で覆土らしき暗褐色土を検出したが、確認したところ自然の窪みであった。遺構・遺物を検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認まで110～130cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第85図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

III 東中学校西遺跡第 33 地点

(1) 調査の概要

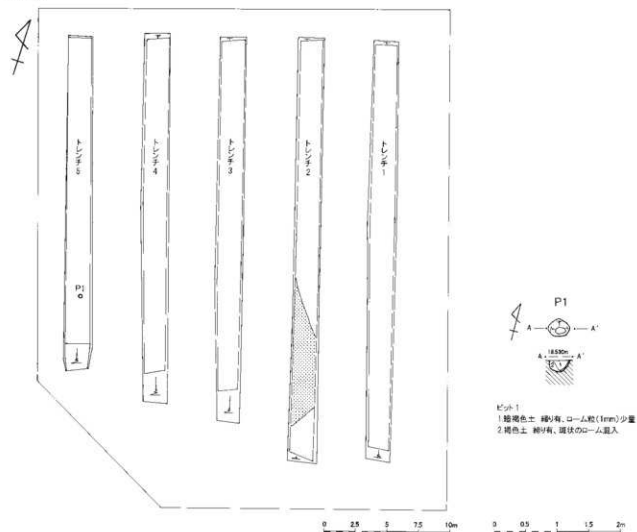
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 10 月 1 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試

掘調査は 2008 年 10 月 3 日に行なった。幅約 2 m と 1.5m のトレンチを 1 本ずつ設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが、遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認まで 110 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

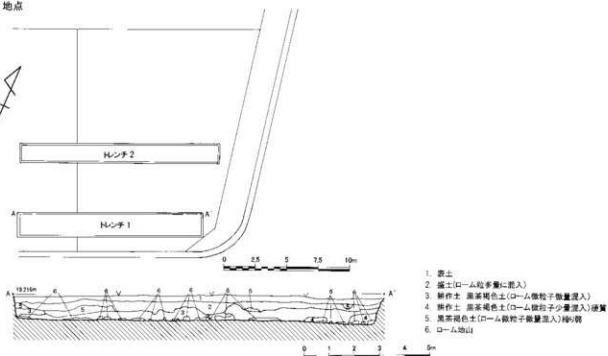
第 40 表 東中学校西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保 551.526.531 他	1994.10.6 ~ 11.9	3,168	区画整理道路	縄文：土坑 1、ビット 8	遺跡調査会報告第 14 集
2	亀久保 466-1 他	-A 区>1996.10.7 ~ 11.15	3,308	区画整理道路	縄文：穴穴 26、集石土坑 1、落とし穴 4、土坑 2、ビット 26、中世以降：溝 5	遺跡調査会報告第 14 集
		-B 区>1996.12.12 ~ 17				
		-C 区>1997.3.5 ~ 19	1,168			
		-D 区>1997.6.12 ~ 19				
-E 区>1997.7.8 ~ 8.8	880					
-F 区>1996.1.18 ~ 31						
-G 区>1996.1.25						
3	東久保 465.500 他	(1996.8.29 ~ 9.13) 1996.10.7 ~ 21	10,200	区画整理公園	縄文：落とし穴 1、溝 1、土坑 6、ビット 4、石籠 1	町内遺跡部 VI - 遺跡調査会報告第 14 集
4	東久保 326 他	(1997.2.6 ~ 10.29) 1997.6.12 ~ 8.8	24,681	店 舗	縄文：落とし穴 3、集石土坑 2、屋外埋戻し、遺物：土壇 1、溝 9、櫛列 1、ビット多数	町内遺跡部 VI - VII - 遺跡調査会報告第 14 集
5	東久保 487-1,474-4 他	1997.6.12 ~ 7.24	688	区画整理道路	縄文：穴穴 6、落とし穴 1、溝 2、ビット 2	遺跡調査会報告第 14 集
6	亀久保 325-1,7,8,9	(1997.6.26 ~ 27)	136	事務所	遺構・遺物無し	町内遺跡部 VII
7	東久保 402-1 他	1997.7.21 ~ 31	636	区画整理道路	櫛列 1、ビット 5	遺跡調査会報告第 14 集
8	東久保 44 街区 13.14 両地	1997.8.5 ~ 9	252	個人住宅	縄文：落とし穴 1、溝 1、ビット 9、(落とし穴は第 5 地点で報告)	町内遺跡部 VII
9	東久保 44 街区 2.3 両地	(1997.8.19 ~ 9.1)	325	個人住宅	溝 2、ビット 9	町内遺跡部 VII
10	東久保 42 街区 1 両地	(1997.12.10 ~ 20)	135	店 舗	遺構・遺物無し	町内遺跡部 VII
12	東久保 44 街区 3.23.24 両地	(1998.1.6 ~ 24)	1,879	店 舗	遺構・遺物無し	町内遺跡部 VII
13	東久保 2 街区 12 両地	(1998.6.9 ~ 11)	218	専用住宅	ビット 1	町内遺跡部 VII
14	東久保 44 街区 11.20.26 両地	(1998.6.23 ~ 26)	1,231	共同住宅	ビット 2、風倒木直	町内遺跡部 VII
15	東久保 45 街区 1.4.6 両地	(1998.8.17 ~ 24)	2,649	店舗専用駐車場	中世以降：ビット 2	町内遺跡部 VII
16	東久保 42 街区 6 両地	(1998.8.17 ~ 31)	1,347	店舗専用駐車場	ビット 2	町内遺跡部 VII
17	東久保 38 街区 7.8 両地	(1998.8.19 ~ 24)	1,131	店舗専用駐車場	縄文：石籠 1	町内遺跡部 VII
18	亀久保 319-1	(1999.2.8 ~ 24)	850	テニスコート	ビット 5、櫛列 1	町内遺跡部 VII
19	東久保 52 街区 8 両地	(1999.3.17)	944	7/4 駐車場	遺構無し、陶器 2	町内遺跡部 VII
20	東久保 39 街区 1 両地	(1999.6.16 ~ 7.19)	900	区画整理調整池	溝 1、ビット 26	町内遺跡部 IX
21	東久保 37 街区 1 ~ 3 両地	(1999.11.18 ~ 12.9)	1,311	店 舗	縄文：土坑 1、溝 3、ビット 23	町内遺跡部 IX
22	東久保 44 街区 15 両地	(2000.3.7 ~ 9)	150	個人住宅	中世以降：溝 1、ビット 5	町内遺跡部 IX
23	東久保 33 街区 6 両地	(2003.8.5 ~ 13)	1,233	共同住宅	土坑 1、ビット 1	町内遺跡部 X II
23	ふじみ野 4-1-6 の一部	(2005.5.24 ~ 30)	926	店 舗	土坑 1	市内遺跡部 2
24	ふじみ野 3-9-5	(2005.6.20 ~ 7.7) 2005.7.11 ~ 13	1,425	店 舗	縄文：穴穴 5	市内遺跡部 2
25	ふじみ野 1-1-9.10	(2005.6.28 ~ 7.2)	604	分譲住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 2
26	ふじみ野 3-10-8 ~ 11	(2006.1.5 ~ 10)	1,060	店 舗	遺構・遺物無し	市内遺跡部 2
27	ふじみ野 3-10-3 の一部 4	(2006.1.11)	120	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 2
28	ふじみ野 1 TH 1-13.14.15.32.23	(2006.4.24 ~ 5.10)	1,568	共同住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 3
29	ふじみ野 4-4-1	(2006.5.15 ~ 19、7.28 ~ 8.1)	2,004	店舗	縄文：土坑検出	市内遺跡部 3
30	ふじみ野 3-10-13	(2006.7.3)	634	保育所	遺構・遺物無し	市内遺跡部 3
31	ふじみ野 4-3-14	(2008.2.14)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 4
32	ふじみ野 3-10-12	(2008.6.13 ~ 25)	1,231	分譲及び店舗	遺構・遺物無し	市内遺跡部 6
33	ふじみ野 4-3-8 の一部	(2008.10.3)	215	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡部 6
34	ふじみ野 3-10-6	(2011.2.2 ~ 4)	1,032	宅地造成	遺構・遺物無し	未報告

32 地点



33 地点



第86図 東中学校西遺跡第32・33地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

第10章 亀久保堀跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

亀久保堀跡遺跡は、福岡江川とさかい川間の低地台地に位置している。遺跡の標高は18.0～21.0mで、堀跡は自然の地形を考慮せず直線的にのびる。

周辺の遺跡は、北側に東久保遺跡、南側に東久保西遺跡が隣接する。

これまでの調査から、堀跡は福岡江川付近から南下し江川南遺跡の中央部を南北にのびた後、地藏院の東約80m付近で南東向きを変え、向きを変えた堀跡は、東久保遺跡と東久保西遺跡の間を約600m以上直線で延び富士見市域へと続く。富士見市域では調査が行われていないため遺跡の有無は不明である。

堀跡の規模は上幅約3m、底幅約1.5m、深さは地表面から約1m、長さは800m以上で断面形は逆台形を呈する。覆土層上層に焼土を多く含む層が所々で確認されているが出土遺物は無く、時代などは不明であるが、本遺跡の第30地点と江川南遺跡第17・19地点の調査で検出した堀跡の覆土層に含まれるテフラ分析を行なった結果、堀跡の時期が平安時代の11世紀以前に遡るとする検査結果が出ている。

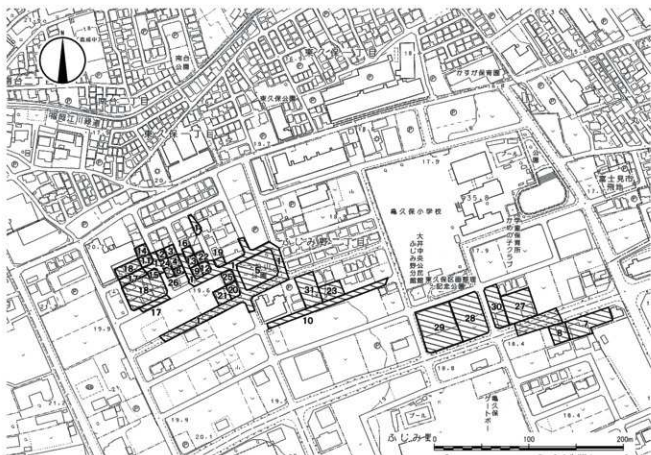
II 亀久保堀跡遺跡第31地点

(1) 調査の概要

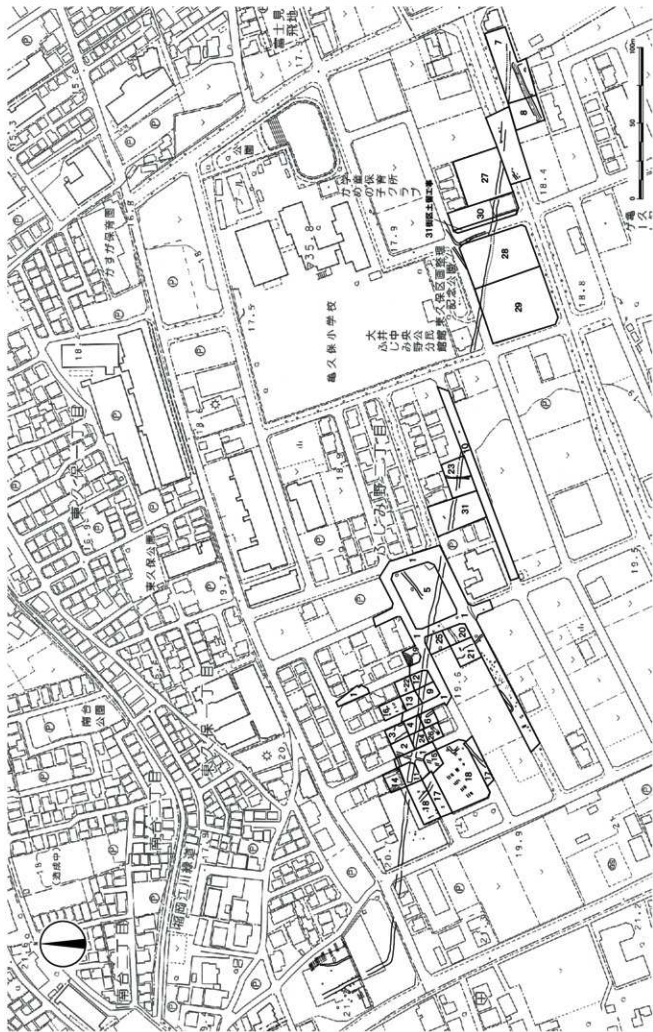
調査は分譲住宅及び個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2009年2月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置し、隣接地の調査で堀跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年2月6日から同月10日まで幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、堀跡を確認した。遺構確認まで70cmあった。分譲住宅部分は当面の開発がないため、遺構の確認に留め、個人住宅部分は本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2009年2月12日から13日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を人力で表土除去後調査を行なった。調査の結果、古代から中世と思われる堀跡を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なううえ埋め戻し、調査を終了した。



第 87 図 亀久保堀跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第88図 亀久保短絡道路遺構分布図 (1/2,500)

(2) 遺構

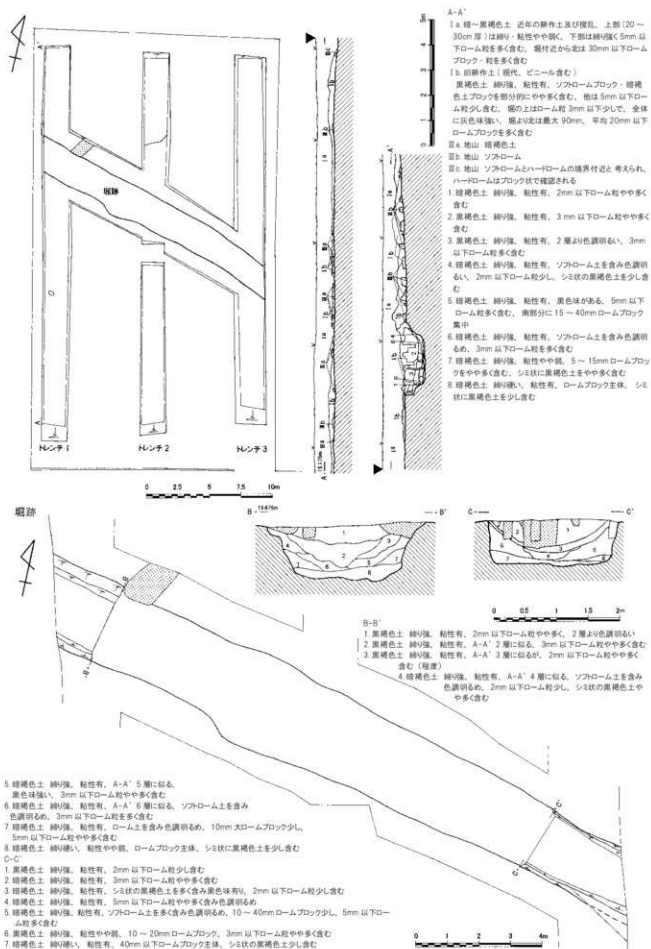
【堀跡】東西800mにわたって検出されている堀跡の一部を21mにわたって検出した。断面形は逆台形のいわゆる「箱葉研」底直上は掘り返したままの状態で、ロームブロック主体。覆土は全体に黒褐色から暗褐色土で締り強く粘性がある。水性堆積の様相は認められない。

第42表 亀久保堀跡遺跡第31地点遺構一覧表(単位:cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
堀跡	東西直線21m～新築道(台形「箱葉研」)	190	~ 300	150 ~ 168	95 ~ 109 東西800m近く続く堀跡の一部。底はローム塊主体

第41表 亀久保堀跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保260-1.2 他	~A-C区:1997.42~6.19 ~D区:1997.9.8~12 ~E区:2000.5.16~19	2,610 120	区画整理道路	縄文:屋外炉1、土坑3、ビット73、 中世:堀跡、溝6、縄文土器片他。 (注)東久保遺跡第7地点)	遺跡調査報告書第14集
2	東久保6街区4.5画地	(1997.9.11~25)	127	個人住宅	近世以降:溝2	町内遺跡部VII
3	東久保6街区7.8画地	(1997.9.11~25)	130	個人住宅	近世以降:溝1	町内遺跡部VII
4	東久保6街区9.10画地	(1997.9.11~25)	113	個人住宅	中世:堀跡	町内遺跡部VII
5	東久保264-1,264-2,264-3,266(2号緑地)	1997.9.22~10.27	1,200	区画整理道路	縄文:活とし穴1、土坑4、中世:堀跡、溝2、櫓列1	遺跡調査報告書第14集
6	東久保6街区11.1,2画地	(1997.9.11~25)	102	個人住宅	中世:堀跡、近世以降:溝1、	町内遺跡部VII
7	東久保32街区5.6画地	(1997.10.29~11.4) 1998.2.2~19	739	店舗	縄文:活とし穴1、中世:堀跡、溝2、櫓列1	町内遺跡部VII・VIII
	東久保32街区7画地	(1998.11.12~16)	165	紗利敷駐車場	中世:堀跡	町内遺跡部VII
8	東久保32街区2画地の一部	(1998.2.6~19)	318	共同住宅	近世以降:溝2、櫓列	町内遺跡部VII
9	東久保5街区9.10画地	1998.2.24~3.10	131	個人住宅	中世:堀跡、縄文中期:土器片2	町内遺跡部VII
10	東久保382,385 他	~A区:1998.3.9~16 ~B区:1998.4.23 ~C区:1998.5.20~21	436 324	区画整理道路	縄文:活とし穴1、ビット3、石環1、 近世:陶器片	遺跡調査報告書第14集
11	東久保2街区12画地	(1998.4.8~22)	151	個人住宅	中世:堀跡	町内遺跡部VII
12	東久保258-46	(1998.5.8~21)	123	個人住宅	中世:堀跡	町内遺跡部VII
13	東久保5街区11.1,2画地	(1998.5.8~21)	107	個人住宅	中世:堀跡	町内遺跡部VII
14	東久保2街区11画地	(1998.5.1~7)	132	個人住宅	近世以降:溝1	町内遺跡部VII
15	東久保7-2街区4.5画地	(1998.5.8~21)	111	個人住宅	近世以降:溝1	町内遺跡部VII
16	東久保5街区18.19画地	(1998.5.29~6.1)	117	個人住宅	溝2	町内遺跡部VII
17	東久保253,254 他	1998.10.21~12.2	360	区画整理道路	旧石器:割片2、中世以降:溝2、近世以降:土庫2	遺跡調査報告書第14集
18	東久保7-2街区12.7~9画地	(1998.11.3~30)	908	個人住宅4軒分	縄文:活とし穴1、溝6、土坑2、ビット3	町内遺跡部VII
19	東久保4街区11.1,2画地	(1998.11.3~10)	99	個人住宅	溝3、土坑1、ビット2	町内遺跡部VII
20	東久保8街区5画地	(1998.11.21~24)	185	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡部VII
21	東久保262,263,266	(1999.4.19~22)	232	個人住宅	溝1、ビット7	町内遺跡部IX
22	東久保5街区7.20画地	(1999.6.10~12)	99	個人住宅	近世以降:ビット5	町内遺跡部IX
23	東久保14街区10画地	(1999.10.4~8)	386	駐車場	中世:堀跡	町内遺跡部IX
24	東久保6街区14画地	1999.12.14~16	105	個人住宅	中世:堀跡	町内遺跡部IX
25	東久保8街区9画地	2000.4.10~12	187	個人住宅	中世:堀跡、土坑1	町内遺跡部IX
26	東久保6街区13画地	(2000.5.11~17)	105	個人住宅	溝、櫓列	町内遺跡部IX
27	東久保31街区2.3画地	(2000.5.29~6.1)	1,011	駐車場	中世:堀跡	町内遺跡部IX
	東久保31街区2.3画地	(2002.6.10~11)	980	店舗	試掘調査。土坑2	町内遺跡部IX
28	東久保29街区3-6.9画地	(2000.9.28~29)	1,365	整地工事	中世:堀跡(西側半分は第29地点で再調査)	町内遺跡部IX
29	東久保29街区1,2,7.8画地	(2001.4.17) 2001.4.18~20	1,769	店舗	中世:堀跡 (第28地点でプラン確認した部分の再調査)	町内遺跡部IX
30	ふじみ野2丁目25番1号	(2005.1.11~12) 2005.1.31~2.7	695	店舗	中世:堀跡、土坑1(風倒木復)	遺跡調査報告書第14集
31	ふじみ野2-15-4	(2009.2.6~10) 2009.2.12~13	661	個人住宅建設	古代~中世:堀跡1	市内遺跡部6



第 89 図 亀久保塚跡遺跡第 31 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/60)、堀跡 (1/120)

第11章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

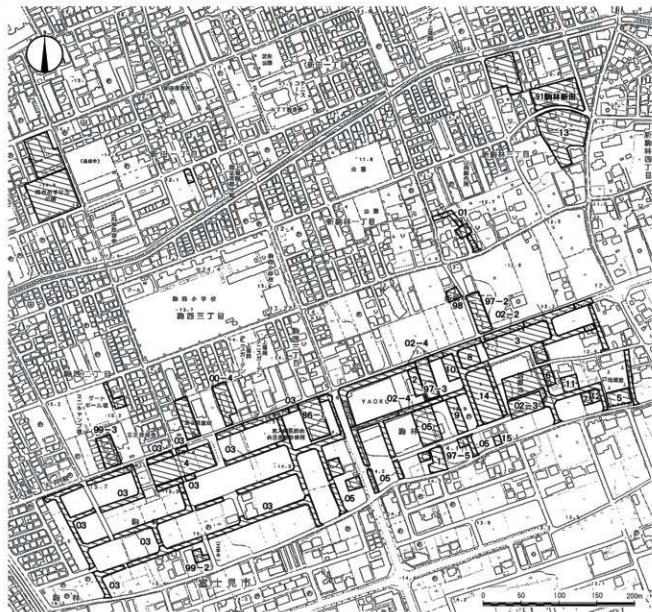
駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの広大な範囲であったが、2002年から2004年にかけて行なった駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大半の地域で遺構を確認できなかったため、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。

しかし、今回第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140

～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、北側にある葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側にある地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合して駒林とし、2008年2月に遺跡範囲の変更増補を行なった。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。

2002年以降の試掘調査の結果、幅4.2m、深さ1.7mの大溝や茶臼跡を検出する。周辺の遺跡の様相から遺跡の時期は中世から近世と思われる。



第90図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

第 43 表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1 次	駒林字南原 353,354	1986.8.13～25	1,536	範囲確認調査	平安土器散布地	埋蔵文化財の調査 (Ⅹ)
1992 年度試掘 (1)	大字駒林字南原 341	(1992.9.16～18)	987	共同住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (15)
1995 年度試掘 (1)	駒林字新田前 271-2	(1995.11.8～24)	231	個人住宅	溝 1	埋蔵文化財の調査 (18)
1996 年度試掘 (1)	駒林本町 153-3,4	(1996.6.10～13)	231	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (19)
1997 年度試掘 (1)	駒林字新田前 266-2	(1997.5.8～12)	132	個人住宅	溝 1 (時期不明)	埋蔵文化財の調査 (20)
1997 年度試掘 (2)	駒林字新田前 223	(1997.5.9～15)	991	宅地造成	溝 1 (時期不明)	埋蔵文化財の調査 (20)
1997 年度試掘 (3)	駒林字新田前 291-1,2	(1997.10.6～17)	991	浴敷所	溝 1 (時期不明)	埋蔵文化財の調査 (20)
1998 年度試掘 (1)	駒林字新田前 312	(1998.8.10)	234	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (21)
1999 年度試掘 (1)	駒林字南原 424-2 の一部、20 の一部、23	(1999.4.5)	330	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (22)
1999 年度試掘 (2)	駒林字南原 394-2	(1999.5.25)	125	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (22)
1999 年度試掘 (3)	駒林字南原 420-1	(1999.7.1)	1,322	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (22)
2000 年度試掘 (1)	駒林字南原 344-2	(2000.1.18～20)	785	共同住宅	溝 1 (時期不明)	埋蔵文化財の調査 (22)
2002 年度試掘 (1)	駒林字新田前 238,240～242-1 の一部	(2002.6.3～21)	650	区画整理	溝 8、土坑 7、地下式坑 1	埋蔵文化財の調査 (25)
2002 年度試掘 (2)	駒林字新田前 243～245	(2002.8.9～30)	275	区画整理	溝 1、遺物無し	埋蔵文化財の調査 (25)
2002 年度試掘 (3)	駒林字新田前 262-1,263,264 の一部	(2002.8.30～9.19)	1,120	区画整理	土坑 1、遺物無し	埋蔵文化財の調査 (25)
2002 年度試掘 (4)	駒林字新田前 280～282、2,290,292-1～298 の一部	(2002.11.11～27)	1,150	区画整理	溝 4、遺物無し	埋蔵文化財の調査 (25)
2003 年度試掘 (1)	駒林字新田前 263,273,275 (字新田前) 試掘調査	(2003.5.16～21)	558	区画整理	溝 1	埋蔵文化財の調査 (26)
2003 年度試掘 (2)	駒林字南原 364 外 41 筆の一部 (字南原) 試掘調査	(2003.4.25～12.22)	7,278	区画整理	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査 (26)
2003 年度試掘 (3)	駒林字南原 409,410 の一部 (字南原) 試掘調査 (区 6-10 号跡予定地東端)	(2004.1.2)	292		遺構・遺物無し	15 年度教育要覧
2004 年度試掘 (1)	駒林字新田前 281	(2006.1.7～24)	1,487	範囲確認調査	溝 1	埋蔵文化財の調査 (27)
1	駒林土地区画整理事業地内 20 街区 4,8,9	2006.7.13～28	646	共同住宅	船跡、茶臼跡検出	市内遺跡群 3
2	駒林土地区画整理事業地内 17 街区 7,8 の一部	2006.11.21～29	421	寺用住宅	船跡検出	市内遺跡群 3
3	駒林土地区画整理事業地内 21 街区 3,4 の一部	2006.11.30～12.18	1,916	店舗	近世遺構建設	市内遺跡群 3
4	駒林 B 地区 7 街区 3,4	2007.6.11～13	1,866	共同住宅	溝文・土坑 1	市内遺跡群 4
5	大字駒林字新田前 256 (仮換地指定 30 街区 2)	(2008.4.9～16) 2008.5.30～6.28	509	分譲住宅	溝文・集石 3、中近世：地下式坑 1、整穴式遺構 25、溝 4、種判、ビット	市内遺跡群 5、6
6	大字駒林字新田前 248-2 (仮換地 1 街区 27 符号 1)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 6
7	駒林土地区画整理事業地内 28 街区 5 画地	(2009.2.3) 2009.2.4,5	152	個人住宅	時期不詳の堀・溝跡 2	市内遺跡群 6
8	大字駒林字新田前 245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構・遺物無し	未報告
9	大字駒林字新田前 284	(2009.7.22～30) 2009.7.30～8.5	892	共同住宅	溝文・集石土坑 1、土坑 2、ビット 9、溝 1	未報告
10	大字駒林字新田前 288-1 の一部	(2010.2.17,18)	400	個人住宅	遺構・遺物無し	未報告
11	駒林区画整理事業 27 街区 2,10 画地、11 画地の一部	(2010.4.12～21)	689	個人住宅	遺構・遺物無し	未報告
12	駒林字新田前 258-2(28 街区 12 画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝確認	未報告
13	新駒林 3-722-1,3,4	(2010.7.27～29)	927	共同住宅	近世の土坑 2、ビット 11	未報告
14	駒林字新田前 285～287、288-2,3 (22 街区内)	(2010.9.1～8)	2,000	公園工事	遺構・遺物無し	未報告
15	大字駒林字新田前 266-3 (24 街区 12 符号)	(2011.2.16,17) 2011.2.17	115	個人住宅	時期不詳の土坑 1	未報告

II 駒林遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年5月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西端に立地し、隣接地では地下式坑や溝を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月9日から同年4月16日まで行った。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、集石や暗褐色土の遺構プラン多数を確認した。遺構の性格を確認するため一部調査したところ、溝跡や地下式坑群であった。遺構確認面まで30cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はし

ていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で2008年5月30日から同年6月28日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代の集石、中世以降の地下式坑、溝跡を検出した。

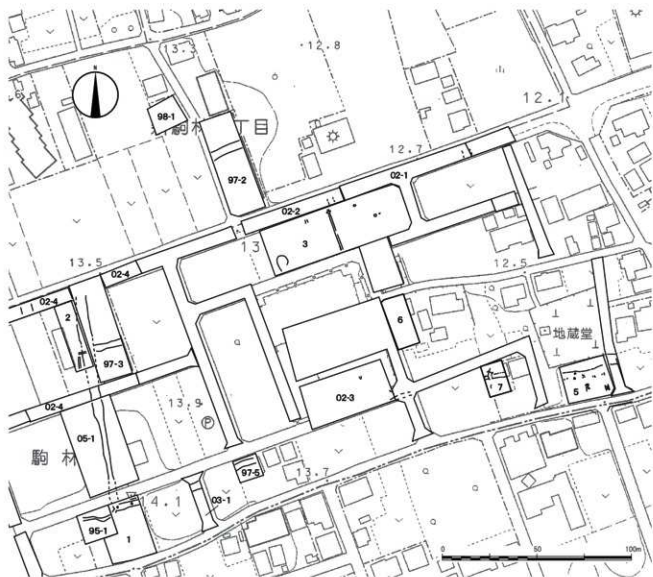
(第II部第1章「駒林遺跡第5地点の本調査」参照)

III 駒林遺跡第6地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年7月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年8月27日に行なった。幅約2



第91図 駒林遺跡遺構分布図(1/2,000)

mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで40cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

【遺物】遺構外から泥メンチが1点出土した。

IV 駒林遺跡第7地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2009年1月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端に立地し、大溝の検出が予測されるため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年2月3日に行なった。2×2mのグリッドを5ヵ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、溝跡らしき黒褐色土プランを検出した。確認面まで70cmを測り、保護層が確保されるため工事立会いとしたが、浄化槽設置箇所のEグリッドと駐車場の北西部のみ本調査することとした。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2009年2月4日から5日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を重機で表土除去後、調査を行なった。調査の結果、時期不明の溝跡2条を検出した。写真撮影・平板測量による全測図作成・遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【溝1】調査区中央に東西方向の溝を11m検出した。本調査区東側の第5地点で検出した溝や、西側の2002年度試掘(3)で検出した溝に連なると思われる、遺跡全体では一辺140～160mの台形区画に巡る溝に連なると思われる。中央で南北方向の溝2と重複し、溝2より古い。溝2は溝1が完全に埋没した後に構築している。

断面形態は「V」字形の薬研で、溝は黒褐色土で埋まるが、最上層の土が硬化している。

【溝2】調査区中央に南北から東西へ湾曲する溝を6m検出した。中央で東西方向の溝1と重複し、溝1より新しく、北側で重複する性格不明遺構より古い。溝2は溝1が完全に埋没した後に構築している。

断面形態は「V」字形の薬研で、溝は黒褐色土で埋まる。南側の溝3に連なる可能性がある。

【溝3】調査区南側のグリッド内で検出した。

断面形態は「V」字形の西側が緩やかな片薬研で、溝は黒褐色土で埋まる。

【性格不明遺構】調査区北側に段差20cmほどの掘り込みを検出した。溝2と重複し溝2より新しい。

【遺物】全て遺構外出土。

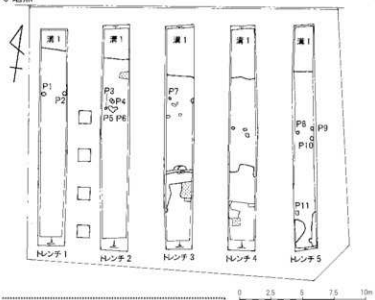
第44表 駒林遺跡第7地点遺構一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	東西直線11m ～、断面V字形「薬研」	225 ～ 235	62 ～	130	上層に硬化面。溝2より古い
溝2	高曲。断面V字形「薬研」	180 ～ 200	20 ～	114	溝1より新。性格不明遺構より古い
溝3	高曲。断面V字形「薬研」	(1)600 ～	25 ～	66	溝2と連なる可能性有
性格不明遺構		320 ～	～	20	溝2より新

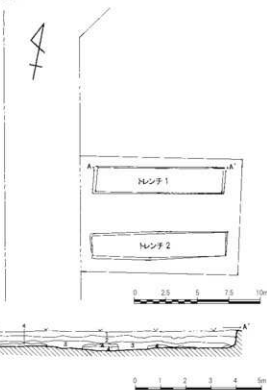
第45表 駒林遺跡第6・7地点出土遺物観察表 (単位:cm)

図録番号	図録番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	注法/文様/その他	石目/鑑定生産地	推定年代・時期	残存/備考
92図	1	第6地点・遺構外	土製品・灰面子	2.5	2.1	0.9	型押成形/透網。裏面に赤面瓦痕/砂粒少量含む/褐色/注№1トレ一話		1790年代～1890年代	完形
93図	2	第7地点・遺構外	陶器・ミニチュア	—	1.7	0.5	型押成形/裏面に布目瓦痕/透明網。輪縁/灰白色/砂粒少量含む/注№H2	京都	17C末～	一部欠
	3	第7地点・遺構外	土製品・灰面子	—	2.9	0.9	型押成形/「福」字。裏面に赤面瓦痕/褐色/雲母。砂粒少量含む/注№H2		1790年代～1890年代	一部欠
	4	第7地点・遺構外	土製品・基石?	2.6	2.5	0.9	砂粒少量含む/浅黄褐色/注№H2			完形

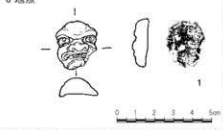
5地点



6地点



6地点



6地点

1. 盛土・ローム 硬く締る
2. 表土 耕作土 黒褐色土 締り有
3. 控高 黒褐色土とローム塊の混合
4. ソフトローム 地山 黄褐色土 やや色は暗い
- 4'. 色は明るくなる

7地点

7地点

溝1 A-A'

- 1 表土・耕作土 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む、灰色塊がある
- 2a 地山 暗褐色土 締り有、粘性有、地山の崩壊層、粗し泥々5mm以下ローム粒少し含む
- 1 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒わずかに含む、現状に暗褐色土ブロックやや多く含む
- 2 黒褐色土 硬化、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、1mm以下ローム粒が目立つ
- 3 黒褐色土 締り有、粘性有、5~10mmロームブロック少し、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 4 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
- 5 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒わずかに含む、黒色塊は強い
- 6 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム土を食み色調はやや暗い、3mm以下ローム粒少し含む
- 7 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム土を食み色調は明るい、15mm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む
- 8 黒褐色土 締り有、粘性有、現状にソフトロームブロックをやや多く含む

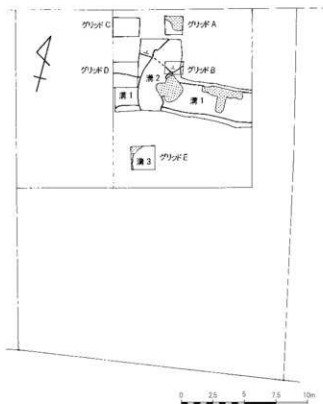
B-B'

- 1 黒褐色土 締り有、粘性有、40mm以下ロームブロック多く含む
 - 2 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm大ロームブロック多く含む
- 溝2 C-C'
- 1 暗褐色土 締り有、粘性有、上部に黒褐色土の層層がある、10mm大ロームブロック、5mm以下ローム粒やや多く含む
 - 2 暗褐色土 締り有、粘性有、5~40mmロームブロック多く含む
 - 3 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、粘性のあるシルト質の土が混ざる
 - 4 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
 - 5 暗褐色土 締り有、粘性有、5~10mmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む
 - 6 暗褐色土 締り有中弱、粘性有、5~10mmロームブロック少し含む
 - 7 暗褐色土 締り有、粘性有、5~40mmロームブロック多く含む

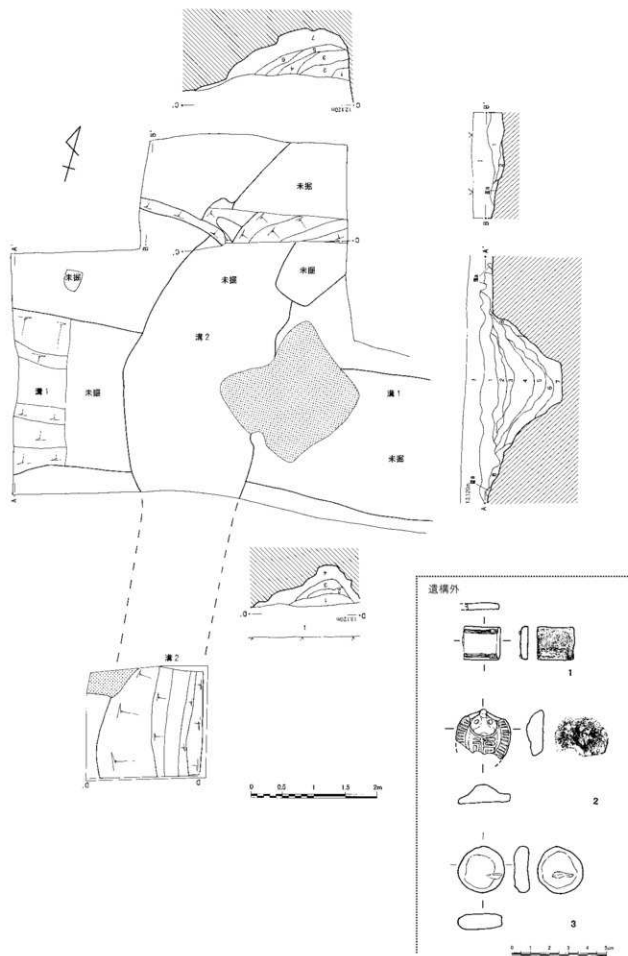
溝2 D-D'

2a 黒褐色土層以)

- 1 黄褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土ベース、ソフトロームブロック主体
- 2 暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土ベース、暗褐色土(ソフト質崩壊層土)ブロック主体
- 3 暗褐色土 締り有、粘性有、5~60mm以下ソフトロームブロック多く、15mm以下黒褐色土ブロック少し含む
- 4 黒褐色土 締り有、粘性有、最大60mm、平均5~15mm、ロームブロックやや多く含む



第92図 駒林遺跡第5~7地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、出土遺物(1/2)



第93図 駒林遺跡第7地点溝1～3 (1/60)、出土遺物 (1/2)

第12章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて人間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、前間東久保遺跡、淨禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2011年3月現在で149地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を越す住居跡が環状集落として形成され、町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第94図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第46表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	発掘区画 (1) 調査範囲	面積 (㎡)	調査内容	確認された遺構と遺物	調査報告書	
1	001		住居跡、土坑、堀土坑(1)	5000年代前半		
2	西ノ原 40	1979.12.6 ~ 20	270	住居跡、土坑、井田、堀土坑(1)	5000年代前半	
3	1979.3		住居跡	7000年代前半		
4	西ノ原 120.1	1979.7.30 ~ 8	600	住居跡、竈跡、竈中層(1)	縄文時代前期	
5	1979.8.14 ~ 14	300	住居跡、土坑、堀土坑(1)	縄文時代前期		
6	西ノ原 170.2	1980.10.8 ~ 27	450	土坑、貯蔵土 堀土坑(1)	縄文時代前期	
7	西ノ原 26.1	1980.10.20 ~ 27	300	住居跡	縄文時代前期	
8	西ノ原 90.25	1980.10.30 ~ 11.18	600	住居跡	縄文時代前期	
9	西ノ原 100.25	1980.10.30 ~ 23	300	住居跡	縄文時代前期	
10	西ノ原 100.2	1980.11.4 ~ 13	400	住居跡	縄文時代前期	
11	西ノ原 143.4	1980.5.25 ~ 27	180	住居跡	縄文時代前期	
12	西ノ原 123.3	1983.7.6 ~ 8.11	300	住居跡	縄文時代前期	
13	西ノ原 114.6	1983.11.10 ~ 18	300	住居跡	縄文時代前期	
14	西ノ原 143	1983.10.24 ~ 11.7	240	住居跡	縄文時代前期	
15				住居跡	縄文時代、ペリオド	
16				住居跡	縄文時代	
17	西ノ原 120.3	1980.5.12 ~ 22	300	住居跡	縄文時代前期	
18	西ノ原 141.2	1980.7.26 ~ 8.5	300	住居跡	縄文時代前期	
19	西ノ原 120.1	1980.7.29 ~ 21	250	住居跡	縄文時代前期	
20	西ノ原 120.1	1980.11.1 ~ 1987.4	1353	住居跡	縄文時代前期	
21	西ノ原 26.1	1980.12.29 ~ 29	447	住居跡	縄文時代前期	
22	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
23	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
24	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
25	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
26	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
27	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
28	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
29	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
30	1980.7	80	住居跡	縄文時代前期		
31	西ノ原 120.1	1980.11.10 ~ 11	15	住居跡	縄文時代前期	
32	西ノ原 122	1980.11.10 ~ 19	210	住居跡	縄文時代前期	
33	西ノ原 153.2	1980.11.10 ~ 19	210	住居跡	縄文時代前期	
34	西ノ原 121	1980.11.20 ~ 23	210	住居跡	縄文時代前期	
35	1980.12 ~ 3	4100	住居跡	縄文時代前期		
36	1980.12 ~ 3	4100	住居跡	縄文時代前期		
37	1980.12 ~ 3	4100	住居跡	縄文時代前期		
38	西ノ原 143.2	1980.12.26 ~ 31	74	住居跡	縄文時代前期	
39	西ノ原 143.2	1980.12.26 ~ 31	74	住居跡	縄文時代前期	
40	1980.12.18 ~ 19.18	1980.12.19 ~ 11.4	60	住居跡	縄文時代前期	
41	1980.12.19 ~ 47	470	住居跡	縄文時代前期		
42	1980.12.19 ~ 47	470	住居跡	縄文時代前期		
43	西ノ原 153.3	1980.12.26 ~ 31	272	住居跡	縄文時代前期	
44	1980.12 ~ 8	3224	住居跡	縄文時代前期		
45	1980.12 ~ 8	3224	住居跡	縄文時代前期		
46	西ノ原 2	1980.12.8 ~ 10	100	住居跡	縄文時代前期	
47	西ノ原 2	1980.12.8 ~ 10	100	住居跡	縄文時代前期	
48	西ノ原 2	1980.12.8 ~ 10	100	住居跡	縄文時代前期	
49	1980.12.10 ~ 12	210	住居跡	縄文時代前期		
50	1980.12.10 ~ 12	210	住居跡	縄文時代前期		
51	西ノ原 153.2	1980.12.11 ~ 11	1700	住居跡	縄文時代前期	
52	西ノ原 12	1980.12.11 ~ 20	984	住居跡	縄文時代前期	
53	西ノ原 123.2	1980.12	283	住居跡	縄文時代前期	
54	1980.12 ~ 7	200	住居跡	縄文時代前期		
55	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
56	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
57	西ノ原 143.4	1980.12.7 ~ 11	174	住居跡	縄文時代前期	
58	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
59	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
60	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
61	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
62	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期		
63	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
64	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
65	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
66	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
67	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
68	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
69	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
70	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
71	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
72	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
73	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
74	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
75	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
76	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
77	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
78	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	
79	西ノ原 123.2	1980.12.21 ~ 23	241	住居跡	縄文時代前期	

Ⅱ 西ノ原遺跡第142地点

(1) 調査の概要

調査は学生寮建設に伴うもので、原因者より2008年2月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

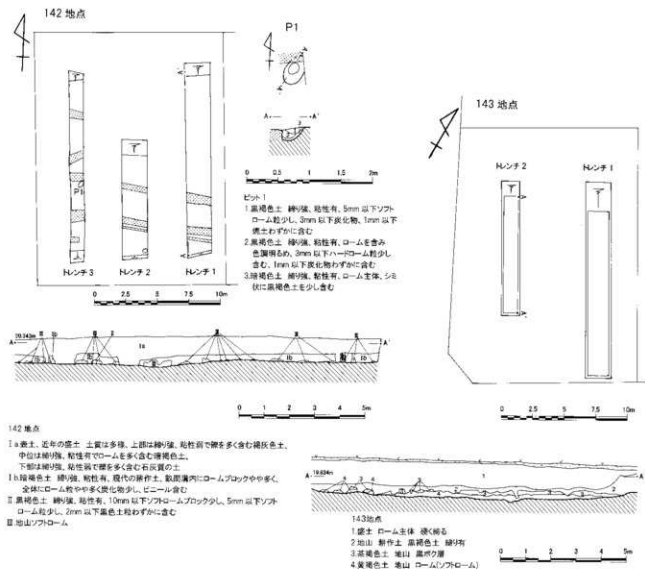
試掘調査は2008年4月4日から同年4月7日まで行なった。1mと2m幅のトレンチを3カ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。調査の結果、黒褐色の遺構らしき範囲を検出したので調査したが、自然の窪みであった。その他には遺構・遺物は検出しなかった。確認面まで90～120cmを測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

Ⅲ 西ノ原遺跡第143地点

(1) 調査の概要

調査は学生寮建設に伴うもので、原因者より2009年1月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年3月23日に行なった。1.5mと2m幅のトレンチを2カ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで120～160cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第95図 西ノ原遺跡第142・143地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)

第13章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2010年3月現在36地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

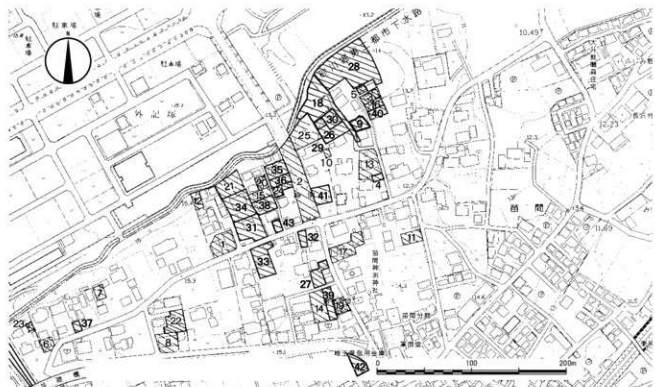
これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第33地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年3月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月25日から同年5月16日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土プランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに一部を掘り下げ確認したところ、縄文時代の落とし穴、近世以降の井戸、土坑、ピット、溝等であった。確認面まで80cmを測るが、建築による遺構への影響がないため工事立会いとした。写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



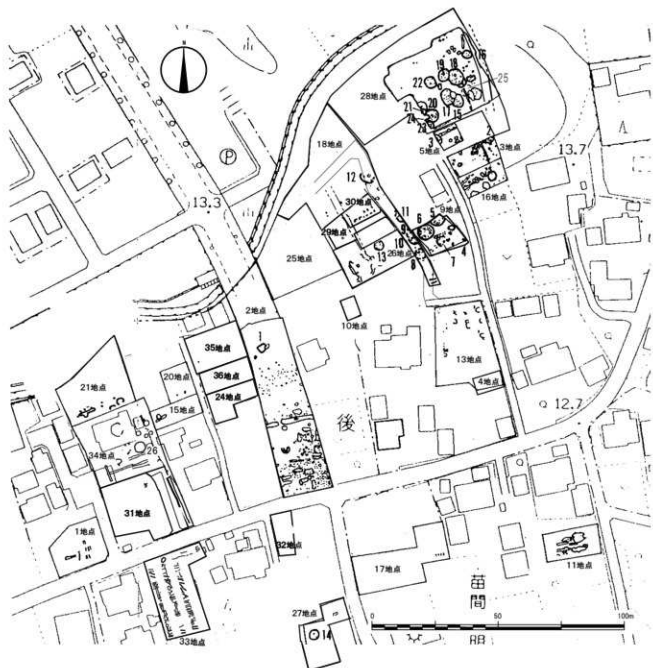
第96図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第47表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6 ~ 11	615	共同住宅	遺構無し。平安時代須恵磁片、陶器片	町内遺跡群Ⅲ
2	苗間 295-2,299-3	1993.5.12 ~ 20	1,688	道路築造	落とし穴1、平安住居跡1(41号)、縄文土坑1、中・近世御建柱建物跡、地下式竈1、井戸、堀	町内遺跡群Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24 ~ 29) 1995.4.3 ~ 5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡1(2号)、伏魔1、土坑2、ビット34他	町内遺跡群Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17 ~ 19) (1997.3.15)	703	物置	遺構無し。縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15 ~ 4.2)	80	個人住宅	縄文住居跡1(3号)、土坑5、溝、他	町内遺跡群Ⅵ
6	苗間 255,227-2	(1997.9.29 ~ 30)	150	個人住宅	縄文中期後半～後期初遺	町内遺跡群Ⅶ
7	苗間 260	(1998.6.1 ~ 2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町内遺跡群Ⅶ
8	苗間 235-1	(1998.7.13 ~ 24)	458	共同住宅	集石土坑1、土坑2、ビット40、欄干1、溝	町内遺跡群Ⅶ
9	苗間 310-1	(1998.9.1 ~ 11) 1998.9.14 ~ 10.15	219	共同住宅	縄文住居跡4、集石土坑1、落とし穴1、縄文土坑2、近世土坑1、井戸2、地下室1、ビット33	町内遺跡群Ⅶ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構無し。縄文土器片	町内遺跡群Ⅶ
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22 ~ 26	239	個人住宅	土坑17、ビット7	町内遺跡群Ⅶ
12	苗間 282-2,5	(2000.3.16)	211	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅶ
13	苗間 302-1	(2000.4.17 ~ 19)	694	個人住宅	土坑12、ビット	町内遺跡群Ⅶ
14	苗間 252-2	(2000.8.18 ~ 23)	357	共同住宅	土坑1、近世御建柱建物跡1、溝2、井戸1、欄干、ビット38	町内遺跡群Ⅶ
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12 ~ 13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台跡)	町内遺跡群Ⅶ
16	苗間 309-14	(2001.7.23 ~ 24) 2001.7.25 ~ 9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋蔵4、土坑13、溝2、地下式竈1、地下室1、壱穴式遺構1、ビット38	町内遺跡群Ⅶ
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内遺跡群Ⅶ
18	苗間 304-1,303-6	(2002.5.15 ~ 25) 2002.5.27 ~ 6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡5(8～12号)、土坑、古代・中世船跡	町内遺跡群Ⅶ
19	苗間 264-4	(2002.9.18 ~ 20)	216	個人住宅	堀切溝、溝4	町内遺跡群Ⅶ
20	苗間 293-11	(2003.1.14 ~ 15)	143	個人住宅	中・近世溝2、近世2	町内遺跡群Ⅶ
21	苗間 283-1	(2003.1.10 ~ 30)	674	土地造成	ビット7、井戸1、ビット地下室2、土坑1	町内遺跡群Ⅶ
22	苗間 235-2,3	(2003.7.8 ~ 29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ビット38、江戸後物陶磁器	町内遺跡群Ⅶ
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、瓦葺	町内遺跡群Ⅶ
24	苗間神明後 293-4,10	(2004.9.30 ~ 10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅶ
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ~ 10.7)	660	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅶ
26	苗間神明後 301,303-3,303-4,303-5,304-1,303-7	(2005.6.1 ~ 8) 2005.6.15 ~ 30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡1(13号)中世地下室竈、近世土坑5、溝	調査報告書18集
27	苗間 248-2,249-1	2005.7.20 ~ 25 2005.7.27 ~ 29	385	共同住宅	縄文中期住居跡1(14号)	調査報告書18集
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8 ~ 31) 2006.6.29 ~ 10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡1(105～25号)、集石23、土坑5、落とし穴1、壱穴3、ビット、溝4、古代・中世船跡1	市内遺跡3
29	苗間神明後 303-21,24	(2006.5.8 ~ 11) 2006.5.12 ~ 19	136	個人住宅	ビット1、古代・中世船跡1	市内遺跡3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8 ~ 19) 2006.12.14 ~ 19	101	個人住宅	ビット12	市内遺跡3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ~ 7)	499	個人住宅	土坑2	市内遺跡4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代掘足	市内遺跡4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	298	個人住宅	落とし穴1、中世以降溝6、井戸2、土坑38、ビット16	市内遺跡6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	357	分譲住宅		市内遺跡6
34	苗間字神明後 283-1,284-1の一部	(2008.4.30 ~ 5.15) 2008.5.16 ~ 28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡1(26号)、落とし穴1、集石3、ビット	市内遺跡5
35	苗間字神明後 293番6,20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ビット1	市内遺跡6
37	苗間 258-1の一部	(2009.4.13) 2009.4.15 ~ 30	120	個人住宅	縄文後期住居跡1	未報告
38	苗間字神明後 293-1,292-13	(2009.7.6 ~ 14)	265	個人住宅	中近世溝1	未報告
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5 ~ 12) 2009.8.24 ~ 9.1	378	共同住宅	中～近世溝2、ビット28、落とし穴1	未報告
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 18) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑1、中世地下式竈2、井戸1、壱穴式遺構1、土坑9	未報告
41	苗間字神明後 298-1,299-1の各一部	(2010.5.25 ~ 31) 2010.6.15 ~ 7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑1、中世の築立柱建物跡、方形壱穴式遺構16、溝5、木炭層1、ビット214、木調査(180㎡)	未報告
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し(掘後地)	未報告
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22) 2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ビット7、本調査	未報告

第48表 神明後遺跡住居跡一覧表 (単位:cm)

住居 番号	跡年	平面 形状	規模	跡		敷 地	地 質	遺 物	備考	説明	文獻
				長	幅						
1号	10K	円形	不明	4.0	4.0	○	○	○	○	中柱の跡の下	加納良三 大伴亮 菅原清
2号	10K	円形	不明	4.35	4.6	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
3号	10K	円形	不明	4.10	4.30	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
4号	10K	円形	不明	4.00	4.00	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
5号	10K	円形	不明	3.65	3.7	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
6号	10K	円形	不明	3.65	3.42	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
7号	10K	円形	不明	4.08	4.18	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
8号	10K	円形	不明	3.80	3.7	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
9号	10K	円形	不明	4.00	3.70	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
10号	10K	円形	不明	3.80	3.50	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
11号	10K	円形	不明	4.00	3.7	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
12号	10K	円形	不明	3.70	3.60	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
13号	10K	円形	不明	3.43	3.20	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
14号	10K	円形	不明	4.04	4.02	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
15号	10K	円形	不明	3.73	3.57	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
16号	10K	円形	不明	3.58	3.57	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
17号	10K	円形	不明	3.88	3.57	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
18号	10K	円形	不明	4.08	4.00	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
19号	10K	円形	不明	4.78	4.48	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
20号	10K	円形	不明	4.73	4.65	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
21号	10K	円形	不明	3.7	3.53	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
22号	10K	円形	不明	4.06	3.53	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
23号	10K	円形	不明	3.7	3.23	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
24号	10K	円形	不明	3.7	3.35	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
25号	10K	円形	不明	3.80	4.00	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清
26号	10K	円形	不明	3.65	4.00	○	○	○	○	土柱の跡	加納良三 菅原清



第97図 神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500)

(2) 遺構と遺物

【溝1】溝1は調査区南端、東西方向に位置する。井戸等は溝の埋没後に掘削されている。

溝2は調査区北側北西から南東方向に位置する。断面形態は深い角形、底はローム塊主体の土層である。根切り溝の様相を呈する。

溝4、6は溝2から分派するように平行する。溝5は調査区北端、道路と平行する東西方向に位置する。

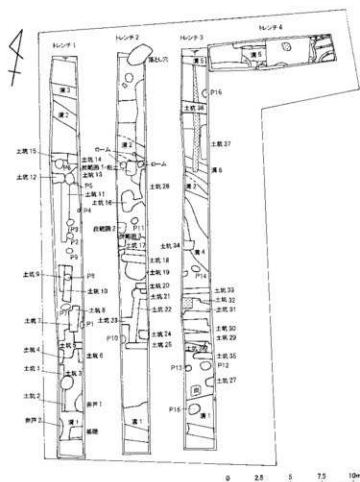
【落とし穴】調査区北端に位置する。長軸方位はN-36°-Eである。下層はローム主体の土で埋る。

【井戸】井戸1、2とも調査区南西部に位置し、溝1埋没後に掘削されている。

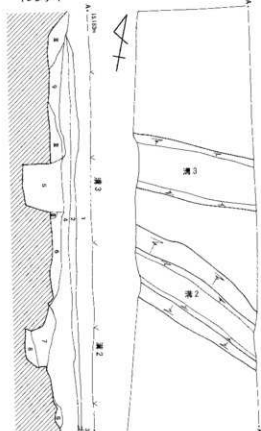
【土坑】ほとんどの土坑は長方形、断面角形で方位も南北か東西である。イモ類を貯蔵するための「イモビツ」と思われる。

第49表 神明後遺跡第33地点遺構一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	直線12m ⁺ 、断面V字形	180 ~ 250	25 ~ 80	42 ~ 67	土1、2と井1、2はP15より新
溝2	直線14m ⁺ 、断面L字形	80 ~ 108	25 ~ 35	48	根切り溝、ローム塊主体
溝3					土38に変更
溝4	直線5.6m ⁺ 、a断面直線状、b断面L字形	70 ~ 62 ~ 74	28 ~ 38	31	二段(a、b)に分かれる
溝5	直線12m ⁺ 、断面浅いU型状	150 ~	100 ~	24	道路際と並行する
溝6	直線2m ⁺ 、断面浅いU型状	60 ~ 90	35 ~ 65	13	
落とし穴1	楕円形	200 × 124	150 × 28	176	下層はローム主体
井戸1	(円形)	(145) × (43)	×		未掘、踏跡出土
井戸2	(円形)	128 × (55)	×		溝1より新、未掘、踏跡出土
土坑1	(長方形、断面L)	(75) × (28)	(37) × (25)	27	溝1、土2より新、土3より新
土坑2	(長方形、断面L)	(185) × (45)	(85) × (34)	9	溝1より新、土1、3より新
土坑3	楕円形	95 × 78	66 × 62	40	土1、2より新
土坑4	(長方形、断面L)	120 × (50)	98 × (42)	14	
土坑5	十字形、断面L	235 × 75	215 × 62	15	土7より新
土坑6	(長方形、断面L)	105 × (24)	98 × (28)	8	
土坑7	長方形、断面L	163 × 52	155 × 42	10	土5、8より新
土坑8	長方形、断面L	160 × 58	145 × 47	8	土7より新
土坑9	長方形、断面L	203 × (33)	190 × (28)	11	土10より新
土坑10	長方形、断面L	238 × 50	275 × 45	17	土9より新
土坑11	長方形、断面L	460 × 50	450 × 37	25	P2、3より新
土坑12	(長方形、断面L)	(100) × 90	(95) × 65	30	
土坑13	(楕円形)	130 × (60)	105 × (50)	30	P5より新
土坑14	長方形、断面L	(85) × 90	(85) × 65	10	
土坑15	(長方形、断面L)	(150) × 65	(50) × 52	10	P6より新
土坑16	長方形(T字形)溝部分	172 × 90	145 × 68	14	
土坑17	(長方形、断面L)	(155) × 95	(155) × 55	59	土18より新
土坑18	長方形、断面L	180 × 68	160 × 57	40	土17、19より新
土坑19	長方形、断面L	148 × 128	48 ×	34	土18、20より新
土坑20	(長方形、断面L)	(66) × 45	(65) × 35	26	土19より新
土坑21	(長方形、断面L)	(111) × 58	(100) × 42	24	土22より新
土坑22	長方形、断面L	435 × 55	×	42	土23より新、土21より新
土坑23	(長方形、断面L)	(72) × 48	(70) × 35	11	土22より新
土坑24	(長方形、断面L)	(62) × 57	(60) × 48	28	溝1、土2より新、土26より新
土坑25	(長方形、断面L)	(168) × 40	×		溝1、土2より新、土27より新
土坑26		(350) × (30)	(350) × 25	29	溝2より新
土坑27	長方形	(57) × 72	(45) × (50)	12	
土坑28	長方形	(165) × 50	×		
土坑29	(長方形、断面L)	(200) × 60	×	38	30
土坑30	(長方形、断面L)	(190) × 80	×	42	29
土坑31	(長方形、断面L)	(60) × 70	×	40	23
土坑32	(長方形、断面L)	(200) × 100	×		
土坑33	(長方形、断面L)	(200) × 45	×	40	10
土坑34	(長方形、断面L)	(80) × 70	×		46
土坑35	(長方形、断面L)	(150) × 50	×	15	65
土坑36	(長方形、断面L)	(200) × 80	×	60	44
土坑37	(長方形、断面L)	280 × (65)	265 × (58)	4	
土坑38	長方形	(200) × 85	(200) × 65	40	田溝3
P1	(円形)	(55) ×	(40) ×	47	
P2	楕円形	52 × 40	38 × 30	50	土11より新
P3	楕円形	50 × 48	31 × 30	39	土11より新
P4	楕円形	38 × 30	12 × 10	32	
P5	楕円形	85 × 60	32 × 22	60	土13より新
P6	円形	68 × 67	40 × 33	45	土15より新
P7	楕円形	78 × 50	18 × 30	43	斜向ビット
P8	楕円形	58 × 50	42 × 30	50	
P9	円形	52 × 50	38 × 38	33	
P10	楕円形	62 × 47	23 × 15	52	
P11	楕円形	62 × 48	32 × 24	43	
P12	楕円形	73 × 68	48 × 50	38	
P13	円形	50 × (45)	10 × 6	62	
P14	楕円形	46 × 42	13 × 10	61	
P15	楕円形	105 × 80	25 × 12	88	溝1より新
P16	(円形)	52 × (35)	38 × (28)	24	
埃籠四1	楕円形	115 × 82	×		
埃籠四2	(楕円形)	95 × (65)	×		
埃籠四3		90 ×	×		



トレンチ1



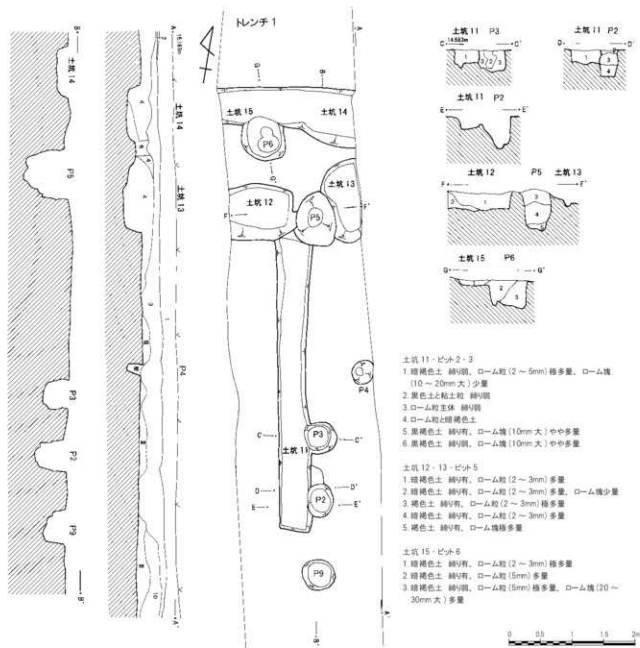
トレンチ1

I 暗褐色土 包含層

II ローム地山

- 1 表土 現在家屋の基礎 締り悪い、砂利、下層には炭化層
- 2 表土 現在家屋の基礎 締り悪い、ローム粒と褐色土混合
- 3 表土 暗褐色土 締り有、ローム粒 (3 ~ 5mm) 多く、ローム塊 (2 ~ 3cm 大) 含む
- 4 暗褐色土 締り有、ローム粒 (3 ~ 5mm) 多く、土坑 13 - 14 の土、土坑 13 は埋没
- 4' 締り有
- 5 暗褐色土 締り有、ローム粒 (3 ~ 5mm) 多く、ローム塊 (2 ~ 3cm 大) 少し含む
- 6 暗褐色土 締り有、ローム粒 (3 ~ 5mm) 極多く、ローム塊 (1cm) 多く、一度掘り返されてい
- 7 暗褐色土 締り有、5層と同じ、ローム塊無し、根切溝
- 8 ローム塊主体 締り有、根切溝
- 9 ローム主体 締り有、ロームが掘り返されたもの
- 10 もと表土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) やや多く、焼土粒・灰少量含む
- 11 黒褐色土 締り有、ローム粒 (2mm) 少し含む、他のがけと同じ
- 12 暗褐色土 締り有、根の痕跡、ガラス瓶出土
- 13 ローム主体 硬く締る、向かの基礎?
- 13' ほぼローム 少し土混入 やや強い
- 13'' 上とローム塊の混合
- 14 黒褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) 少量
- 15 黒褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) やや多量
- 16 黒褐色土 締りやや有、ローム粒 (1mm) やや多量、焼土粒 (1mm) 少量、砂利少量
- 17 黒褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) 少量、焼土粒 (1mm) 少量、燻跡出土
- 18 黒褐色土 締りやや有、ローム粒 (1mm) やや多量、砂利少量
- 19 黒褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量、砂利多量
- 20 黒褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量、砂利無し
- 21 黒褐色土 締り有、ローム粒 (5mm) 極多量
- 22 表土 暗褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) やや多量
- 23 表土 暗褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量

第98図 神明後遺跡第33地点遺構配置図 (1/300)、トレンチ1溝 (1/60)



土坑 1・2

1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (5～10mm大) 種多量
2. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 少量
3. 黒色土 締り弱、ローム粒 (5mm) やや多量

土坑 3

1. 暗褐色土
2. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 少量
3. 黒色土 締り弱、ローム粒 (5mm) やや多量

土坑 5・7・8

1. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 少量、ローム塊少量
2. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 少量
3. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (2～5mm) 種多量

土坑 9・10

1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 少量
2. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 多量
3. 黄褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) ローム塊少量

ピット 2

1. 黒色土 締り弱、白色粘土混入、ローム粒 (5mm) 多量
2. 褐色土 締り弱、ローム粒と褐色土混入
3. 暗褐色土 締り弱、ローム塊 (20～30mm大) 多量

土坑 11・ピット 2・3

1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2～5mm) 種多量、ローム塊 (10～20mm大) 少量
2. 黒色土と粘土粒 締り弱
3. ローム粒主体 締り弱
4. ローム粒と暗褐色土
5. 黄褐色土 締り弱、ローム塊 (10mm大) やや多量
6. 黄褐色土 締り弱、ローム塊 (10mm大) やや多量

土坑 12・13・ピット 5

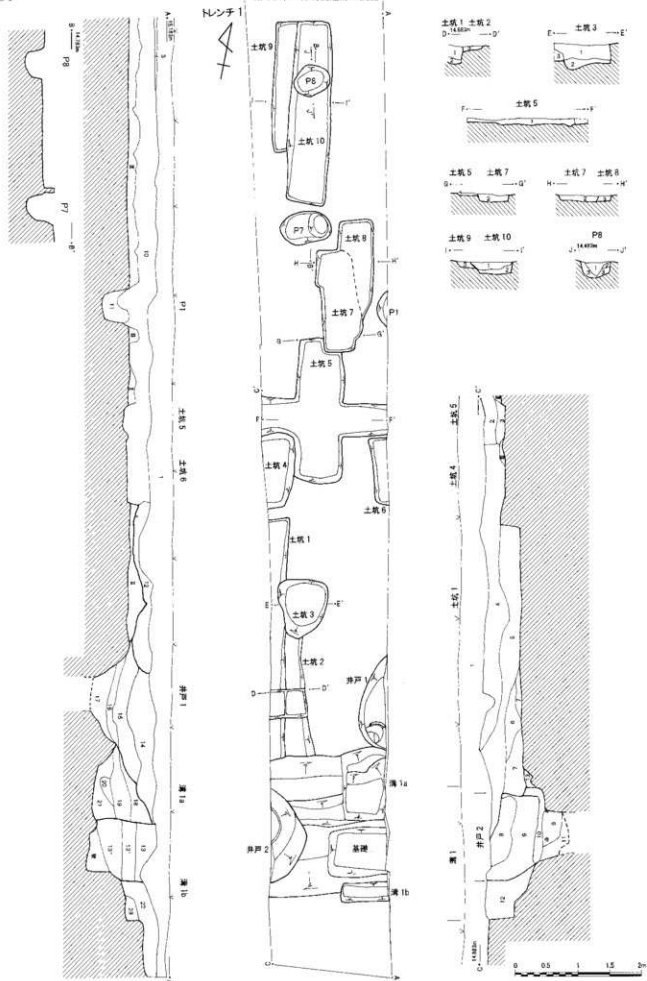
1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 多量
2. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 多量、ローム塊少量
3. 褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 種多量
4. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 多量
5. 褐色土 締り弱、ローム塊多量

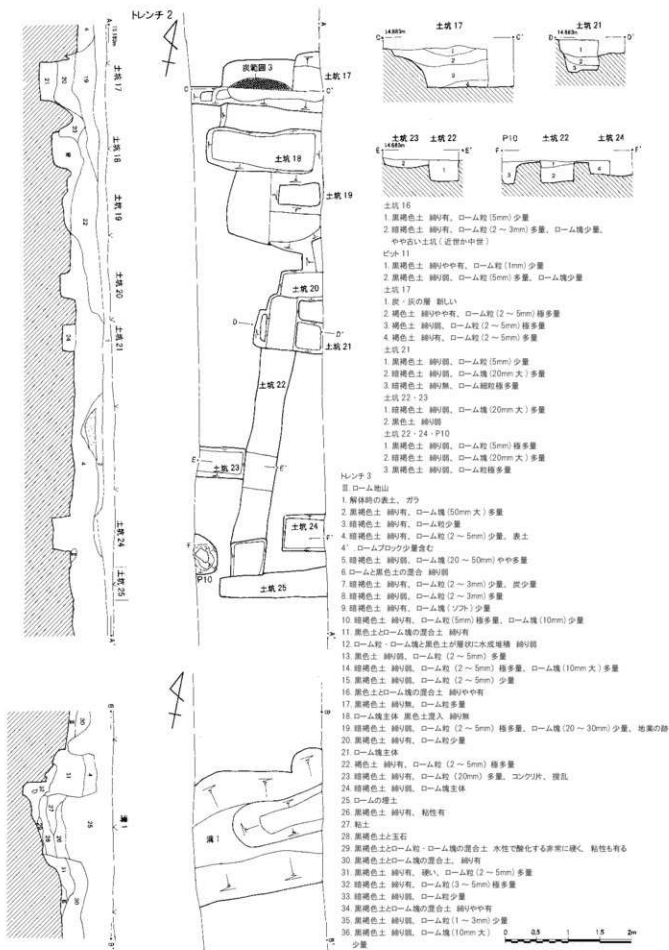
土坑 15・ピット 6

1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2～3mm) 種多量
2. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 多量
3. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 種多量、ローム塊 (20～30mm大) 多量

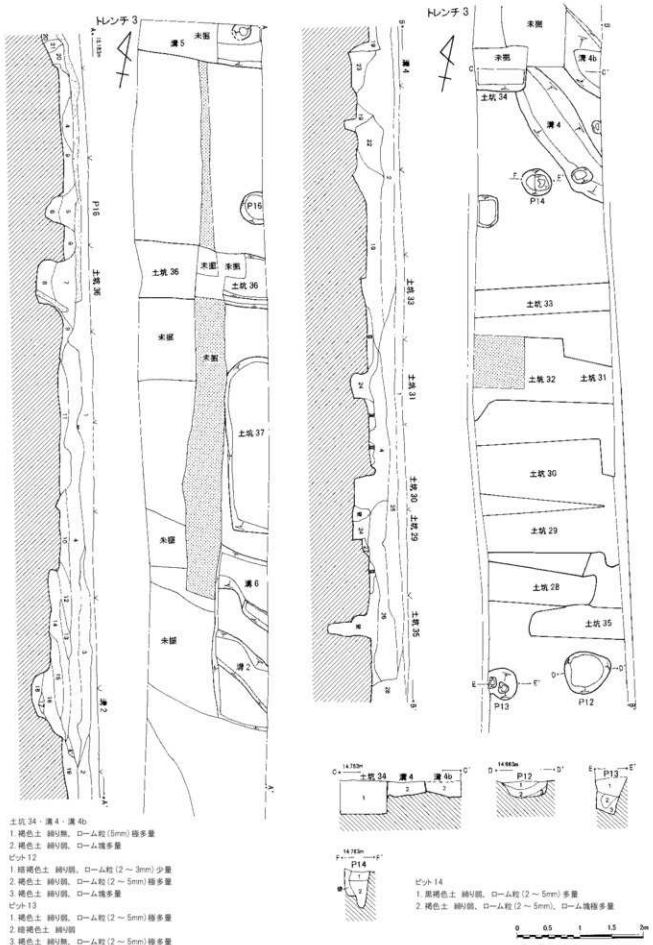


第99図 神明後遺跡第33地点トレンチ1溝・土坑・ピット (1/60)





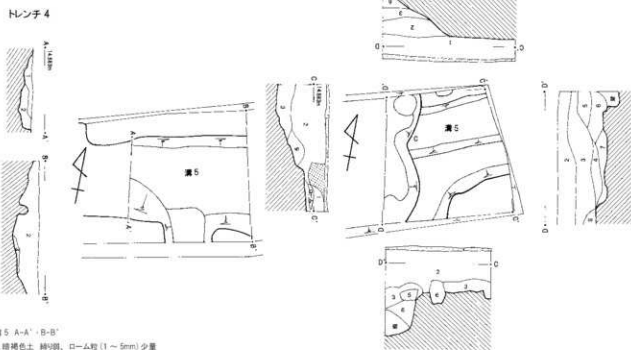
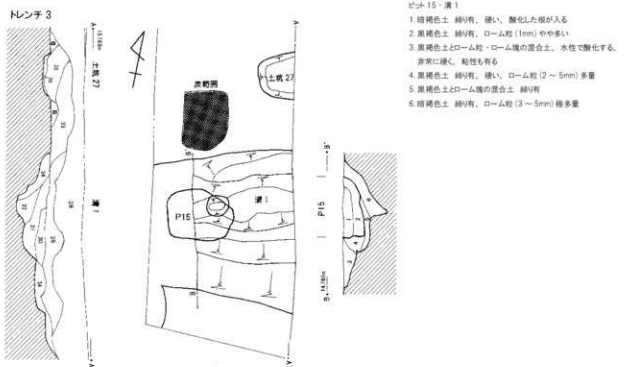
第102図 神明後遺跡第33地点トレンチ2溝・土坑・ピット(1/60)



- 土坑 34・溝 4・溝 4b
1. 褐色土 締り弱、ローム粒(5mm) 極多量
 2. 褐色土 締り弱、ローム塊多量
- ピット 12
1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒(2~3mm) 少量
 2. 褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm) 極多量
 3. 褐色土 締り弱、ローム塊多量
- ピット 13
1. 褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm) 極多量
 2. 暗褐色土 締り弱
 3. 褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm) 極多量

- ピット 14
1. 黒褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm) 多量
 2. 褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm)、ローム塊極多量

第 103 図 神明後遺跡第 33 地点トレンチ 3 溝・土坑・ピット (1/60)



溝 5 A-A'・B-B'

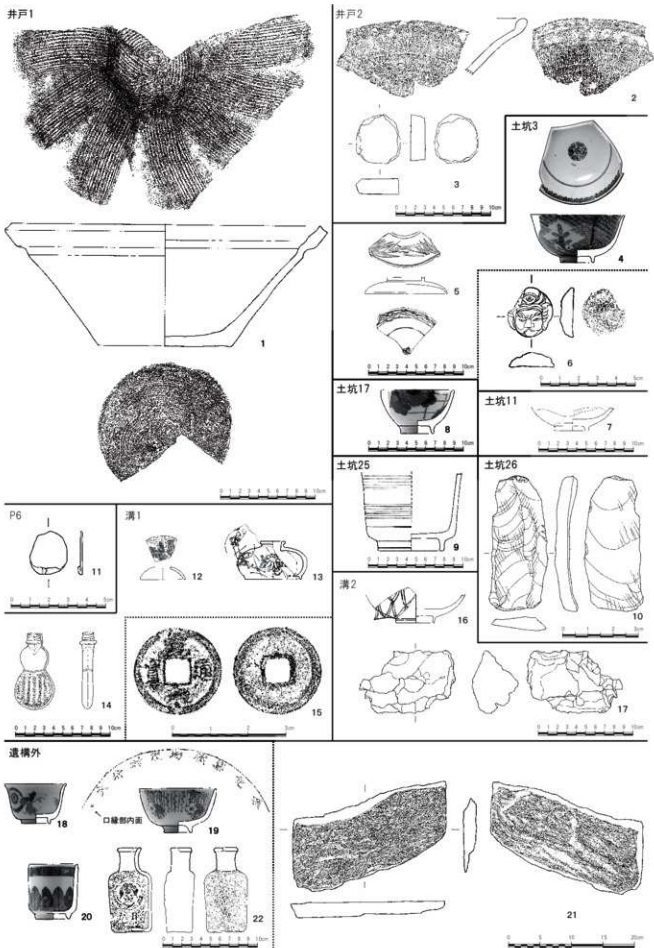
1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1~5mm) 少量
2. 黒褐色土 締り弱、ローム塊 (5cm 大) 多量
3. 黒褐色土 締り弱

溝 5 C-C'・D-D'

1. 家基礎工事の土、ローム、ガラ含む
2. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 少量
3. 黒褐色土 締り弱、ローム塊 (5cm 大) 多量
4. 褐色土 締り有、ローム塊、黒色土の混在土
5. ローム塊
6. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (1~5mm) 極多量
7. 暗褐色土 締りやや有、ローム粒 (1mm) 多量
8. 黄褐色土 締り有、ローム粒主体
9. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) 少量

0 0.5 1 1.5 2m

第104図 神明後遺跡第33地点トレンチ3・4溝・土坑・ピット (1/60)



第105図 神明後遺跡第33地点井戸・土坑・溝・ピット・遺構外出土遺物 (1/1・1/2・2/3・1/4・1/6)

第 50 表 神明後遺跡第 33 地点出土遺物観察表 (単位:cm)

探検 番号	発掘 番号	遺物名	種別・器種	口径・ 長さ	直径・ 幅	高さ・ 厚	技法/文様/その他	石材/指定 生産地	推定年代・ 時期	残存/備考
105 周	1	片戸 1	陶器・磁鉢	(32.2)	13.8	12.6	磁粒が織成り。底部右側に糸切り痕未調整。口縁と体部の境を削ぎで/器口 15 本単位 (4.5cm 幅) を見込みから放射状。左向きに重ね。見込みも同じ幅を重ねる/鉄粒/に赤い赤褐色/見込みは磨り減り。口縁内側も細かく打ち欠く/注№ 1 層 2	瀬戸・美濃	18c 第 3 期 中期	1/2 以上残存
	2	片戸 2	磁粒/陶器・磁鉢	—	—	—	磁粒が織成り/器口 7 本単位 (2.5cm 幅) を放射状。右向きに重ねる/に赤い赤褐色/鉄粒(〜6mm)極少量含む/注№ 2 層 2	—	近世	口縁部片
	3	片戸 2	瓦	5.4	4.8	1.6	残瓦の破片を片側に打ち欠く/灰色/注№ 2 層 1	—	近世〜	—
	4	土坑 3	磁器・茶碗	(10.0)	3.5	5.1	織成り/コバルト染付け。空黒染付け/注№ 3D	瀬戸・美濃	1880 年代〜	1/2 以上残存
	5	土坑 3	磁器・茶	(8.7)	11.0	—	織成り/コバルト染付け/注№ 3D	瀬戸・美濃	1850 年代〜	1/4 以上残存
	6	土坑 3	土製品・泥団子	2.6	2.3	0.6	空押し成形/裏面に指節圧痕。霞沙門天/褐色/砂粒少量含む/注№ 3D	—	1780 年代〜 1800 年代	一部欠
	7	土坑 11	陶器・碗	—	3.5	—	織成り/灰色。高台無縁/灰白色/注№ 1D	京都・信楽	19c	底部片
	8	土坑 17	磁器・茶碗	7.8	3.6	4.6	織成り/黒色と茶色の刷染施付/注№ 17D	—	1890 年代〜	口縁部一部欠
	9	土坑 25	磁器・香炉	—	17.0	—	織成り/コバルト染付け。タロム青緑。内面無縁/注№ 25D	肥前	近代	1/4 以上残存
	10	土坑 26	石器・縦長削片	5.43	2.38	0.92	重量 9.17g。縦長削片を素材とする。右側面に使用痕有/注№ 26D	百石	旧石器時代	完形
	11	P9	銅製品・海板	2.3	1.3	0.1	削片の薄板の端が折れた状態で見出/注№ P 6	—	—	—
	12	溝 1	銅器/合子蓋	(4.8)	—	—	(1.4) 空押し成形/口縁内側無縁。彫形文に染付け/注№ 1M1	肥前	1650〜 1670 年代	1/4 以上残存
	13	溝 1	磁器・水罐	2.6	6.0	4.0	上部と下部を空押し成形後、合体/内面無縁。曲頸直腹。コバルト染付け/注№ 1M カクラン	瀬戸・美濃	1870 年代〜	1/4 以上残存
	14	溝 1	ガラス製品/ 医療用薬瓶	1.5	3.1	7.3	空吹き成形(割型)/スクリュー使用/無色・透明。気泡有/蓋部型/注№ 1M カクラン	—	1920 年代	完形
	15	溝 1	鉄貨・銅貨	外径 2.33	厚径 0.65	0.10	重量 1.73 g 鋳造/質水通銀/新巻水/注№ 1M カクラン	—	1697〜 1781	完形
	16	溝 2	磁器・茶碗	—	(35.5)	—	織成り/染付け。二重刷目文。高台二重無縁。高台發付無縁/くろむんか手/注№ 2M2	肥前	1700 年代〜 1800 年代	底部片
	17	溝 2	鉄鉢/伊内洋	6.6	10.2	4.8	重量 156.5g スズ人がりがガラス粒に染織し。がらぎの埋り付着したもの/注№ 2M3	—	古代	伊壁〜伊壁
	18	遺構外	磁器・小鉢	(6.5)	3.0	4.2	織成り/コバルト染付けと緑色の刷染施付。傘と刷筋。高台發付無縁/注№ 1トレ 1	—	1890 年代〜	1/2 以上残存
	19	遺構外	磁器・茶碗	8.2	3.0	4.8	織成り/コバルト染付けの空黒施付。松竹梅。高台發付無縁/注№ 2トレ 1	—	1880 年代〜	完形
	20	遺構外	磁器・湯飲み碗	5.1	3.5	5.8	織成り/コバルト染付けの刷染施付。桜。高台發付無縁/注№ 2トレ 1	—	1890 年代〜	完形
	21	遺構外	石製品・板石	11.4	26.6	2.5	注№ 2トレ 1	瀬戸川岩	中世	1/4 以上残存
	22	遺構外	ガラス製品/ 一般用薬瓶	2.3	3.4	0.9	空吹き成形(割型)/コバルト粒。内側「表」彫刻。「人」彫刻。裏「山崎御国堂」の刷刻。無色・透明。気泡有/注№ 1トレ 2№ 1	—	1900〜 1920 年代	完形

Ⅲ 神明後遺跡第 34 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2007 年 12 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央北に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 4 月 30 日から同年 5 月 15 日まで行った。幅約 2 m のトレンチを 5 本、幅約 1.5 m のトレンチを 1 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、縄文時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで 40 cm と浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は原因者と発掘調査に係る委託契約を締結した上で 2008 年 5 月 16 日から同年 5 月 28 日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代の住居跡 1 軒、落とし穴 1 基、集石 3 基、中世以降の土坑、ピ

ットを検出した。

(市内遺跡群 5「神明後遺跡第 34 地点の本調査」参照)

Ⅳ 神明後遺跡第 35 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 6 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 8 月 1 日に行なった。幅約 1.5 m のトレンチを 3 本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、時期不明のピットを 1 基検出したが、その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。北側の斜面に向かって傾斜していき、70 cm 以上の盛土で造成されていた。確認面まで 130 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

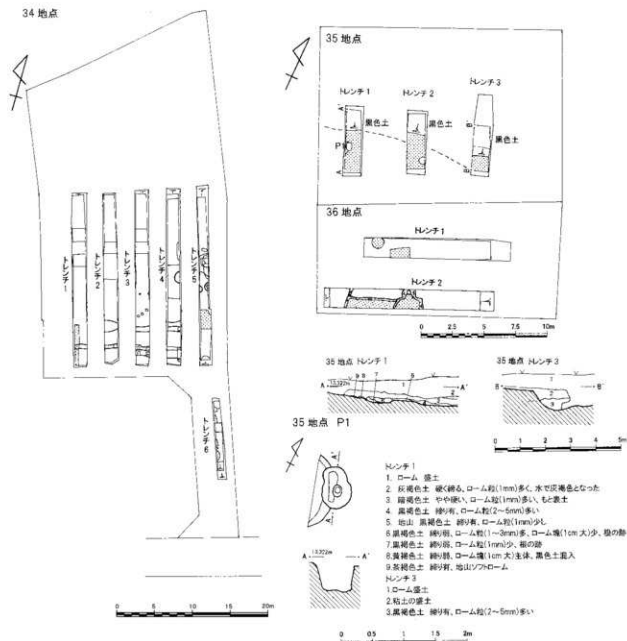
V 神明後遺跡第36地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年8月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年9月2日に行なった。幅約1.5

mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、黒褐色の遺構らしき範囲を検出したので調査したが、自然の窪みであった。その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで60～100cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第106図 神明後遺跡第34～36地点遺構配置図(1/500・1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

第14章 小田久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990年に最初の試掘調査が行なわれて以来、過去の調査では数点の縄土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。

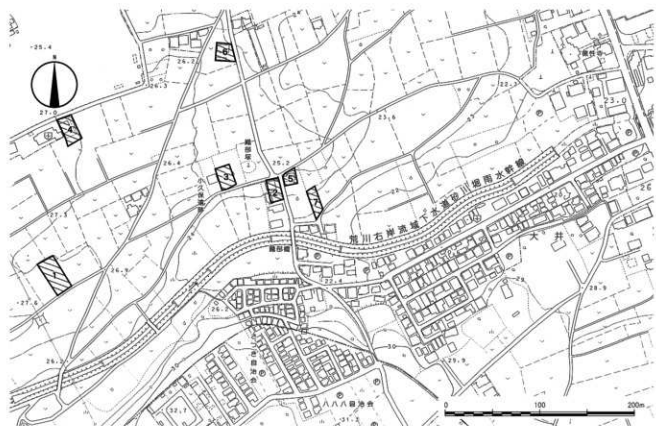
分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中世～近世である。

II 小田久保遺跡第7地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年3月3日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央南側に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

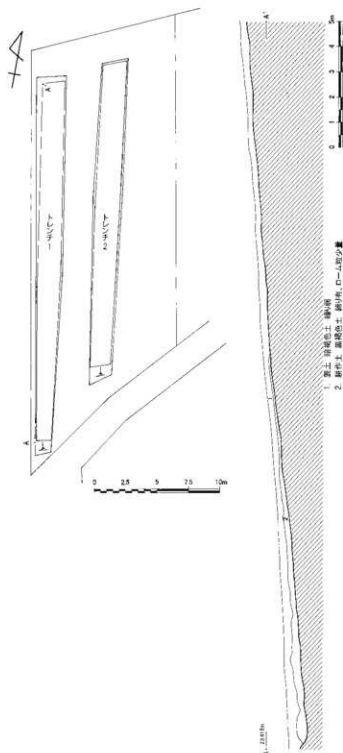
試掘調査は2008年5月19日から21日まで行なった。幅約2mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで30～80cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第107図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第51表 小田久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1223-3	1990.10.12 ~ 18	694	資材取場	遺構無し、縄文中期土器片	東部遺跡群XⅠ
2	大井 1249-1	1993.9.21 ~ 10.1	498	個人住宅	遺構無し、縄文中期土器片、石器	町内遺跡群Ⅲ
3	大井 1214-3	1994.6.7	330	個人住宅	遺構無し、縄文中期土器片、石器	町内遺跡群Ⅳ
4	大井 1185-5	(1997.6.24 ~ 26)	271	分譲住宅	土坑1	町内遺跡群Ⅶ
5	大井字西原 1023	(2003.8.18,19) 2003.8.20 ~ 9.2	165	個人住宅	縄文中期住居跡1	町内遺跡群ⅩⅡ
6	大井字小田久保 1207-5	2004.10.26 ~ 11.13	306	個人住宅	縄文中期住居跡1、集石土坑1、土坑2、ピット8	町内遺跡群ⅩⅢ
7	大井字西原 1023-9.8	(2008.5.19 ~ 21)	333	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群6



第108図 小田久保遺跡第7地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)

第15章 本村遺跡の調査

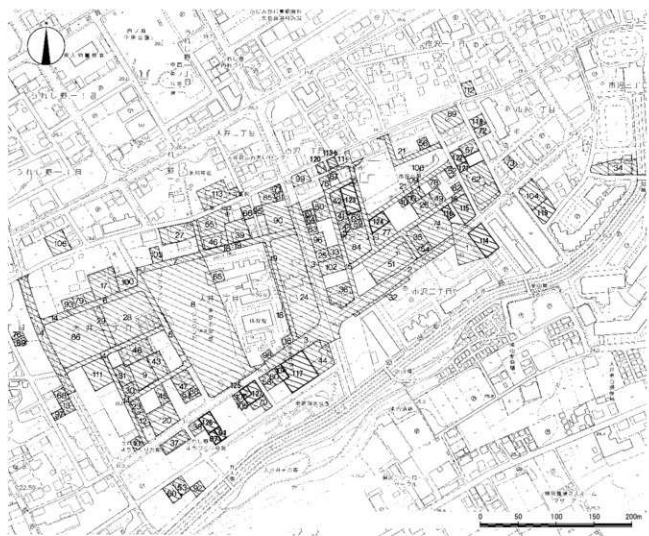
I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

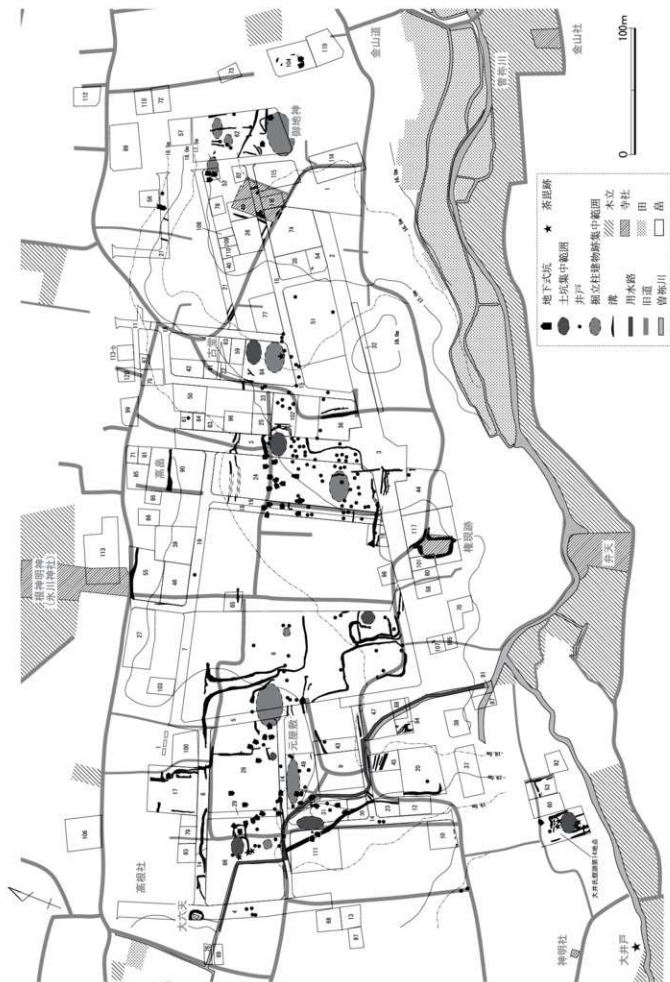
砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることが出来る。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2011年3月現在127地点で調査を行ない、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘建柱建物・方形竪穴状遺構・井戸・溝・楯列・地下式墳・茶毘跡等を多数検出している。



第109図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)



第110図 本村遺跡遺構分布図 (1/3,000)

II 本村遺跡第 119 地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 3 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東端に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 5 月 27 日から同年 6 月 4 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 5 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プラン多数を確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、土坑や地下式坑であった。遺構確認面まで 150 cm あるが、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

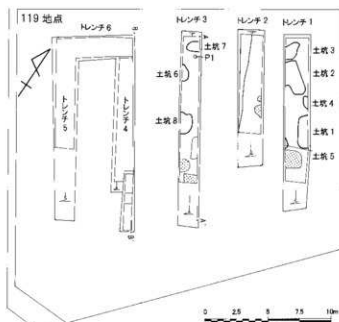
本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で 2008 年 6 月 4 日から同年 6 月 19 日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、中世以降の地下式坑 2 基、土坑 14 基、ピット 58 基を検出した。

(市内遺跡群 5「本村遺跡第 119 地点の本調査」参照)

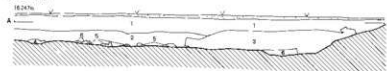
III 本村遺跡第 120 地点

調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 12 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央北側に立地し、隣接地では旧石器時代の石器群等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 12 月 18 日に幅約 1.5 m のトレンチを 1 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プラン多数を確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、溝状遺構（イモピツ）や柱穴であった。確認面まで 105 cm を測る。建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



トレンチ 3



トレンチ 3

1. 黒色土 盛土 硬く締る、ローム粒多量に含む、天地返し
2. 黒色土 盛土 締り有、天地返し
3. 盛土 ローム 天地返し
4. 褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)、ローム塊(10cm大)多量に含む、土質の土、やや新しい
5. ローム地山 ハーローーム
6. 黒褐色土 盛土 締り有、天地返し

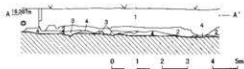
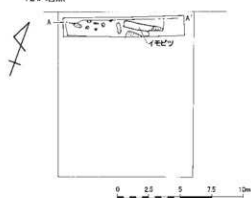
トレンチ 4



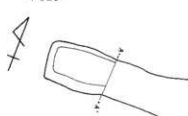
トレンチ 4

1. 黒褐色土 盛土 締り有、硬い、天地返し
2. 黄褐色土 盛土 締り有、硬い、ローム、天地返し

120 地点



イモビツ



1. 盛土 ローム、ガラス主体
2. 耕作土(元表土)暗褐色土 締り有、ローム粒(1~2mm)少量、炭粒少量
3. 黒褐色土 締り有、ローム粒(2~5mm)多量、黒褐色土(地山)塊少量、耕作の痕跡
4. 地山 締り有、黒褐色ローム

イモビツ

1. 黒褐色土 締り有、ローム塊(10~50mm大)多量

第111図 本村遺跡第119・120地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、溝状遺構(1/60)

第16章 東台遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24～26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

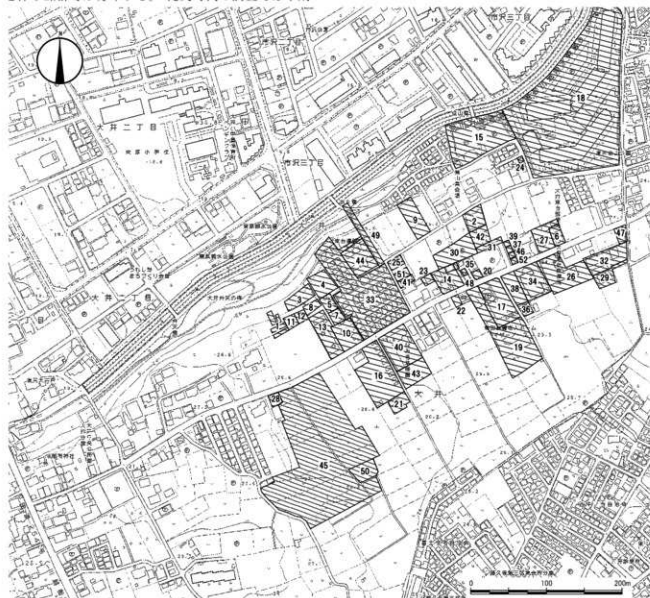
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅶ層～Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。縄文時代の調査では早期

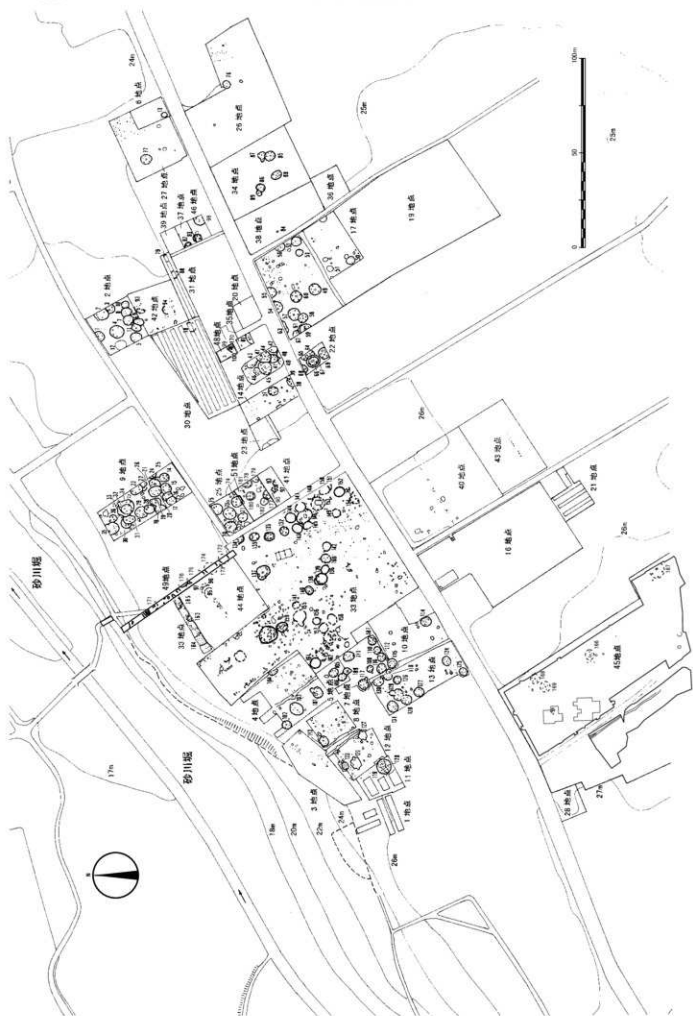
1軒、後期7軒、中期146軒、不明24軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2010年3月現在)。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第112図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第113図 東台遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第 53 表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981.		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	大井東台 640-7	1981.12.14 ~ 1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居跡 12、旧石器時代石器	東台遺跡群Ⅲ
3	大井東台 672	1982.5.19 ~ 6.15	666	宅地造成	伊穴 7、土坑 2、柱穴群	東台遺跡群Ⅳ
4	大井東台 671	1982.6.17 ~ 11.18	587	農地転用	旧石器エニツト、縄文中期住居跡 3、後期住居跡 1、集石 4、土坑 14、溝	東台遺跡群Ⅳ
5	大井東台	1983.7.25 ~ 8.9	195	町史編纂事業	縄文中期住居跡 2、土坑 1	東台遺跡
6	大井東台	1984.1.9 ~ 1.12		宅地造成	縄文中期住居跡 1	
7	大井東台 670-2	1984.5.15 ~ 6.13		共同住宅	縄文中期住居跡 4、後期住居跡 1	
8	大井東台 672	1984.8.18 ~ 9.21	345	町史編纂事業	縄文中期住居跡 1、伊穴 2、土坑 14	東台遺跡Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25 ~ 1985.2.15	1,000	駐車場造成	旧石器遺構、縄文中期住居跡 22、後期住居跡 1、伊穴、ピット群	大井町史資料 1
10	大井東台 670-1	1985.10.1 ~ 11.25	896	住宅建設	縄文中期住居跡 5、土坑 5	東台遺跡群Ⅵ
11	大井東台 673	1986.1.14 ~ 3.20	667	宅地造成	縄文中期住居跡 2、集石土坑 3、土坑 1、ピット	東台遺跡群Ⅵ
12	大井東台 673	1987.5.6 ~ 6.26	330	転地直し	縄文早期住居跡 1、土坑 18、平安時代住居跡 2、溝 1	東台遺跡群Ⅶ
13	大井東台 670-6	1988.1.14 ~ 2.27	971	倉庫建設	縄文中期住居跡 9、集石 1、土坑 9、ピット 20	東台遺跡群Ⅶ
14	大井東台 649-16 他	1988.1.27 ~ 2.24	735	住宅建設	縄文中期住居跡 12、屋外埋蔵 1、集石土坑 1、土坑 8、ピット 38	東台遺跡群Ⅷ
15	大井市沢 577-1 他	(1989.10.17 ~ 11.10) 1989.11.17 ~ 1990.8.1	700	住宅建設	落とし穴 1、木炭炭 1、粘土探窟 2、奈良・平安土器	東台遺跡群Ⅸ
16	大井 713-4.5	(1990.8.1 ~ 4)	3,048	資材貯留施設	縄文中期住居跡 1、土坑 1	東台遺跡群Ⅹ 1
17	大井 621-1	(1990.9.5 ~ 12) 1990.10.9 ~ 12.27	1,470	診療所建設	縄文中期住居跡 8、土坑 30、ピット 94、楕円	東台遺跡群Ⅹ 1
18	大井 529-1.588	1991.3.11 ~ 5.20 1992.2.24 ~ 1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器遺構、石器集中 17、落とし穴 1、整形製鉄炉 7、木炭炭 9、探窟坑 4、土坑 9、溝、楕円、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	大井 621	(1992.5.31 ~ 6.7)	4,489	特養施設	縄文中期住居跡 8	東台遺跡群Ⅺ
20	大井 649-27	1992.3.30	5	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内遺跡群Ⅺ
21	大井 713-11.12	1992.3.7 ~ 11	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅺ
22	大井 651-6	(1994.5.10 ~ 11) 1994.5.30 ~ 7.30	146	店舗建設	縄文中期住居跡 6、土坑 1	調査報告書 13 集
23	大井 649-12.13	(1995.6.23 ~ 27)	285	個人住宅	縄文中期住居跡 2	町内遺跡群Ⅻ
24	大井 634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内遺跡群Ⅻ
25	大井 648-13.14	1995.10.22 ~ 12.16	296	個人住宅	縄文中期住居跡 5、後期住居跡 1、袋状土坑 1、土坑 10、ピット 6	町内遺跡群Ⅻ
26	大井東台 601-1.4.5	(1996.11.6 ~ 18) 1997.1.14 ~ 3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居跡 1、土坑 3、落とし穴 1、ピット 24	調査報告書 13 集
27	大井 600-1	(1997.2.19) 1997.2.19 ~ 3.14	965	個人住宅	縄文中期住居跡 1、伊穴 1、土坑 1、落とし穴 1、ピット 44	町内遺跡群Ⅼ
28	大井東台 710-4	(1997.3.17 ~ 19)	231	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅼ
29	大井東台 606-3	(1998.2.27 ~ 3.3) 1998.3.4 ~ 5	500	個人住宅	縄文早期伊穴 9、ピット 2	町内遺跡群Ⅼ
30	大井 640-1	(1998.11.4 ~ 12)	1,330	駐車場	縄文中期住居跡 1、屋外伊穴、ピット	町内遺跡群Ⅼ
31	大井 630-3.640-8	(1999.5.7 ~ 21)	186	道路築造	縄文中期住居跡 2	町内遺跡群Ⅼ
32	大井 603-1	(2000.8.4 ~ 9)	92	製生工場	ピット 3	町内遺跡群Ⅼ
33	大井 662-1	(2000.8.4 ~ 8) 2000.8.10 ~ 2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群 4、礎石 4、縄文中期住居跡 30、後期住居跡 4、独立柱建物跡 1、伊穴 14、集石土坑 4、他	町内遺跡群Ⅼ
34	大井東台 624-2	(2002.3.12 ~ 25) 2002.3.26 ~ 5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居跡 5、土坑 11、ピット 16	町内遺跡群Ⅼ 1
35	大井東台 649-31	(2001.9.6 ~ 8)	48	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内遺跡群Ⅼ 1
36	大井東台 614	(2001.10.15 ~ 11.29)	272	倉庫建設	ピット 5、土器片	町内遺跡群Ⅼ 1
37	大井東台 626-12	2001.10.12 ~ 11.5	100	個人住宅	縄文中期住居跡 2、ピット 1	町内遺跡群Ⅼ 1
38	大井東台 614-3	(2002.1.28 ~ 2.15)	787	駐車場	縄文中期住居跡 1、整伏状遺構 1、集石土坑 2、土坑 2、ピット 2	町内遺跡群Ⅼ 1
39	大井 626-8	(2002.6.3 ~ 20)	100	個人住宅	ピット 3、縄文土器片、石厨	町内遺跡群Ⅼ 2
40	大井 661	(2003.10.6 ~ 11.4)	1,875	幼稚園	土坑 6、ピット 10、楕円	町内遺跡群Ⅼ 2
41	大井東台 648-4	(2004.5.11 ~ 14)	182	個人住宅	縄文中期住居跡 3、集石 1、土坑 1、屋外ピット 1	町内遺跡群Ⅼ 2
42	大井 640-4	(2004.9.7 ~ 17)	515	教会建築	縄文中期住居跡 2、落とし穴 1、土坑 3、ピット 20	町内遺跡群Ⅼ 2
43	大井東台 661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ピット 4	町内遺跡群Ⅼ 2
44	大井東台 664-15	2005.12.8 ~ 28	200	個人住宅	縄文中期住居跡 1、後期住居跡 2、土坑 5、ピット 9	町内遺跡群Ⅼ 2
45	大井東台 710-1 711-1,717-1,717-2	(2006.9.4 ~ 6) 2006.9.15 ~ 28 2006.9.19 ~ 20)	7,971	小学校建設	縄文中期住居跡 1、後期住居跡 2、土坑 5、ピット 10	町内遺跡群Ⅼ 3
46	大井東台 626-11	(2006.9.4 ~ 6) 2006.9.15 ~ 28	100	個人住宅	縄文中期住居跡 2、集石 2、土坑 1	町内遺跡群Ⅼ 3
47	大井東台 602-4.602-5	(2006.9.19 ~ 20)	320	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅼ 3
48	大井東台 649-21	(2007.1.16 ~ 26)	60	個人住宅	縄文中期住居跡 3	町内遺跡群Ⅼ 3
49	大井東台 646、647-1、665	(2008.1.28 ~ 30、2.4 ~ 19) 2008.1.31 ~ 2.1	174	通学路築造	縄文時代中期～後期住居跡 1 検出・5 を確認、屋外埋蔵 1、粘土探窟坑 1、土坑 1、ピット 1、溝 6	町内遺跡群Ⅼ 4
50	大井東台 716-1 の一部	2008.7.14 ~ 22	646	東台小学校 プール	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅼ 6
51	大井東台 648-2	(2009.3.10 ~ 18) 2009.3.18 ~ 5.7	296	個人住宅	縄文時代中期住居跡 6、土坑 4、ピット 14、縄文土器、石器	町内遺跡群Ⅼ 6
52	大井東台 626-8.14	2009.5.12 ~ 19	100	分譲住宅	縄文時代中期住居跡 2 確認	未報告

II 東台遺跡第50地点

(1) 調査の概要

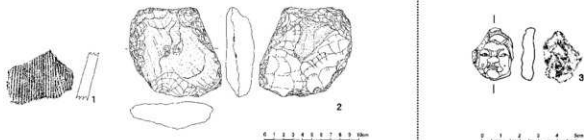
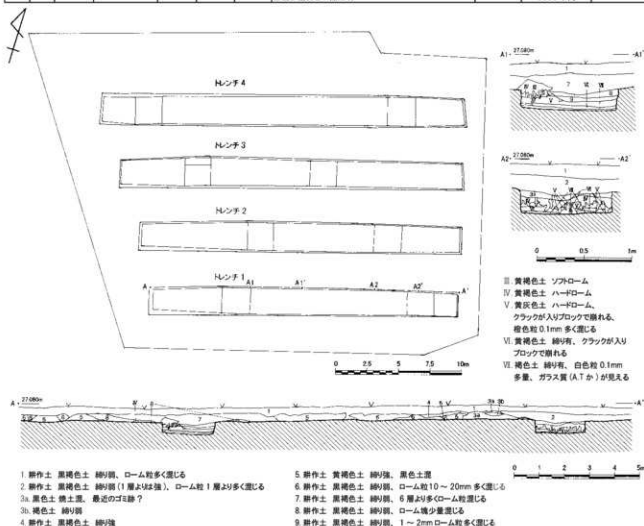
調査は小学校建設に伴うもので、ふじみ野市長より2008年4月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西端に位置しているため、東台小学校建設準備室と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は2008年7月14日から同年7月22日

まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかった。引き続き旧石器時代の確認調査を行なうため2×2mのグリッドを8ヶ所設定し、ローム層を深掘りしていったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで50cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

第55表 東台遺跡第50地点出土土物観察表 (単位cm)

図号 番号	遺構名	種類・部類	口径・長	底径・幅	高さ・厚	技法/文様/その他	石材/ 鑑定生産地	推定年代・時期	現存/備考
114 図	1	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形/糸織を縦に染文/砂粒少量含む/注No.H	縄文中期後半	断面片
	2	遺構外	右器・打製石斧	(9.40)	9.73	2.98	重量 350.97g/両極端打技法/注No.H	縄文時代	基部欠
	3	遺構外	土製品・断面片	2.8	2.2	0.6	型押成形/阿形縁?。裏面に微細土層/棕色/砂粒少量含む/注No.H	1790年代~ 1890年代	一部欠



第114図 東台遺跡第50地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/80)、出土遺物 (1/4・1/2)

Ⅲ 東台遺跡第51地点

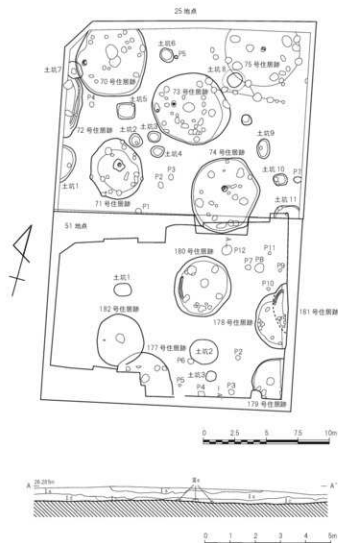
(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2009年2月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では縄文時代の住居跡等多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年3月10日から同年3月18日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なっ

たところ、縄文時代の遺構・遺物を確認した。遺構確認面まで40～50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、住宅建設部分については本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

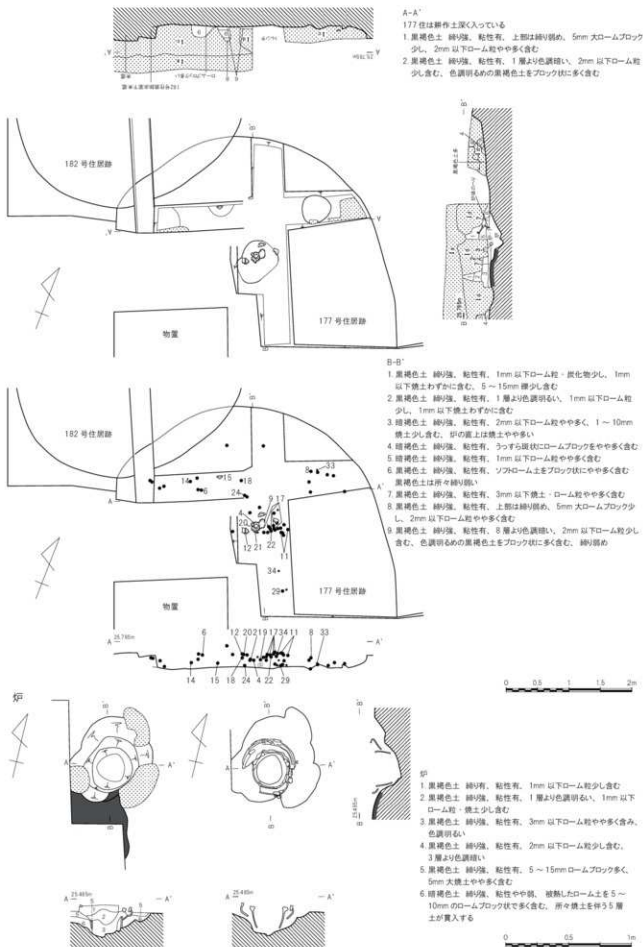
本調査は2009年3月18日から同年5月7日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を重機で表土除去後、調査を行なった。調査の結果、縄文時代の住居跡6軒、土坑、ピットを検出した。写真撮影・全測図作成・平板および遺り方測量による遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋戻し、調査を終了した。



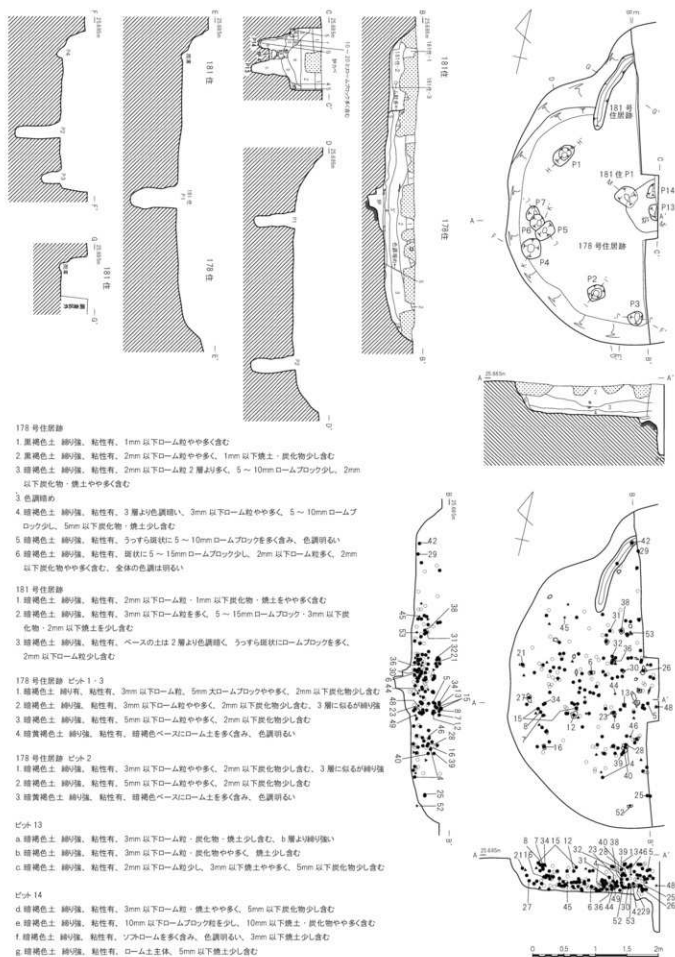
トレンチ

- Ⅰ a 黒褐色土 粘りやや弱、粘性やや弱、ローム粒2mm以下少し、色調やや灰色味あり、部分的に炭化物・ロームブロックを含む
- Ⅰ a' Ⅰ aよりロームブロック多く含む
- Ⅰ b 黄褐色土 粘り強、粘性有、ローム土主体、30mm以下ロームブロック多量、100mm以下硬質の黒褐色土ブロックを少し含む
- Ⅰ c 黒褐色土 粘り強、粘性有、30mm以下ロームブロックをやや多く含む
- Ⅰ d 黒褐色土 粘り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、10mm以下炭化物・礫少し含む、住居跡付近は暗褐色土ブロック20mm以下含む
- Ⅱ a 暗褐色土 地山層砂層

第115図 東台遺跡第51地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



第 116 図 東台遺跡第 51 地点 177 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30)



第117図 東台遺跡第51地点178・181号住居跡・遺物出土状況図(1/60)

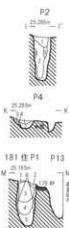
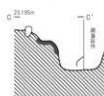
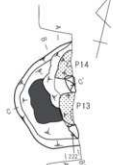
炉



石材検出状況

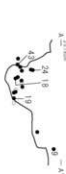


完備状況

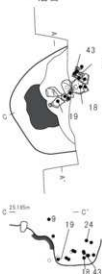


0 0.5 1 1.5 2m

一層目



二層目



0 0.5 1m

178号住居跡 石圍い炉

- 暗褐色土 砂り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土をやや多く、炭化物少し含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、しみ状の黒褐色土、5mm以下焼土やや多く含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下焼土多く、炭化物少し含む、増熱したローム粒も多く含む、黄褐色味を呈する
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、10mm大焼土ブロック少し、2mm以下焼土・ローム粒やや多く含む（炭化物のような色調）
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、2mm以下ローム粒多く、焼土やや多く含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土をやや多く、炭化物少し含む、1層に比べ砂り強い、石材を支える土
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、5mm以下ローム粒、3~10mm赤褐色土を多く含むやや黒色味がある
- 黒褐色土 5mm以下焼土やや多く含む、2mm以下ローム粒少し含む

178号住居跡 ビット4

- 暗褐色土 砂り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、1mm以下炭化物・焼土少し含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、暗褐色土ベースで、周りに50mm以下ロームブロック多く含む

178号住居跡 ビット5

- 暗褐色土 砂り強、粘性有、5~10mmロームブロック少し含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、周りにローム土やや多く、15mm大塊少し含む
- 暗黄褐色土 砂り強、粘性有、暗褐色土ベースに15mm以下ロームブロック多く含む

178号住居跡 ビット6

P1の3層に似る（色調強い）

178号住居跡 ビット7

- 暗褐色土 砂り強、粘性有、5~20mmロームブロック多く含む

181号住居跡 ビット1

- 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム土を含み、色調明るい、2mm以下ローム粒多く、焼土・炭化物少し含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、ローム土を含み、色調明るい、3~10mm焼土少し含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、3mm以下ローム粒・5~10mmロームブロック少し含む
- 暗褐色土 砂り強、粘性有、3層より色調暗め、3mm以下ローム粒やや多く含む

第118図 東台遺跡第51地点 178号住居跡炉 (1/30)、ビット (1/60)

(2) 遺構と遺物

【177号住居跡】調査区南端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。北側で176号住居跡と重複するが、本住居跡埋没後に176号住居を構築している。

家屋の建築予定地外のため本調査をせず、プラン確認後、深さや炉の位置確認のため幅30cmのサブトレントを十字に設定して調査した。

住居全体の1/3～1/2程度の検出で、南側は調査区域外である。平面形態は楕円形を呈すると思われる。東西405cm、確認面からの深さ27cmである。

炉は住居の中央やや北寄りに位置し、平面形態は楕円形である。炉は北側に土器を二重に埋設して土器囲い炉とし、南側は火床面で僅かにくぼみ、焼けて赤化している。炉体土器は内側に深鉢、外側に浅鉢を使用している。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。径40～50cmのビットプランを3カ所検出した。

出土遺物は点上げ遺物、一括遺物の総計701点中、土器495点、石器15点、礫191点である。時期の明確な破片では中期前半が67点で最も多い。

時期は炉体土器から勝坂末期である。

【178号住居跡】調査区東端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。北側で181号住居跡と重複するが、181号住居埋没後に本住居を構築している。

住居全体の1/2程度の検出で、東側は調査区域外である。平面形態は楕円形を呈すると思われる。南北430cm、確認面からの深さ49cmである。

炉は住居のほぼ中央に位置し、平面形態は楕円形である。炉は石囲い炉で、中央の火床面は深く窪み、焼けて赤化している。礫は炉の西側で18点検出したが、東側は新しいビットのP13、14により壊れているため残っていない。また、炉は181号住居跡の柱穴と思われるビットの埋没後に構築している。

ビットは7基検出し、P1とP2が主柱穴と思われる。床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物は細片が多く、住居全体に出土する。点上げ遺物、一括遺物の総計1,716点中、土器902点、石器54点、礫760点である。時期の明確な破片では中期後半が76点で最も多い。

時期は出土遺物から加曾利EⅡ期である。

第56表 東台遺跡第51地点178号住居跡ビット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	39 × 23	8 × 8	67	主柱穴
P2	楕丸長方形	38 × 23	8 × 8	77	主柱穴
P3	楕円形	25 × 20	14 × 7	34	主柱穴
P4	円形	33 × 31	12 × 10	15	主柱穴、P11より新
P5	楕円形	32 × 20	9 × 7	23	P6・7より旧
P6	円形	24 × 22	11 × 7	26	P7より旧、P5より新
P7	円形	23 × 22	7 × 5	18	P5・6より新

【179号住居跡】調査区中央に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。

住居全体の2/3程度の検出で、南東側は調査区域外である。平面形態は円形を呈すると思われる。確認面からの深さ31cmである。

炉は住居の中央あたりに位置し、平面形態は楕丸形である。炉は幅5cm程度の輪状の窪みが認められ、礫3点が残っていることから、本来は石囲い炉で、礫が抜き取られたと思われる。中央の火床面は浅く窪み、焼けて赤化している。

第57表 東台遺跡第51地点179号住居跡ビット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	40 × 29	13 × 9	22	
P2	楕円形	45 × 30	15 × 12	30	
P3	楕円形	21 × 16	5 × 5	16	

ビットは3基検出した。床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は点上げ遺物、一括遺物の総計568点中、土器275点、石器11点、礫282点で、礫が多い。時期の明確な破片では中期後半が10点で最も多い。

時期は出土遺物から加曾利EⅡ期である。

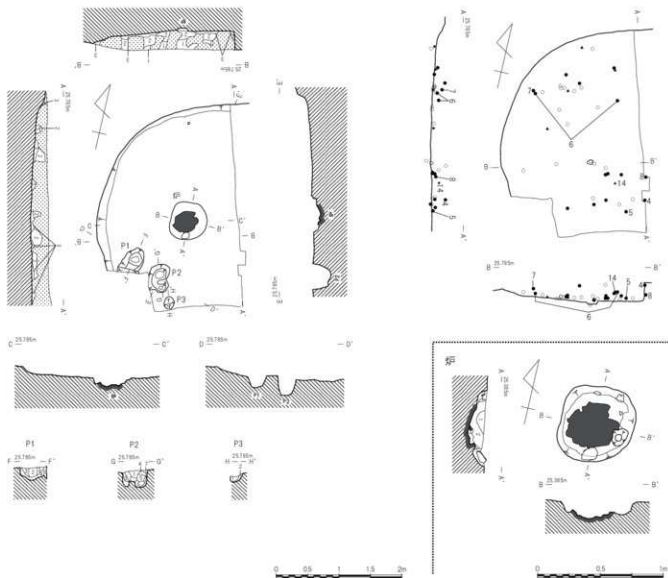
【180号住居跡】調査区南東端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。

平面形態は楕円形を呈し、長軸482cm、短軸440cm、確認面からの深さ42cmである。

炉は住居の中央やや北寄りに位置し、平面形態は楕円形である。炉は中央に土器を埋設する土器囲い炉である。土器の東側には土器破片が残る、埋設土器が二重になっている。お土器外側の地面は、被熱し硬化している。

周溝は南西部のP4～P5の間にのみある。

ビットは12基検出した。P1～P5が主柱穴で、P11もP4より古い主柱穴である。柱穴間は150～



179号住居跡

1. 暗褐色土 鈣質有。2mm以下ローム粒やや多く、3mm以下焼土わずかに含む
2. 暗褐色土 鈣質有。1層より色調暗く、2mm以下ローム粒少し、2mm以下焼土・炭化物わずかに含む。炉の直上は3mm以下焼土やや多い
3. 暗褐色土 鈣質有。うっすら斑状に15mm以下ロームブロックをやや多く含む、3mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物わずかに含む

ピット1

1. 暗褐色土 鈣質有。2mm以下ローム粒少し含む、2層より色調暗い
2. 暗褐色土 鈣質有。1mm以下ローム粒少し、1mm以下炭化物・焼土わずかに含む
3. 暗褐色土 鈣質有。3mm以下ローム粒やや多く含む
4. 暗褐色土 鈣質有。20mm以下ロームブロック多く含む、色調暗い

ピット2

1. 暗褐色土 鈣質有。2mm以下ローム粒・5mm大ハーフロームブロック少し含む、2mm以下焼土わずかに含む
2. 暗褐色土 鈣質有。うっすら斑状に20mm大ロームブロック多く、1mm以下焼土・炭化物少し含む
3. 暗褐色土 鈣質有。2mm以下ローム粒少し含む
4. 黄褐色土 鈣質有。(色調明るい) 1mm以下ローム粒・炭化物少し含む
5. 黄褐色土 鈣質有。柱束か、5～20mmハーフロームブロック少し、1mm以下ローム粒少し含む
6. 黄褐色土 鈣質有。柱束か、うっすら斑状にロームブロックを多く、2mm以下ローム粒少し含む
7. 暗褐色土 鈣質有。ローム土を多く含む、色調暗い

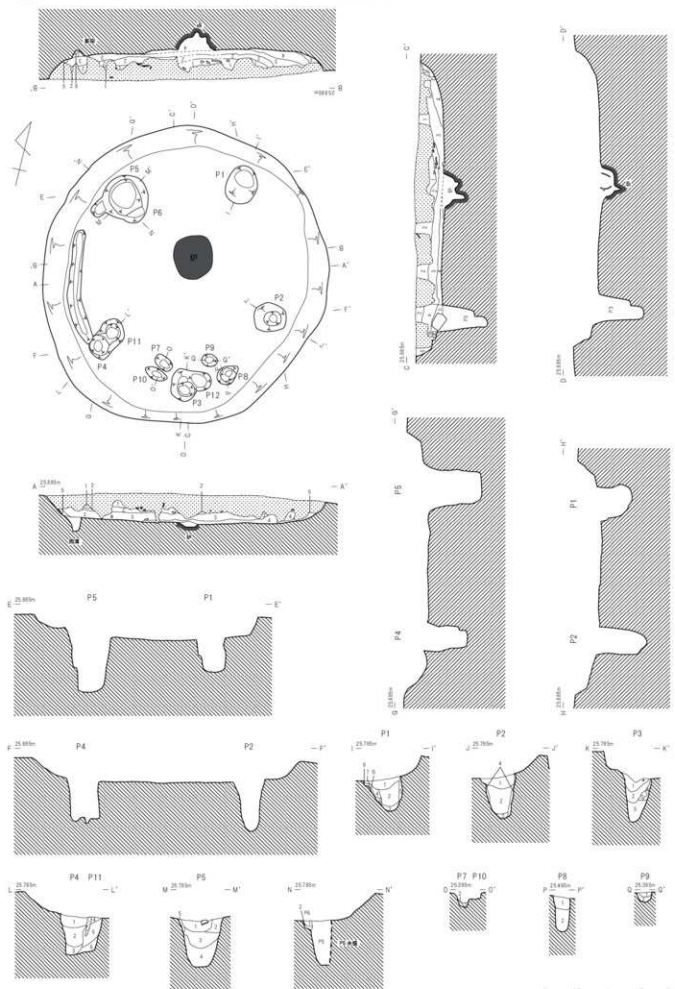
ピット3

1. 暗褐色土 鈣質有。2mm以下ローム粒・5mm大ハーフロームブロック少し含む、2mm以下焼土わずかに含む
2. 暗褐色土 鈣質有。うっすら斑状に20mm大ロームブロック多く、1mm以下焼土・炭化物少し含む

炉

1. 暗褐色土 鈣質有。3mm以下焼土やや多く、2mm以下炭化物少し含む
2. 暗褐色土 鈣質有。5mm以下焼土多く含む(10mm大焼土ブロック少し)
3. 暗褐色土 鈣質有。色調赤褐色味あり、5mm以下焼土多く含む
4. 暗褐色土 鈣質有。2mm以下ローム粒少し含む、60～110mm円礫併有

第119図 東台遺跡第51地点179号住居跡・遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)



第 120 図 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡 (1/60)

180 号住居跡

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒少し。3mm 以下炭化物や多く含む
2. 黒褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒をやや多く含む。1 層より色調明るい。2mm 以下炭化物や多く含む。南半に 2mm 焼土少し含む
3. 暗褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒をやや多く含む。3mm 以下炭化物少し含む。(遺物は上層より少なめ)。西半下部に 15～20mm ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒や多く(3 層より少し)。下部に 5～15mm ロームブロックや多く混ざる。3mm 以下炭化物少し含む
5. 暗褐色土 粘り強。粘性有。うっすら段状にロームブロックを多く含む。色調 4 層より明るい。2mm 以下ローム粒も含む
6. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5mm 以下ローム粒。3mm 以下焼土多く含む
- a. 黒褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒多く。2mm 以下炭化物・焼土少し含む
- b. 黒褐色土 粘り強。粘性有。a 層より黒色味強い。平均 2mm 以下ローム粒多く含む
7. 黒褐色土 粘り強。粘性有。10mm ロームブロック少し。3mm 以下ローム粒多量
8. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5mm 以下ローム粒多量(主体)

ピット 1・2

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒を多く。5～10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒をやや多く。2mm 以下炭化物。5～10mm ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。段状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む。2mm 以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 粘り強。粘性有。うっすら段状に暗褐色土を多く含む。色調明るい。2mm 以下ローム粒少し含む
5. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5～10mm ロームブロックをやや多く含む。色調明るい。2mm 以下ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 粘り強。粘性有。色調暗いロームブロック主体。3mm 以下明黄褐色ローム粒少し含む
7. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒多く(1 層より多)含む。色調明るい
8. 暗褐色土 粘り強。粘性有。ローム粒を多く含む色調明るい。2mm 以下ローム粒多く含む

ピット 3

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒多く。1～3mm 焼土・炭化物少し含む
2. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒多く。5～10mm ロームブロック少し含む
3. 黒褐色土 粘り強。粘性有。段状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む。2mm 以下ローム粒少し含む
4. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒をやや多く。2mm 以下炭化物。5～10mm ロームブロック少し含む
5. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。段状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む。2mm 以下ローム粒少し含む

ピット 4

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒を多く。5～10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒をやや多く。2mm 以下炭化物。5～10mm ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。段状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む。2mm 以下ローム粒少し含む
4. ピット 1～7 層に似るが。1mm 以下焼土少し含む
5. 黒褐色土 粘り強。粘性有。うっすら段状に暗褐色土を多く含む。色調明るい。2mm 以下ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 粘り強。粘性有。15mm 以下ロームブロック少し含む。地山?

ピット 5

1. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒を多く。5～10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒多く。10mm 大ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒をやや多く。2mm 以下炭化物。5～10mm ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土 (色調暗い) 粘り強。粘性有。段状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む。2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒多く(1 層より多)含む。色調明るい

ピット 6

1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5mm 以下ローム粒多く含む。硬い
2. 黄褐色土 粘り強。粘性有。ローム主体。2mm 以下ローム粒や多く含む

ピット 7

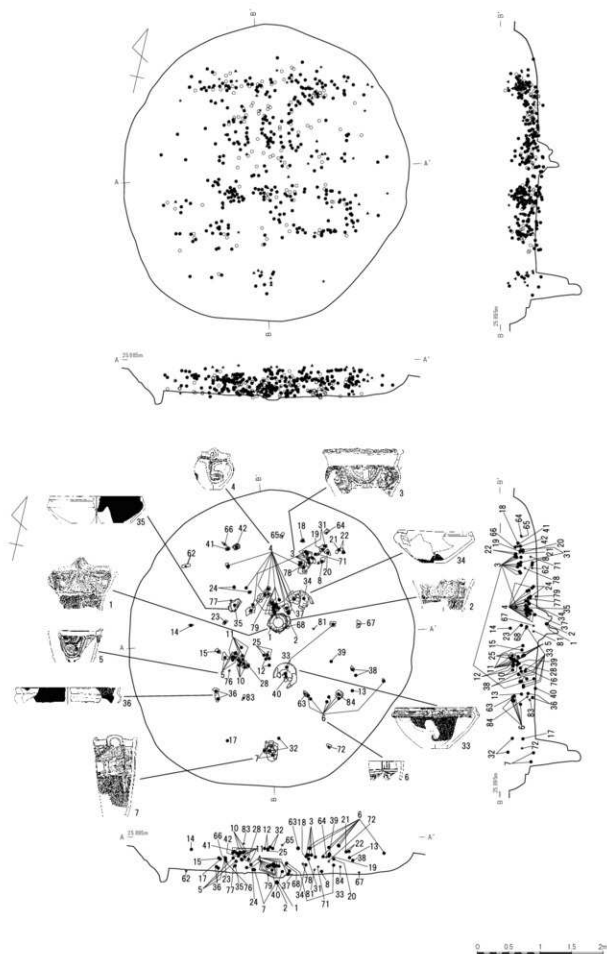
1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒や多く含む
2. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5mm 以下ローム粒多く。色調明るい

ピット 8

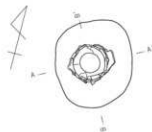
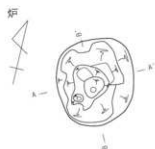
1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5mm 以下ローム粒多。5～20mm ロームブロック少
2. 暗褐色土 粘り強。粘性有。100mm 以下大型のロームブロックを多く含む

ピット 9

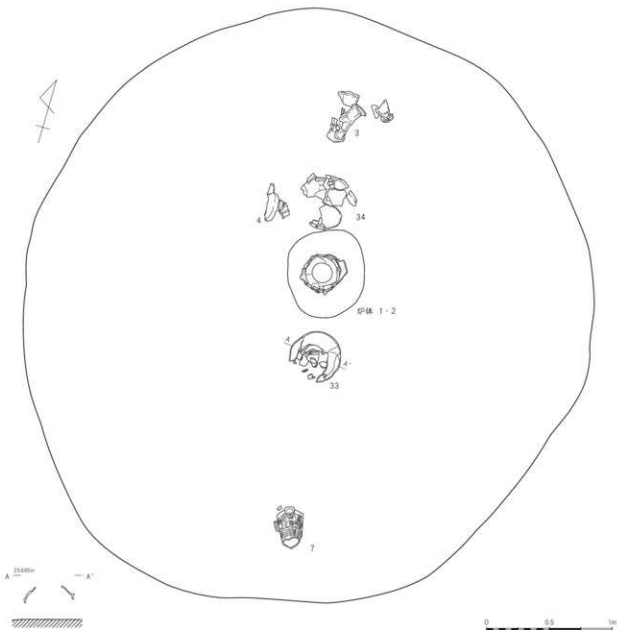
1. 暗褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒や多く。炭化物・焼土少し含む
2. 暗褐色土 粘り強。粘性有。うっすら段状に 20mm 以下ロームブロック多く含む



第121図 東台遺跡第51地点180号住居跡遺物出土状況図 (1/60)



1. 暗褐色土 粘り強。2mm 以下ローム粒・3mm 以下焼土・1mm 以下炭化物をやや多く含む
2. 黒褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒・5mm 以下焼土やや多く含む
3. 暗褐色土 粘り強。粘性有。3mm 以下ローム粒を多く含む。色調暗い。3mm 以下焼土やや多く含む
4. 黒褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒や多く。1mm 以下焼土少。5mm 大ローム少
5. 暗褐色土 粘り強。粘性有。2mm 以下ローム粒やや多く。色調暗い。焼土少し含む
6. 暗褐色土 粘り強。粘性有。5～10mm ロームブロック多く含む
7. 暗褐色土 粘り強。粘性有。25mm 大破砕して硬化したロームブロック。3mm 以下硬化したローム粒やや多く含む
8. 黒褐色土 粘り強。粘性有。黒褐色土に3mm 以上焼土・2mm 以下ローム粒やや多く含む



第 122 図 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡炉、遺物出土状況図 (1/30)

240cmである。床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は床面から 15cm 上の土層から多量に出土する。点上げ遺物、一括遺物の総計 5,941 点中、土器 2,890 点、石器 135 点、礫 2,916 点で、礫が多い。時期の明確な破片では中期前半が 350 点で最も多い。また、黒曜石の剥片も 58 点出土している。

時期はが体土器から勝坂末期である。

第 58 表 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	61 × 47	32 × 25	52	主柱穴
P2	楕円形	51 × 45	12 × 12	77	主柱穴
P3	楕円形	52 × 40	18 × 15	72	主柱穴
P4	楕円形	45 × 38	20 × 12	66	主柱穴、P11より新
P5	円形	70 × 65	38 × 37	83	主柱穴、P6より新
P6	(円形)	40 × 18	28 × 12	22	P5より旧
P7	楕円形	30 × 18	17 × 12	24	
P8	楕円形	38 × 26	13 × 8	54	
P9	楕円形	26 × 20	14 × 11	15	
P10	楕円形	36 × 17	16 × 9	10	
P11	円形	38 × 35	18 × 17	66	主柱穴、P4より旧
P12	楕円形	32 × 30	24 × 20	24	

【181号住居跡】調査区東端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。南側で 178号住居跡と重複するが、178号住居に本住居が壊される。

住居全体の 1/4 程度の検出で、東側は調査区域外である。平面形態は円形を呈すると思われる。確認面からの深さ 42cm である。

周溝は西側で検出した。また、178号住居跡の軒下から本住居跡の柱穴と思われるピットを検出した。主柱穴と思われる。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は 8 点中、土器 5 点、礫 3 点である。

時期は出土遺物から加曾利 E II 期である。

第 59 表 東台遺跡第 51 地点 181 号住居跡ピット一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	隅丸方形	34 × 30	14 × 7	74	

【182号住居跡】調査区南西部に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。南側で 177号住居跡と重複するが、177号住居埋没後に本住居を構築している。

家屋の建築予定地外のため本調査をせず、プラン確認後、深さやがの位置確認のため幅 30cm のサブレンチを十字に設定して調査した。

平面形態は円形。南北 410cm、東西 362cm、確認面からの深さ 23cm である。

がは住居のほぼ中央に位置し、平面形態は長軸 80cm の楕円形である。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は点上げ遺物、一括遺物の総計 323 点中、土器 205 点、石器 6 点、礫 112 点である。時期の明確な破片では中期前半が 6 点で最も多い。

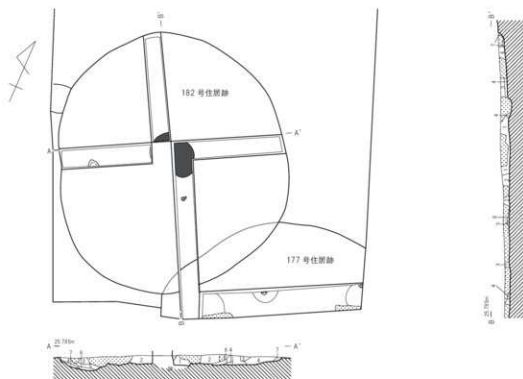
時期は出土遺物から勝坂末期である。

【土坑】土坑 1、2 とともに耕作による視乱で残りは良くない。土坑 3 は上層が焼土層で、暗褐色土上で焼成が行なわれていた様子がある。土坑 4 は北側の第 25 地点で検出した土坑 11 の続きで、同一遺構である。

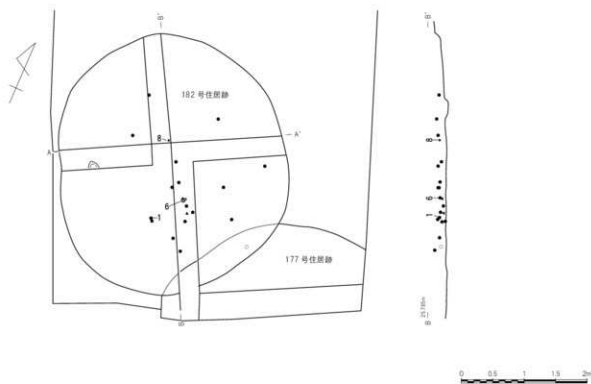
【ピット】14 基検出したが、全て時期は縄文時代である。P13、P14 は 178号住居跡埋没後に掘られたピットで、178号住居跡が壊している。同がの遺物と思われる礫や土器が出土した。

第 60 表 東台遺跡第 51 地点遺構一覧表 (単位:cm)

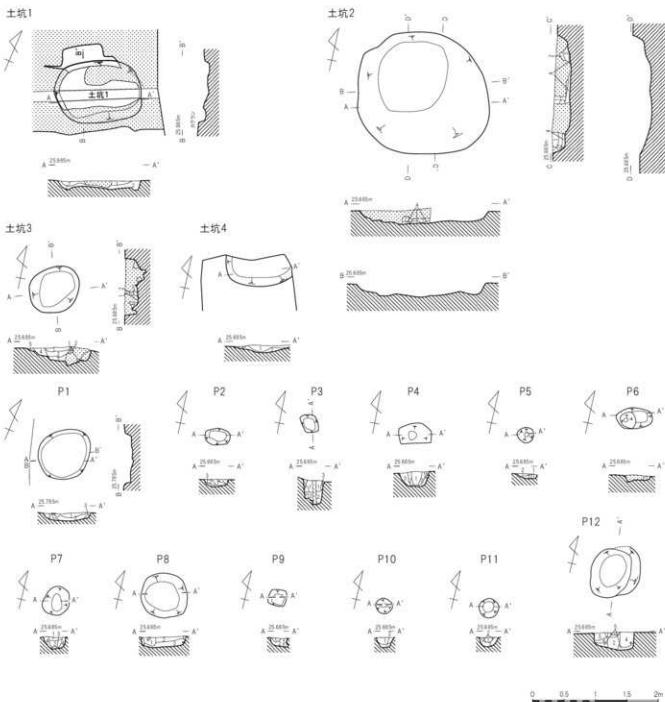
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑 1	楕円形	137 × 97	126 × 78	17	周溝は耕作で壊される
土坑 2	楕円形	225 × 195	135 × 110	27	上層に焼土層
土坑 3	楕円形	80 × 71	61 × 49	22	土 1、2 より新
土坑 4	隅丸長方形	(190) × 150	(170) × 115	20	25 地点土坑 11
P1	楕円形	80 × 60	×	×	未掘
P2	楕円形	41 × 25	27 × 15	14	
P3	隅丸方形	28 × 24	18 × 16	36	
P4	(楕円形)	51 × (30)	13 × 13	23	
P5	円形	26 × 25	8 × 7	6	
P6	楕円形	57 × 34	7 × 6	16	
P7	円形	45 × 43	28 × 16	22	
P8	円形	74 × 70	54 × 46	17	
P9	隅丸方形	27 × 27	18 × 16	12	
P10	円形	26 × 25	12 × 5	17	
P11	円形	31 × 30	16 × 16	14	
P12	楕円形	90 × 80	55 × 38	29	
P13	(楕円形)	25 × (15)	10 ×	68	178 住居の敷を切る
P14	(楕円形)	22 × (15)	5 ×	55	178 住居の敷を切る



- 1 黒褐色土 締り強、粘性有。2mm以下ローム粒・焼土をやや多く含む
- 2 黒褐色土 締り強、粘性有。1より色調明るい、2mm以下ローム粒をやや多く含む
- 3 暗褐色土 (2より明るい程度) 締り強、粘性有。2mm以下ローム粒をやや多く、3mm以下炭化物少し含む
- 4 暗褐色土 締り強、粘性有。3より色調明るい、2mm以下ローム粒をやや多く、炭化物少し含む、5～20mmロームブロック少し含む
- 5 黒褐色土 締り強、粘性有。2mm以下ローム粒多く含む
- 6 黒褐色土 締り強、粘性有。5～10mmロームブロック、2mm以下ローム粒多く含む
- 7 暗褐色土 締り強、粘性有。ローム土を含み、色調明るい5～30mmロームブロック・3mm以下ローム粒をやや多く含む
- 8 覆瓦されているが、3mm以下ローム粒を多く含む。硬質の暗褐色土ブロック(床面の土)主体



第123図 東台遺跡第51地点 182号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)



土坑1

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。5～30mm色調明るいブロックをうっすら現状にやや多く含む。2mm以下ローム粒をやや多く、1mm以下機土・炭化物を少し含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム土を含み色調明るい。10～20mmロームブロック多く現状を呈する。1mm以下炭化物少し含む

土坑2

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒少し。2mm以下炭化物わずかに含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。やや黒色味強い。2mm以下ローム粒やや多く含む
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。やや黒色味強い。3mm以下ローム粒やや多く。1mm以下炭化物少し含む
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。5～10mmロームブロックやや多。5mm以下ローム粒多く含む。色調明るい

土坑3・4

1. 赤褐色土 締り強。粘性有。粒径細かな機土主体。2mm以下機土粒多く含む。黒褐色土が上部に貫入する
2. 赤褐色土 締り強。粘性有。粒径細かな機土主体。2mm以下機土粒多く含む
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム土主体。2mm以下機土粒やや多く含む。赤味を帯びる
4. 暗褐色土 締り強。粘性有。機土を含み。赤味を帯びる。3mm以下機土少し含む
5. 暗褐色土 締り強。粘性有。3mm以下機土少（4層より少ない）

ピット 1

- 1 a 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、遺構・土器片含む
- 1 b 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mm ソフトロームブロック、5～20mm 黒褐色土をやや多く含む、現状を呈する
- 1 c 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム分を含み、色調明るい、1mm 大炭化物・ローム粒少し含む

ピット 2

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム土やや多、3mm 大炭化物少
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、現状にソフト質ロームブロック多

ピット 3

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物少
- 2 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多
- 3 暗褐色土 締り強、5mm 以下ローム粒多く色調明るい

ピット 4

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物少
- 2 ピット 3 の 2 層に似る、ローム粒はうっすら現状に見られる（締り強い）
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら現状に 20mm 以下ロームブロックを多く含む
- 4 暗褐色土 締り強、5mm 以下ローム粒多く色調明るい

ピット 5

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物少
- 2 暗褐色土 締り強、5mm 以下ローム粒多く色調明るい
- 3 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多

ピット 6

- 1 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多

ピット 7

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多
- 4 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら現状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少

ピット 8

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 2 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mm ロームブロック少し、2mm 以下鉄土・炭化物少
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、現状に黒褐色土をやや多く含む

ピット 9

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら現状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少

ピット 10

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら現状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多

ピット 11

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら現状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少

ピット 12

- 1 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 3 暗褐色土 締り強、粘性有、締り強い、2mm 以下ローム粒わずか
- 4 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm 大ロームブロック少、1mm 以下ローム粒少、5～15mm 土器破片、30mm 大硬わずかに含む

第 61 表 東台遺跡第 51 地点出土遺物観察表 (単位:cm)

内蔵 番号	図録 番号	遺物名	種別・部材	口径・ 径	底径・ 幅	高さ・ 厚	技法/文様/その他	石材/鑑定 生産地	推定年代・時期	残存/備考
125 期	1	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	φ30.0	—	(18.9)	輪組み成形/口縁部は突帯上を連続状隆帯。胴部は椎形凹面の隆帯上を連続状隆帯。区内は縄文前期中・三叉文を太い単状隆帯で飾り/砂粒多量含む/注 № 1-7 参照	縄文中期・豊後 3	口縁部 1/2 以上残存	
	2	177 号住居跡	縄文土器・浅鉢	(42.0)	—	(13.3)	輪組み成形/無文/内外面滑潤。外面一部に赤色塗りの磁層有/砂粒多量含む/思出有/注 № 6 表 2、№ 380、H10 参照	縄文中期	口縁部 1/4 以下残存	
	3	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/隆帯上を連続状隆帯。口縁内側に幅広突帯/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期・豊後 3	口縁部片	
	4	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	流注口縁。口縁は内側に屈曲する/砂粒多量含む/注 № 5H	縄文中期・阿玉台	口縁部片	
	5	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/口縁幅広突帯。胴部、平截竹管で平隆起伏状の突帯部をおこなう/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期・豊後 3	口縁部片	
	6	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/口縁幅広突帯。胴部は隆帯上を連続状隆帯/砂粒多量含む/注 № 8	縄文中期・豊後 3	口縁部片	
	7	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/尻。縄文を模倣に施文後、隆帯を削付し、胎に流注状隆帯/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期	口縁部片	
	8	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/頸帯部を連続状隆帯刺突し、その内側に流注状隆帯で飾り/砂粒多量含む/注 № 1	縄文中期・豊後 2	製部片	
	9	177 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪組み成形/頸帯上を連続状隆帯。区内は流注隆帯交互状隆帯。三叉文を太い単状隆帯で飾り/砂粒多量含む/注 № 3H	縄文中期・豊後 3	製部片	
	10	177 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪組み成形/幅広隆帯で区画/砂粒多量含む/注 № 1H5	縄文中期	製部片	
	11	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/隆帯上を連続状隆帯/砂粒多量含む/注 № 25、45	縄文中期・豊後 3	製部片	
	12	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/隆帯上を連続状隆帯/砂粒多量含む/注 № 54	縄文中期・豊後 3	製部片/ № 6 上層一整体	
	13	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	注 № 1H5	縄文中期・豊後 3	製部片	
	14	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/太い単状隆帯で飾り/砂粒多量含む/注 № 10	縄文中期・豊後 3	製部片	
	15	177 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪組み成形/体部から口縁への屈曲部に連続状隆帯。口縁は、区内は太い単状隆帯/飾り/砂粒多量含む/注 № 7	縄文中期・豊後 3	製部片	
	16	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/体部から口縁への屈曲部の隆帯上を連続状隆帯/砂粒多量含む/注 № 1H7	縄文中期・豊後 3	製部片	
	17	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/尻。縄文を模倣に施文後、口縁部は流注状隆帯を削付し、胎部へも隆帯を削付し、胴部は流注状隆帯を削付し/砂粒多量含む/注 № 26、30、33、34	縄文中期・加曾利王 1 古	口縁部片	
	18	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/平截竹管で平隆起伏状の隆帯を文/砂粒多量含む/注 № 4	縄文中期・加曾利王 1 古	口縁部片	
	19	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/隆帯上を交互状隆帯/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期・加曾利王 1 古	口縁部片	
	20	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/前々段多帯の尻。縄文を模倣に施文後、流注状隆帯による懸垂文/砂粒多量含む/注 № 52、1H6	縄文中期・加曾利王 1 古	口縁部片	
	21	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(9.0)	(4.3)	輪組み成形/前々段多帯の尻。縄文を模倣に施文/砂粒多量含む/注 № 57	縄文中期・加曾利王 1 古	底部片	
	22	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(7.6)	(4.0)	輪組み成形/尻。縄文を模倣に施文後、懸垂帯部削付し/砂粒多量含む/注 № 35	縄文中期・加曾利王 1 古	底部片	
	23	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/尻。縄文を模倣に施文/砂粒多量含む/注 № 1H6	縄文中期	製部片	
24	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/流注状隆帯の口縁部へ隆帯を並らし、流注帯部は凹形刺突。懸垂隆帯上を連続状隆帯刺突。地文は尻。縄文を模倣に施文。胴部とは同じく流注帯を並らす/砂粒多量含む/注 № 6、H5、6 表 2	縄文後期・堀之内 1 式	口縁部片		
25	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/流注状隆帯の口縁部へ隆帯を並らし、流注帯部は凹形刺突/砂粒多量含む/注 № 1H5	縄文後期・堀之内 1 式	口縁部片		
26	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/尻。縄文を模倣に施文後、流注状隆帯を削付し/砂粒多量含む/注 № 1H2	縄文後期・堀之内	製部片		
27	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/懸垂状隆帯で区画した中央部位の尻。縄文を削付し/砂粒多量含む/注 № 1H2	縄文後期・堀之内	製部片		
28	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(7.1)	(5.0)	輪組み成形/無文/砂粒多量含む/内面にターム状付着/注 № 1H7	縄文時代	底部片		
29	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	9.1	(2.9)	輪組み成形/無文/砂粒多量含む/注 № 43 表 2	縄文時代	底部片		
30	177 号住居跡	縄文土器・土製円形	—	—	—	細片を円形に打ち欠く。地文は尻。縄文/注 № 1H1	縄文中期	製部片		
31	177 号住居跡	縄文土器・土製円形	—	—	—	細片を円形に打ち欠く。地文は尻。縄文/注 № 1H3	縄文中期	製部片		
32	177 号住居跡	石器・打製石斧	69.93	6.7	1.8	重量 65.83g 両輪磨打技法/注 № 1H2	古武刃?	縄文時代	刃部欠	
33	177 号住居跡	石器・打製石斧	9.7	4.5	2.85	重量 228.70g 両輪磨打技法/注 № 1H 表 2	片刃	縄文時代	完整	
126 期	34	177 号住居跡	石器・打製石斧	65.1	(60.0)	1.74	重量 63.30g 両輪磨打技法/注 № 42	ホルンフェルムス	縄文時代	刃部欠
	35	177 号住居跡	石器・打製石斧	6.7	4.0	2.1	重量 83.67g 両輪磨打技法/注 № 1H	ホルンフェルムス	縄文時代	刃部欠
	36	177 号住居跡	石器・打製石斧	4.8	4.2	1.2	重量 36.99g 両輪磨打技法/注 № 1H9	ホルンフェルムス	縄文時代	完整
	37	177 号住居跡	石器・磨石	4.2	3.9	2.5	重量 58.46g 断面磨打技法。表面磨潤付着/注 № 1H3	安山岩	縄文時代	一部
	1	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪組み成形/口縁部下に流注。R 右巻きのリボ文を模倣に施文/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期・加曾利王 1 古	製部片	
	2	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪組み成形/胴部を縦に施文。3 本筋の流注で連続文を並らす/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期・加曾利王 1 古	製部片	
	3	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪組み成形/口縁部は折返される。L 左巻きのリボ文を模倣に施文する/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文中期・加曾利王 1 古	製部片	
4	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	(33.0)	3.8	輪組み成形/無文/砂粒多量含む/注 № 1H2	縄文	底部片		
1	182 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪組み成形/口縁内側に小溝付。外面無文。縄文を模倣に施文/内外赤色塗付/砂粒多量含む/注 № 1H	縄文後期・堀之内	口縁部片		
2	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/口縁幅の幅広突帯/砂粒多量含む/内外赤色塗付/注 № 1H	縄文中期・豊後 3	口縁部片		
3	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪組み成形/頸帯部を流注連続状隆帯。反折帯を平截竹管による平状隆帯と流注状隆帯/砂粒多量含む。懸垂多量含む/注 № 1H2	縄文中期・阿玉台 2 期	製部片		

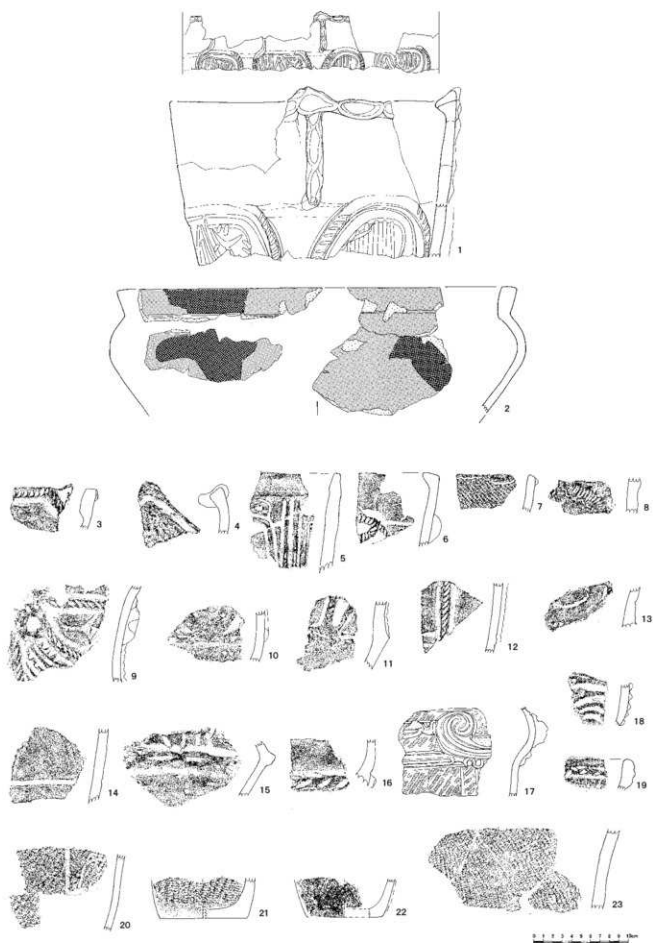
図録 番号	遺構名	種類・部種	口径 / 径	底径 / 幅	高さ / 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 想定 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
126 冊	4 182号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 灰右巻きの標系文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注③Dトレ-2		縄文中期	製部片
	5 182号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 降帯上に凸形削突。降帯縁は甲段縁で四角 / 砂粒多量含む / 注③A部トレ中央3		縄文中期・晩期3	製部片
	6 182号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	反戻状平片。降帯上を凸形削突。区内内は対角のいし押印文で充填 / 砂粒多量含む / 注③4		縄文中期・晩期3	口縁部片
	7 182号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 降帯縁を凸形削突削突 / 砂粒多量含む / 注③Dトレ-1		縄文中期	製部片
	8 182号住居跡	石器・打製石片	5.8	0.70	1.94	重量 54.4g 両輪形打技法 / 注③H4	緑閃石質	縄文時代	基部
	9 182号住居跡	石器・打製石片	6.98	4.37	2.5	重量 84.91g 両輪形打技法 / 注③8	ホルンフェルス	縄文時代	刃部一部欠
	10 182号住居跡	石器・石匙	4.3	4.8	0.8	重量 17.15g 横長型。押し割縁で加工 / 注③H3	ホルンフェルス	縄文時代	基部、先端欠
	1 178号住居跡	縄文土部・深鉢	19.1	—	—	輪結み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注③219、221、224、227、228、230			口縁部片
	2 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 口縁部内面に凸形削突。降帯縁を連続凸形削突 / 砂粒多量含む / 注③107、135		縄文中期・晩期3	口縁部片
	3 178号住居跡	縄文土部・浅鉢	—	8.0	2.5	輪結み成形 / 無文 / 内外面半部凸形削突 / 砂粒多量含む / 底縁有 / 注③6-4 卍		縄文中期	底部片
4 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 降帯による区内内を浅彫りで充填する。降帯縁を連続凸形削突 / 砂粒多量含む / 注③107、135		縄文中期	製部片	
5 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 降帯縁を幅広押印文で押さえる。三角押文も平行させる / 砂粒多量含む / 注③211		縄文中期・新透	製部片	
6 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 降帯縁を浅彫りで押さえる。区内内は浅彫りと連続凸形削突で充填する / 砂粒多量含む / 注③50		縄文中期・晩期3	製部片	
7 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	注③135		縄文中期	口縁部片	
8 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 浅状口縁 / 砂粒多量含む / 注③134		縄文中期	口縁部片	
9 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 縄文土部。口縁は降帯で再巻きと相入相入。製部は浅彫りによる懸垂文 / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注③223 卍		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
10 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、口縁部直下に浅彫り2条並らし、航行懸垂文を製部へ施文 / 砂粒多量含む / 注③B区-2		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
11 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、航行懸垂文を製部へ施文 / 砂粒多量含む / 注③A区-2		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
12 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、航行と直線の懸垂文を3本組み浅彫りで施文 / 砂粒多量含む / 注③122		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
13 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、製部へ2列(以上)の浅彫り並らし、製部へ懸垂文を浅彫りで施文 / 砂粒多量含む / 注③90		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
14 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、直線の懸垂文を3本組み浅彫りで施文 / 砂粒多量含む / 注③A区-2		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
15 178号住居跡	縄文土部・深鉢	8.0	5.0	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、直線の懸垂文を2本組み浅彫りで施文 / 砂粒多量含む / 注③120、133		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	底部片	
16 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は R 右巻きの標系文を縦位に施文後、降帯を付け付けた浅彫りで押さえる / 砂粒多量含む / 注③142		縄文中期・加賀川 E Ⅰ	製部片	
17 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は R 右巻きの標系文を縦位に施文後、口縁直下に3本の浅彫り並らし、上2本の浅彫りには何点文を施文。製部は浅彫りによる連続文 / 砂粒多量含む / 注③A区-2		縄文中期・加賀川 E Ⅱ。建瓦	口縁部片	
18 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は R 右巻きの標系文を縦位に施文後、口縁直下に3本の浅彫り並らし、製部は2本組み浅彫りによる何点文を施文 / 砂粒多量含む / 注③200		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
19 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は H1。縄文を縦位に施文後、2本組み浅彫りの懸垂文と半環の浅状文を施文 / 砂粒多量含む / 注③6-2。注③17		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
20 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は条線。口縁直下に3本の浅彫り並らし、その上へ付けた平織り竹による浅状文を施す / 砂粒多量含む / 注③H1		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
21 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文条線の上に私土部による航行懸垂文を施す / 砂粒多量含む / 注③82		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
22 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文条線 / 砂粒多量含む / 注③A区-2		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
23 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文条線。伏せたり平織り竹による2本組み浅彫りで、製部へ3本の浅彫り並らし、製部へは航行懸垂文 / 砂粒多量含む / 注③95		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
24 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文条線 / 砂粒多量含む / 注③225		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
25 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文条線へ2本組み浅彫りによる懸垂文 / 砂粒多量含む / 注③152		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	底部片	
26 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 降帯で口縁と製部を区画。口縁は浅彫りで滑舌などを施文。製部は上縁が逆字の3本組み浅彫りによる懸垂文。懸垂文間には航行削突 / 砂粒多量含む / 注③203		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
27 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は縦位の浅彫り。面縁文様を平行浅彫りで施文 / 砂粒多量含む / 製部含む / 注③109		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
28 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は斜位の浅彫り。製部は私土部を浅状に施す / 砂粒多量含む / 注③108		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	製部片	
29 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は斜位の浅彫り。口縁直下に2本の浅彫り並らし、内面は断面三角に突出し、斜位の浅彫り文を施文 / 砂粒多量含む。製部含む / 注③2		縄文中期・曾利田	口縁部片	
30 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は斜位の浅彫り。内面は断面三角に突出し、斜位の浅彫り文列を施文 / 砂粒多量含む。製部含む / 注③163		縄文中期・曾利田	口縁部片	
31 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 地文は縦位の浅彫り。私土部を浅状に施す / 砂粒多量含む / 注③25		縄文中期・曾利田	口縁部片	
32 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 浅彫りによる斜位の懸垂文 / 砂粒多量含む / 注③39		縄文中期・曾利田	製部片	
33 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 浅彫りによる懸垂文 / 砂粒多量含む / 注③底		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	底部片	
34 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 質状工具による何点文 / 砂粒多量含む / 注③131		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	
35 178号住居跡	縄文土部・深鉢	—	—	—	輪結み成形 / 口縁部へ何点文列を施す / 砂粒多量含む / 注③B区-2		縄文中期・加賀川 E Ⅱ	口縁部片	

図録 番号	図録 番号	遺構名	種別・部種	口径 径	底径 幅	器高 厚	技法/文様/その他	石片/鑑定 生産地	推定年代・時期	残存/備考
127 期	36	178号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/管状工具による列点文/砂粒多量含む/注№36		縄文中期・ 加曾利EⅡ	銅版片
	37	178号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№A区-2		縄文中期	口縁部片
	38	178号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№23		縄文中期	口縁部片
	39	178号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№109		縄文中期	口縁部片
	40	178号住居跡	縄文土器・鉢	-	-	-	編織み成形/無文、内面に赤色塗彩/砂粒多量含む/注№173		縄文中期	口縁部片
	41	178号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/無文、高台状の底部片/砂粒多量含む/注№A区-1		縄文中期	底部片
	42	178号住居跡	縄文土器・深鉢	-	10.0	12.9	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№1		縄文中期	底部片
	43	178号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	10.0	12.2	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№229		縄文中期	底部片
	44	178号住居跡	石器・ナイフ形	11.30	11.30	0.4	重量0.68g 縦長約15素材とし、基部の両側面をプランディング/注№179	黒塚石	縄文時代	基部片
	45	178号住居跡	石器・石鏃	1.5	1.3	0.34	重量0.50g 押注剥離/注№15	黒塚石	縄文時代	完整
	46	178号住居跡	石器・石鏃	11.61	10.91	0.28	重量0.34g 押注剥離/注№104	黒塚石	縄文時代	基部欠
	47	178号住居跡	石器・打製石斧	8.33	6.63	1.7	重量112.69g 両側面打技法/注№A区-2	砂岩	縄文時代	完整
	48	178号住居跡	石器・打製石斧	8.82	4.04	1.38	重量55.90g 両側面打技法/注№214		縄文時代	完整
	49	178号住居跡	石器・打製石斧	8	3.6	2.3	重量78.40g 両側面打技法/注№96		縄文時代	片部一部欠
128 期	50	178号住居跡	石器・打製石斧	4.15	4.1	1	重量21.55g 両側面打技法/注№B区-1	ホルンフェ ルス	縄文時代	基部欠
	51	178号住居跡	石器・打製石斧	6.1	3.9	1.4	重量55.34g 両側面打技法/注№A区-2	砂岩	縄文時代	片部、基部 一部欠
	52	178号住居跡	石器・打製石斧	8.2	4.5	2.3	重量136.40g 両側面打技法/注№153床直	炭岩?	縄文時代	片部、基部 一部欠
	53	178号住居跡	石器・楕石	12.7	4.2	1.1	重量107.43g 両側面に磨打痕有/注№22	チャート	縄文時代	裏面平欠
	54	178号住居跡	石器・くばみ石	12	9.6	2.4	重量346.36g 径2.5cm、深さ1cmの孔1ヶ所有/注№P1	片岩	縄文時代	左上、下部欠
	1	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/平管状工具による斜向穴開削を口縁部から口縁部に掛けて施文後、粘土層を剥ぎ取らせた/砂粒多量含む/注№A区-1		縄文中期・ 加曾利E	口縁部片
	2	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	口縁部の渦巻状突起の一部/注№B区-1		縄文中期・ 加曾利E	口縁部片
	3	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/施文は裏面、口縁部へ2本の沈凹を巡らす/砂粒多量含む/注№B区-2		縄文中期・ 加曾利EⅡ	口縁部片
	4	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/施文は裏面の沈凹列/砂粒多量含む/注№28		縄文中期・ 加曾利E	口縁部片
	5	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/濃緑色懸垂帯を施文2本組みの沈凹列を伴って施文、隣部同色同一工具で彫刻施垂帯を施文/砂粒多量含む/注№21		縄文中期・ 加曾利E	銅版片
	6	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/施文は裏面の裏面/砂粒多量含む/注№13、19		縄文中期・ 加曾利E	銅版片
	7	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/隣部帯を施文で押さえた区画内を、管状工具による列点文で施文/砂粒多量含む/注№11		縄文中期・ 加曾利E	銅版片
	8	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/施文は裏面1.縄文を斜向に施文後、平行沈凹の流文状/砂粒多量含む/注№29床直		縄文中期・ 加曾利E	銅版片
	9	179号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/施文は裏、縄文を裏面に施文後、直線の懸垂帯を3本組み沈凹で施文/砂粒多量含む/注№32		縄文中期・ 加曾利EⅡ	銅版片
10	179号住居跡	縄文土器・鉢	-	-	-	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№B区-1		縄文中期	底部片	
11	179号住居跡	縄文土器・鉢	-	102.4	11.81	編織み成形/無文/砂粒多量含む/注№B区-2		縄文中期	底部片	
12	179号住居跡	縄文土器・鉢	-	-	-	編織み成形/隣部帯付/砂粒多量含む、面片多量含む/注№P2 P2内		縄文中期	銅版片	
13	179号住居跡	石器・石鏃未成品	1.9	2.1	0.55	重量1.91g 押注剥離、下部からの割削に先端部が欠けたと思われる/注№12	黒塚石 (未成品)	縄文時代	一部欠	
14	179号住居跡	石器・磨製石斧	7.9	2.4	0.7	重量22.8g 片部が磨製に磨製された小形石製の石斧片、両側面打技法で施文/注№23	片岩	縄文時代	基部欠	
129 期	1	180号住居跡	縄文土器・深鉢	13.16	-	(22.1)	編織み成形/口縁は4ヶ所に把手突起があると思われる、2ヶ所残存する。真正面と裏面は沈凹による渦巻帯を隣部で囲う。右側は立方体の把手が備わると思われる。口縁文様の基本は、隣部により横「S」字状に文様を配置する。隣部上はへう状工具による連続削突、もしくは管状工具による交互削突である。区画内は円形、三角形を基本に、沈凹による縦いしと連続削突や交互削突及び沈凹で施文する。銅版はR右巻きの懸垂帯を施文、時どけりに重なる/砂粒多量含む/注№6片、8片		縄文中期・ 磨版3	銅版下半欠、 口縁部一部欠
	2	180号住居跡	縄文土器・深鉢	-	-	-	編織み成形/口縁は4ヶ所に把手突起があり渦巻帯の隣部より横「S」字状に文様を配置する。銅版上はへう状工具による連続削突、区画内は沈凹による渦巻帯を施文。横凹部は沈凹による二文文で施文する。銅版はR右巻きの懸垂帯を施文、時どけりに重なる/砂粒多量含む/注№6片、7		縄文中期・ 磨版3	銅版中央の 1/2以下残存
	3	180号住居跡	縄文土器・深鉢	34.0	-	(20.2)	編織み成形/口縁部は内外に突出し、濃緑色隣部による、口縁は無文、銅版上の境界は平行沈凹帯を交互削突する。銅版上は隣部により円形、半月形、直線に文様を配置する。隣部上はへう状工具による連続削突、区画内は沈凹による円形や二文文で、連続削突や交互削突及び列点文で施文する。銅版は1.R 縄文を縦向に重なる/砂粒多量含む/注№41、43、45、66、347、356、357、359、360、362、390、758、A区3・4・8		縄文中期・ 磨版3	銅版下半欠
	4	180号住居跡	縄文土器・ 小形深鉢	12.0	17.6	15.8	編織み成形/口縁は1ヶ所に把手突起があり渦巻帯の隣部より横「S」字状に文様を配置する。銅版上はへう状工具による連続削突、把手反対側の縁は1字に沈凹で打られる/砂粒多量含む/注№44、76～79、427、434、435、442、477、478、480、481、482、487、66上10		縄文中期・ 磨版3	ほぼ完整
	5	180号住居跡	縄文土器・深鉢	22.0	-	(14.5)	編織み成形/口縁は縦横1ヶ所に把手突起がある。縦面突出の文様は隣部で「U」字帯等に区画し、区画内は沈凹で渦巻帯や半円形区画などがなされ、沈凹列、連続削突、平管状工具による平行削突などを含む/砂粒多量含む/注№223、230、233、234		縄文中期・ 磨版3	口縁部1/2 以上残存

図録 番号	遺構名	種類・部種	口径 / 径	底径 / 幅	高さ / 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 想定 生産地	想定年代・時期	現存 / 備考	
129 回	6	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	輪郭み成形 / 口縁は3本筋み平行沈線でそれぞれ四分割される。胴部との境は3本筋み平行沈線が通り、若干平帯帯になる。胴部は丸。縄文を縦位に施文する / 砂粒多量含む / 外面、保や酸化物が付着する / 注№119、158、160、162、167、173、274		縄文中期・晩期3	口縁部1/4以上現存	
	7	180号住居跡	縄文土器・深鉢	180	—	(32.3)	輪郭み成形 / 口縁は、2ヶ所に大形、2ヶ所に小形合計4ヶ所に把手突起があり、直下に懸垂帯帯を降ろして、文帯帯が内凹型になる。文帯帯は胴部でさらに上下二分割される。胴部の交差部は胴部中央へ十字形に沈線を入れ、その間は交互斜交する。上部文帯帯は3ヶ角帯帯と交互斜交した斜交帯帯で分割され、1ヶ角帯帯で平行に分割される。下部文帯帯は懸垂帯帯で貫くように、胴部による横凹部を配置する。上下各凹内には沈線による溝文、二文文、沈線帯帯で充填されるが、無文の凹面もある。胴部は丸左巻きの器文を縦位、時計回りに重なる / 砂粒多量含む / 注№181日、№461、462		縄文中期・晩期3	底部欠
	8	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 大形の中空把手の口縁部片。把手は円形や溝巻きを主体とし、沈線で胴部上をなぞる。口縁部は丸。縄文を横位に施文後、2本筋み帯帯を帯付、沈線で胴部を飾り付ける。口縁上端には波状沈線を施す / 砂粒多量含む / 注№366		縄文中期・晩期末、中時代	口縁部片
	9	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 口縁は幅広の無文帯帯の下へ丸右巻きの器文を縦位、時計回りに重なる。胴部との境は胴部が通り胴部上へはへつ状工具による連続斜交である / 砂粒多量含む / 注№B区3、C区1・4、D区3、H		縄文中期・晩期3	口縁部片 / №9-11は同一個体
	10	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 胴部文帯帯は胴部による横凹部で、胴部上へはへつ状工具により連続斜交される。凹面内は平行沈線と連続斜交である。胴部は丸右巻きの器文を縦位、時計回りに重なる / 砂粒多量含む / 注№206-208、213、B区5、C区2・4		縄文中期・晩期3	胴部片 / №9-11は同一個体
	11	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 地文は丸右巻きの器文を縦位、時計回りに重なる / 砂粒多量含む / 注№209-211、219、220、231、B区5、C区4・7		縄文中期・晩期3	胴部片 / №9-11は同一個体
	12	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 大形の把手の口縁部片。胴部上は一部へつ状工具による連続斜交 / 砂粒多量含む / 注№197、200		縄文中期・晩期3	口縁部片
	13	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 大形の把手の口縁部片。胴部縁は汎形連続斜交。胴部内や縁は三角斜交 / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 注№127		縄文中期・晩期3	口縁部片
	14	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 把手突起から、直下に懸垂帯帯を降ろし、胴部上へはへつ状工具により矢印状に連続斜交。幅広の無文口縁交帯帯を持つ / 砂粒多量含む / 注№115		縄文中期・晩期3	口縁部片
	15	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 把手突起から、直下に懸垂帯帯を降ろし、胴部上へはへつ状工具により矢印状に連続斜交。幅広の無文口縁交帯帯を持つ / 砂粒多量含む / 注№228、C区4		縄文中期・晩期3	口縁部片
	130 回	16	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 小形把手突起から、直下に懸垂帯帯を降ろし、胴部上へはへつ状工具による連続斜交。幅広の無文口縁交帯帯を持つ / 砂粒多量含む / 注№H1		縄文中期・晩期3
17		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 三角形把手の口縁部片。胴部縁は連続斜交。胴部上を連続斜交にする。口縁内部には沈線で二文文 / 砂粒多量含む / 注№269		縄文中期・晩期3	口縁部片
18		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 胴部縁は三角斜交 / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 注№270		縄文中期・阿玉台15期	胴部片
19		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 三角形把手の口縁部片。縁は内側へ突出する。頂点から懸垂帯帯 / 砂粒多量含む。再凹面含む / 注№15		縄文中期・阿玉台	口縁部片
20		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 口縁は内側へ突出する / 砂粒多量含む。再凹面含む / 注№300、ABベルト1		縄文中期	口縁部片
21		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 口縁へ懸垂帯帯 / 砂粒多量含む / 注№12		縄文中期・晩期3	口縁部片
22		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 口縁へ懸垂帯帯 / 砂粒多量含む / 注№11、12、A区1		縄文中期・晩期3	口縁部片
23		180号住居跡	縄文土器・小形深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 胴部へ帯帯を帯付け沈線で押さえる / 砂粒多量含む / 注№425、H4		縄文中期・晩期3	口縁部片
24		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 胴部上を連続斜交した溝巻き文と、平帯帯が上下に平帯帯で区画し、区画内は横位の沈線で充填する / 砂粒多量含む / 注№93、440		縄文中期・晩期3	胴部片
25		180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 上を連続斜交した胴部で区画し、区画内は縦位の沈線で充填する / 砂粒多量含む / 注№196、199、279、H1		縄文中期・晩期3	胴部片
131 回	26	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪郭み成形 / 丸。縄文を縦位に施文する / 砂粒多量含む / 注№P-1		縄文中期	胴部片
	27	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(000)	(8.1)	輪郭み成形 / 丸。縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№CDベルト1		縄文中期	底部片
	28	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(9.6)	(5.2)	輪郭み成形 / 丸。縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№382		縄文中期	底部片
	29	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(11.4)	(5.3)	輪郭み成形 / 丸。縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№B区3、C区4		縄文中期	底部片
	30	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(022)	(4.3)	輪郭み成形 / 縄文を施文する / 砂粒多量含む / 注№BCベルト1		縄文中期	底部片
	31	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(7.8)	(3.0)	輪郭み成形 / 縄文を施文する / 砂粒多量含む / 注№302、304		縄文中期	底部片
	32	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(024)	(7.0)	輪郭み成形 / 丸。縄文を縦位に施文後懸垂帯帯と波状帯帯を帯付する / 砂粒多量含む / 注№178、179		縄文中期・加賀川E1	底部片
	33	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	24.5	10.5	17.2	輪郭み成形 / 口縁は内側に凹出し、胴部上による横凹部で四分割する。胴部上へはへつ状工具による連続斜交。胴部縁は汎形文、区画内は沈線を横一文字に施文する / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 加賀川群 / 注№349-353、355、364		縄文中期・晩期3	1/2以上現存
	34	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	(31.1)	100	130	輪郭み成形 / 口縁は内側に凹出し、口縁は内外に突出する。無文 / 砂粒多量含む / 外面一部に赤色彫形施す。内面黒附録 / 注№484、ABCベルト		縄文中期	3/4以上現存
	35	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	(39.0)	—	(11.4)	輪郭み成形 / 口縁は内側に凹出し、中央幅広の突帯帯が通る / 砂粒多量含む / 内側には赤色彫形施す。内面は平行帯帯や帯帯の縁が通る / 注№347		縄文中期	1/4以下現存
	36	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	(44.0)	—	(6.5)	輪郭み成形 / 口縁は内側に凹出し、中央幅広の突帯帯が通る / 砂粒多量含む / 内側には赤色彫形施す。内面黒附録 / 注№248、249		縄文中期	1/4以下現存

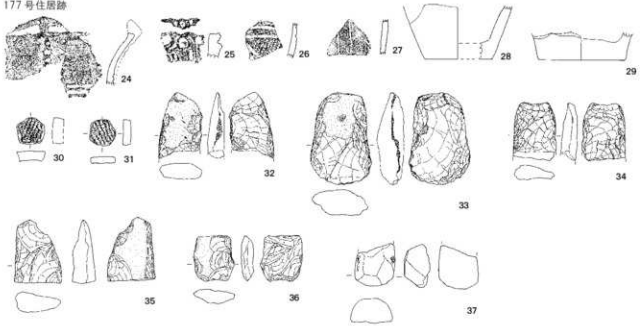
図録 番号	遺構名	種類・部種	口径・ 長さ	口径・ 長さ	口径・ 長さ	技法 / 文様 / その他	石材 / 構成 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
37	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 口縁は内側に高直し、隆帯が附けられる / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩あり、内面黒直付帯 / 注 № 488		縄文中期	口縁部片
38	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 口縁は内側に高直し、隆帯が附けられる / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩あり、内面黒直付帯 / 注 № 134、137		縄文中期	口縁部片
39	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 口縁は内側に高直し、突帯が凸る / 砂粒多量含む / 外面に赤色塗彩あり / 注 № 145、B区-4		縄文中期	口縁部片
40	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 口縁部に蓮花彫文様 / 砂粒多量含む、雲母片を多量含む、片焼後の穿孔有。 / 注 № 373		縄文中期	口縁部片
41	180号住居跡	縄文土器・ 注口土器	-	-	-	他にR石巻きの部文を縦位に施文後、沈降で文様部を歪曲、調査や文 注脚要文施文する / 砂粒多量含む、角閃石含む / 注 № 81		縄文中期・前期 3	注口部
42	180号住居跡	縄文土器・ 有孔罇付土器	-	-	-	輪組み成形 / 直立する口縁下部に径 3.5mmの孔が3cm間隔で穿ぶ、穿孔は 地成前、罇は2連に穿り、幅広の腹取把手が付く / 砂粒多量含む、角閃石含む / 内外面に赤色塗彩あり / 注 № 337		縄文中期・新石器	口縁部 / № 42 と同一体
43	180号住居跡	縄文土器・ 有孔罇付土器	-	-	-	輪組み成形 / 幅広の腹取把手が付く、罇部分 / 砂粒多量含む、角閃石含む / 内 面に赤色塗彩あり / 注 № B区-4		縄文中期・新石器	罇部 / № 42 と同一体
44	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / やや幅広の突帯が凸る / 砂粒多量含む、角閃石含む / 内外面に 赤色塗彩あり / 注 № C区-4		縄文中期	口縁部片
45	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 口縁は内側に高直する / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩あり / 注 № B区-2		縄文中期	口縁部片
46	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 口縁は内側に高直する / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩あり / 注 № C区-4		縄文中期	口縁部片
47	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩 あり / 注 № C区-5		縄文中期	胴部片
48	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩 あり / 注 № C区-3		縄文中期	胴部片
49	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩 あり / 注 № B区-3		縄文中期	胴部片
50	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 内面は赤色塗彩あり、外面は黒直もしくは黒 色塗彩の上に赤色塗彩あり / 注 № P4-2		縄文中期	胴部片
51	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 内外面に黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗 彩あり / 注 № B区-5、CDベルト1		縄文中期	胴部片
52	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む、内面は黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗 彩あり、 / 注 № C区-3		縄文中期	胴部片
53	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 外面は黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗 彩あり / 注 № C区-5		縄文中期	胴部片
54	180号住居跡	縄文土器・浅鉢	-	-	-	輪組み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒直もしくは黒色塗彩の上に赤色塗 彩あり / 注 № B区-4		縄文中期	胴部片
55	180号住居跡	縄文土器・ 土製円盤	-	-	-	土器片を円形に打ち欠く / 砂粒多量含む / 内面に赤色塗彩あり / 注 № B区-5		縄文中期	胴部片
56	180号住居跡	土製品・磁皿	-	-	-	型付成形 / 透明釉 / 注 № BC-ベルト1		19C後半	吹き口部
57	180号住居跡	磁成粘土塊	-	-	-	注 № CD-ベルト1			
58	180号住居跡	砂埴	-	-	-	型付製造の赤埴片 / 注 № D区-4		奈良・平安	
59	180号住居跡	土製品・加蓋子	2.7	2.3	0.8	型押し成形 / ヒョットコ、裏面に指摺環 / 砂粒少量含む / 注 № B区-2		1700年代～ 1800年代	完整
60	180号住居跡	石器・石鏃	11.71	1.34	0.37	重量 0.74g 押し鏃 / 注 № C区-1	チャート	縄文時代	先端部
61	180号住居跡	石器・楔形	1.5	1.4	0.7	重量 0.95g 両端技法 / 注 № C区-2	黒曜石	縄文時代	完整
62	180号住居跡	石器・打製石斧	11.2	4.4	1.55	重量 106.39g 両端打技法 / 注 № 113 両端	砂岩	縄文時代	完整
63	180号住居跡	石器・打製石斧	19.43	4.85	1.45	重量 71.62g 両端打技法 / 注 № 172	砂岩	縄文時代	先端部
64	180号住居跡	石器・打製石斧	18.28	5.13	2.60	重量 123.7g 両端打技法 / 注 № 57	ホルンフェ ルス	縄文時代	先端部
65	180号住居跡	石器・打製石斧	18.99	4.90	3.10	重量 134.4g 両端打技法 / 注 № 60	砂岩	縄文時代	先端部
66	180号住居跡	石器・打製石斧	7.983	5.88	1.78	重量 79.72g 両端打技法 / 注 № 103	ホルンフェ ルス	縄文時代	基部欠
67	180号住居跡	石器・打製石斧	19.89	5.40	2.90	重量 189.3g 両端打技法 / 注 № 390 両端	砂岩	縄文時代	先端部
68	180号住居跡	石器・打製石斧	19.19	5.30	1.60	重量 88.1g 両端打技法 / 注 № 407	砂岩	縄文時代	基部欠
69	180号住居跡	石器・打製石斧	19.73	5.08	1.48	重量 66.65g 両端打技法 / 注 № D区-4	ホルンフェ ルス	縄文時代	先端部
70	180号住居跡	石器・打製石斧	10.928	5.00	1.95	重量 108.98g 両端打技法 / 注 № CD-ベルト1	片岩	縄文時代	基部欠
71	180号住居跡	石器・打製石斧	9.60	4.77	1.87	重量 106.8g 両端打技法 / 注 № 308	黒色強石質	縄文時代	完整
72	180号住居跡	石器・打製石斧	6.78	(4.90)	1.13	重量 45.2g 両端打技法 / 注 № 177	ホルンフェ ルス	縄文時代	先端部
73	180号住居跡	石器・打製石斧	6.43	4.65	2.17	重量 70.80g 両端打技法 / 注 № C区-2	ホルンフェ ルス	縄文時代	基部欠
74	180号住居跡	石器・打製石斧	16.80	(3.68)	1.80	重量 50.31g 両端打技法 / 注 № C区-5	片岩	縄文時代	先端部
75	180号住居跡	石器・打製石斧	18.48	4.90	1.27	重量 60.71g 両端打技法 / 注 № C区-2	黒色頁岩	縄文時代	基部欠
76	180号住居跡	石器・打製石斧	4.5	4.90	2.0	重量 53.24g 両端打技法 / 注 № 216	ホルンフェ ルス	縄文時代	先端部
77	180号住居跡	石器・打製石斧	7.9	5.30	4.20	重量 193.09g 両端打技法 / 注 № 96	砂岩	縄文時代	先端部、基部欠
78	180号住居跡	石器・磨製石斧	6.8	4.20	0.8	重量 38.64g / 注 № 305	頁岩	縄文時代	先端部
79	180号住居跡	石器・磨製石斧	11.0	4.40	4.1	重量 306.1g 磨打地磨製成形 / 注 № 483 両直	砂岩	縄文時代	基部欠
80	180号住居跡	石器・磨製石斧	6.7	1.90	1.6	重量 33.45g 先端に磨打痕有 / 注 № B区-3	火山岩?	縄文時代	基部欠
81	180号住居跡	石器・磨製石斧、 磨石	7.6	4.50	3.1	重量 176.2g 先端に磨打痕有 / 注 № 401	黒頁岩	縄文時代	基部欠
82	180号住居跡	石器・磨石	11.0	5.10	2.0	重量 170.29g 磨打に磨打痕有 / 注 № C区-2	砂岩	縄文時代	一部欠
83	180号住居跡	石器・磨石	11.8	3.10	1.2	重量 69.4g 先端に磨打痕有 / 注 № 236 両直	砂岩	縄文時代	一部欠
84	180号住居跡	石器・くばり石	11.0	13.90	1.9	重量 422.3g 径 2.0mmの孔 1ヶ所有 / 注 № 271	片岩	縄文時代	一部欠

図録 番号	遺構 番号	遺構名	種類・部種	口径 / 径	底径 / 幅	高さ / 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 想定 生産地	推定年代・時期	現存 / 備考
134 冊	1	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 輪転式で沈陥による文様彫 / 砂粘多量含む、内面石含む / 注 № 1D-2	—	縄文中期・晩期 3	口縁部片
	2	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 降帯による区画文、降帯 1 はへら工具による連続刻突交互彫、区画内は沈陥による文様彫 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-3	—	縄文中期・晩期 3	口縁部片
	3	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-2	—	縄文中期	口縁部片
	4	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-1	—	縄文中期	口縁部片
	5	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文後、2 断面の降帯を彫付、軸を沈陥で押さえる / 砂粘多量含む / 注 № 1D-1	—	縄文中期・加曽 利 E Ⅰ	製部片
	6	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-3	—	縄文中期	製部片
	7	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文後、沈陥で彫行懸垂文を施す / 砂粘多量含む / 注 № 1D-3	—	縄文中期・加曽 利 E Ⅰ	製部片
	8	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-3	—	縄文中期	製部片
	9	土坑 1	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部内側に施文する、沈陥による施文 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-2	—	縄文中期	製部片
	10	土坑 1	縄文土器・鉢	—	φ8.0	2.65	輪埴み成形 / 無文 / 砂粘多量含む / 注 № 1D-2	—	縄文中期	底部片
	11	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 二断面で文様彫付 / 砂粘多量含む / 注 № 2D-2	—	縄文中期・晩期 3	製部片
	12	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は右巻きの帯状文を縦帯に施文、降帯で彫り、軸を沈陥で押さえる / 砂粘多量含む / 注 № 2D-2	—	縄文中期・加曽 利 E Ⅰ	口縁部片
	13	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文後、平行沈陥内を彫り工具で連続刻突 / 砂粘多量含む / 注 № 2D-2	—	縄文中期・加曽 利 E Ⅰ、溝橋	口縁部片
	14	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は右巻きの帯状文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 2D-2	—	縄文中期	製部片
	15	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は右巻きの帯状文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 2D-3	—	縄文中期	製部片
	16	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文後、沈陥で彫行懸垂文を施す / 砂粘多量含む / 注 № 2D-2	—	縄文中期・加曽 利 E Ⅰ	製部片
	17	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 沈陥で波状文を施す / 砂粘多量含む / 注 № 2D-4	—	縄文中期	製部片
	18	土坑 2	縄文土器・鉢	—	φ10.0	2.30	輪埴み成形 / 無文 / 砂粘多量含む / 注 № 2D-4	—	縄文中期	底部片
	19	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 降帯による区画文、区画内は縦帯の沈陥跡で充填する / 砂粘多量含む / 注 № 3D-2	—	縄文中期・晩期 3	製部片
	20	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 沈陥跡で充填する / 砂粘多量含む / 注 № 3D-1	—	縄文中期・晩期 3	製部片
	21	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 3D-1	—	縄文中期	製部片
	22	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № 3D-1	—	縄文中期	製部片
	23	P3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 降帯彫付 / 砂粘多量含む / 注 № P3-2	—	縄文中期	製部片
	24	P6	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 降帯による区画文、降帯 1 は爪形連続刻突 / 砂粘多量含む / 注 № P6	—	縄文中期・晩期 3	製部片
	25	P6	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部の小把手、降帯を彫付する / 砂粘多量含む、雲母片含む / 注 № P6	—	縄文中期・阿玉台	口縁部片
	26	P7	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は右巻きの帯状文を縦帯に施文、私土跡の状況は施文を彫付 / 砂粘多量含む / 注 № P7-2	—	縄文中期・野利Ⅱ	製部片
	27	P8	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部の小把手、降帯を彫付する、降帯 1 は連続刻突 / 砂粘多量含む、雲母片含む / 注 № P8-2	—	縄文中期・晩期 3	口縁部片
	28	P8	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № P8-1	—	縄文中期	製部片
	29	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 波状口縁部、降帯による区画内彫を、平瀬竹筒により平行した連続刻突を施す / 砂粘多量含む、雲母片含む / 注 № H2	—	縄文中期・阿玉台 1 と Ⅱ	口縁部片
	30	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 降帯彫に連続刻突文 / 砂粘多量含む、雲母片含む / 注 № H1	—	縄文中期・阿玉台 1 と Ⅱ	製部片
	31	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 降帯彫に角押文を 3 断面施文 / 砂粘多量含む、雲母片含む / 注 № H1	—	縄文中期・阿玉台Ⅱ	製部片
32	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部の小把手、帯状の降帯を内外面に彫付する、降帯彫に連続刻突 / 砂粘多量含む、雲母片含む / 注 № H5	—	縄文中期・晩期 3	口縁部片	
33	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 沈陥に平行した連続刻突と平行刻突を施文 / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文中期・晩期 3	製部片	
34	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 波状口縁部、口縁は輪転の突彫、降帯は地文を右巻き帯状文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文中期・晩期 3	口縁部片	
35	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文、降帯は区画文を縦帯に施文、区画内は降帯を彫付後、軸を沈陥で押さえる、沈陥跡に波状文を施文 / 砂粘多量含む / 注 № H1	—	縄文中期・加曽利 E Ⅰ	口縁部片	
36	遺構外	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 無文 / 砂粘多量含む / 注 № 1 トレⅠ	—	縄文中期	口縁部片	
37	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部は帯状に波状、地文は縦帯の沈陥跡、降帯で内側と椀口区画を施す、軸を沈陥で押さえる / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文中期・加曽利 E Ⅱ	口縁部片	
38	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む、内面石含む / 注 № H5	—	縄文中期	口縁部片	
39	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は帯状文を縦帯に施文、口縁へ沈陥を 2 列より平行 / 砂粘多量含む / 注 № 1 トレⅠ	—	縄文中期・加曽利 E Ⅰ、溝橋	口縁部片	
40	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は帯状文を縦帯に施文、口縁へ沈陥を 2 列と 3 列の連続文 / 砂粘多量含む / 注 № 1 トレⅠ	—	縄文中期・加曽利 E Ⅰ、溝橋	口縁部片	
41	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 区画文を縦帯に施文 / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文中期	製部片	
42	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 地文は帯状文を縦帯に施文、沈陥で文様を施す / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文中期	製部片	
43	遺構外	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部二断面三角、無文 / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文中期	口縁部片	
44	遺構外	縄文土器・鉢	—	—	—	輪埴み成形 / 口縁部二断面三角、帯状の沈陥跡 / 砂粘多量含む / 注 № H1	—	縄文中期・野利Ⅱ	口縁部片	
45	遺構外	縄文土器・鉢	—	φ6.0	1.10	輪埴み成形 / 無文 / 砂粘多量含む / 注 № H5	—	縄文時代	底部片	
46	遺構外	鉄製品・刀子	—	—	—	鍛造品 / 注 № H8	—	—	—	破片
47	遺構外	鉄製品・釘	—	—	—	鍛造品 / 注 № H4	—	—	—	遺部、先端欠
48	遺構外	石器・打製石斧	4.3	5.3	1.0	重量 33.56g / 注 № H1	—	縄文時代	—	—
49	遺構外	石器・打製石斧	16.37	8.05	4.35	重量 429.90g 両輪鋸打技法 / 注 № H1	—	縄文時代	完形	—
50	遺構外	石器・ナイフ形	2.00	1.22	0.67	重量 1.40g 黒長石片を素材に、黒長石片を調整磨削する / 注 № H1	—	加曽利	石器時代	先端欠
51	遺構外	石器・磨石	2.1	1.5	0.6	重量 1.09g 両輪打注 / 注 № 2 トレⅠ	—	加曽利	縄文時代	完形



第125図 東台遺跡第51地点177号住居跡出土遺物①(1/4)

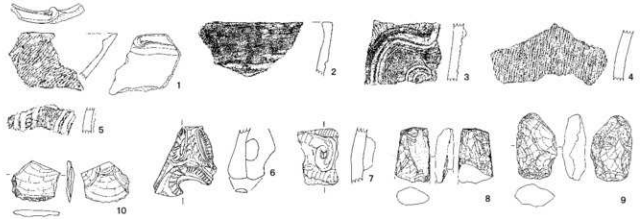
177 号住居跡

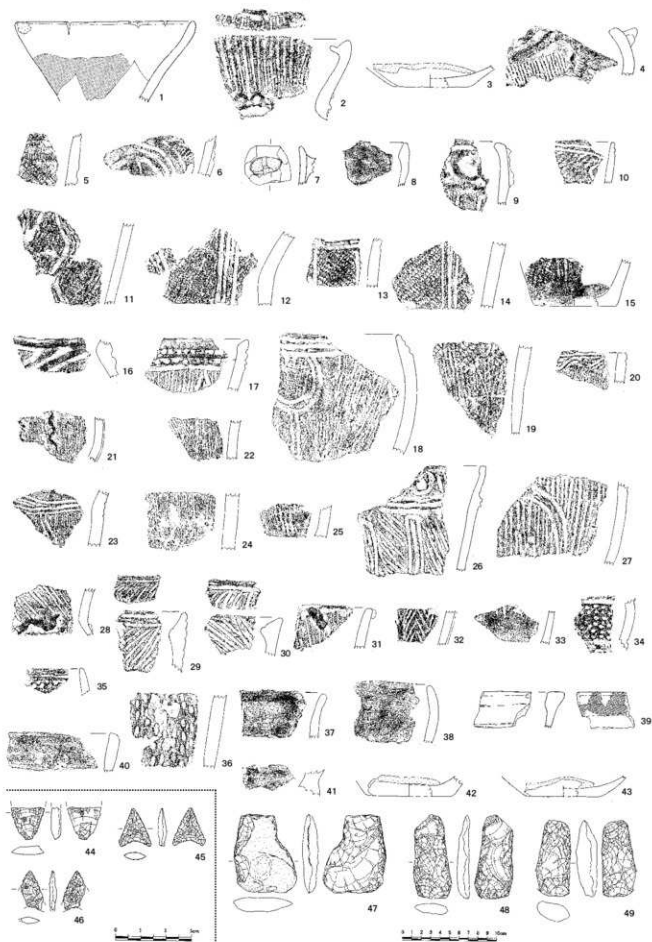


74 号住居跡



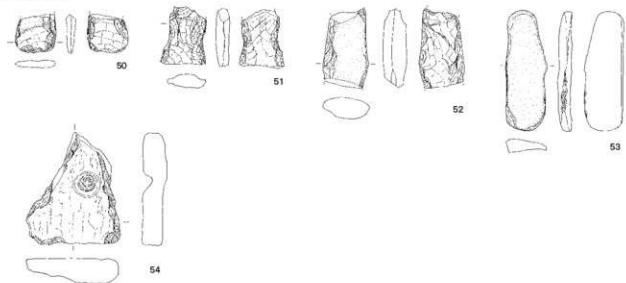
182 号住居跡



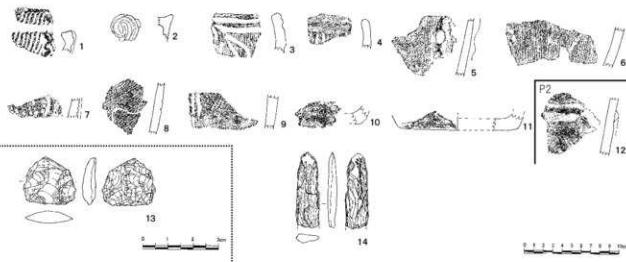


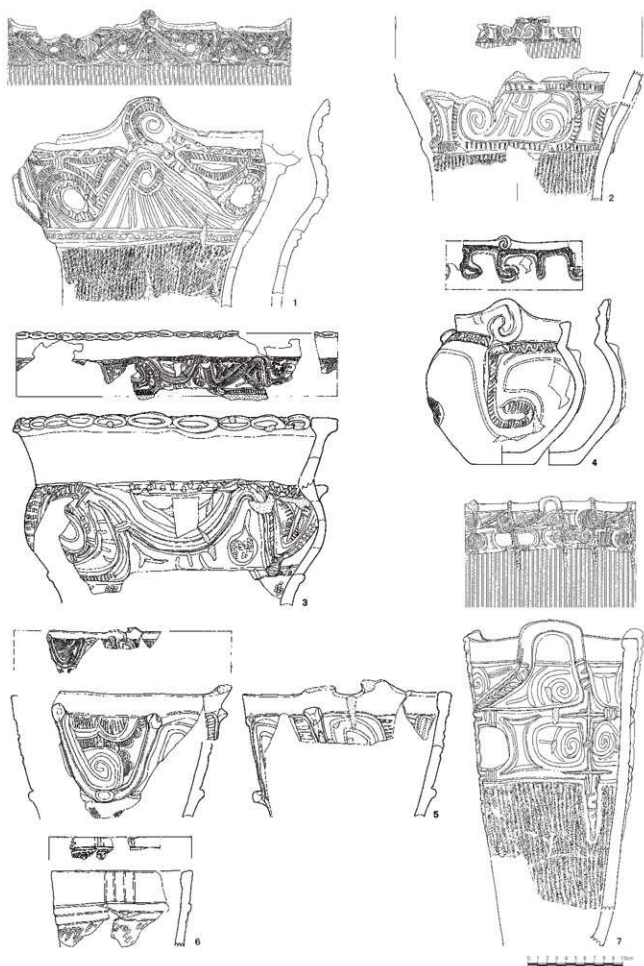
第127図 東台遺跡第51地点178号住居跡出土遺物① (1/4・2/3)

178 号住居跡

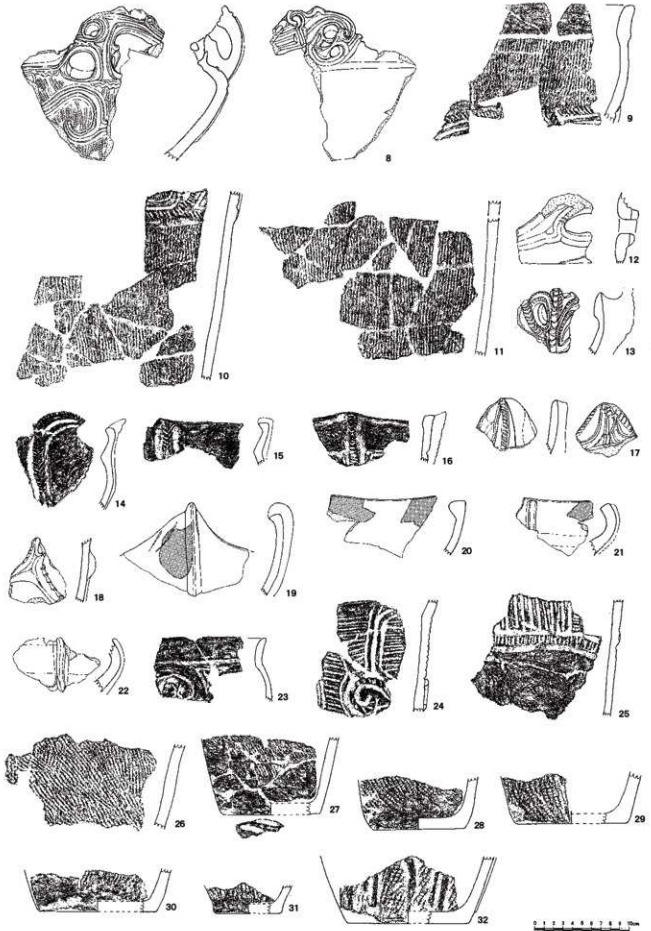


179 号住居跡





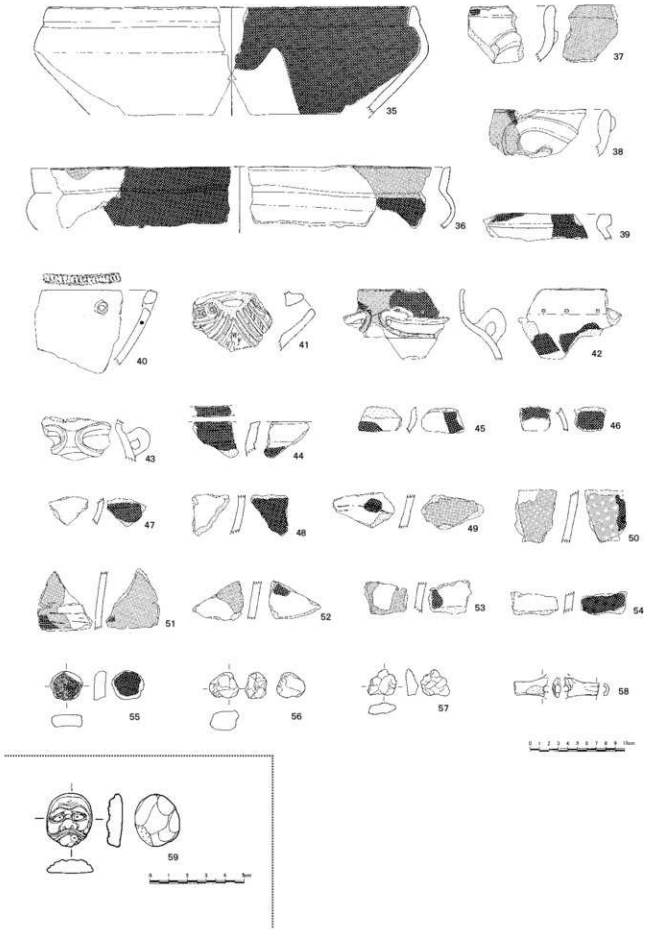
第129図 東台遺跡第51地点180号住居跡出土遺物① (1/4)



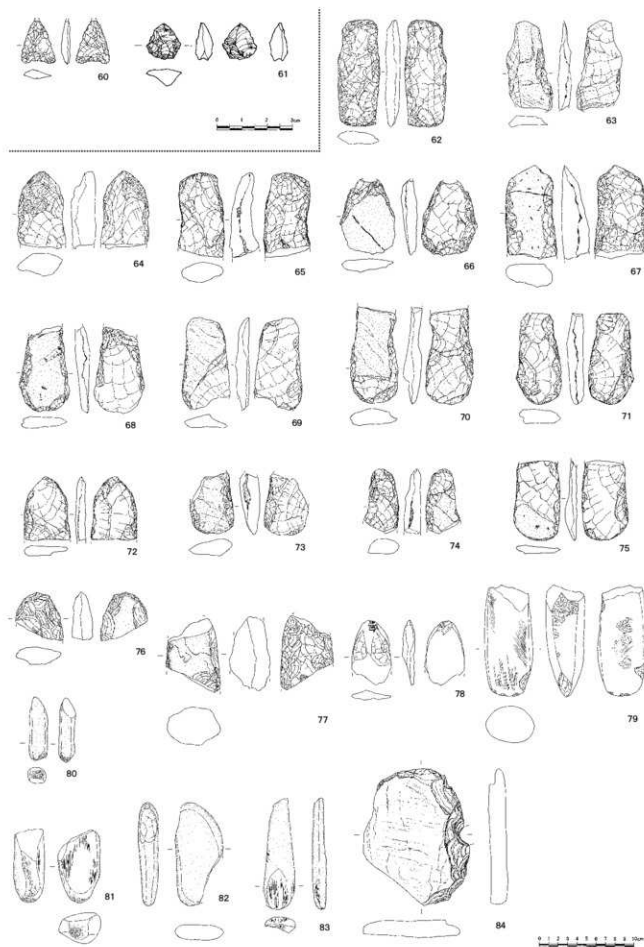
第 130 图 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物② (1/4)



第131図 東台遺跡第51地点180号住居跡出土遺物③ (1/4)



第 132 図 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物④ (1/4・1/2)

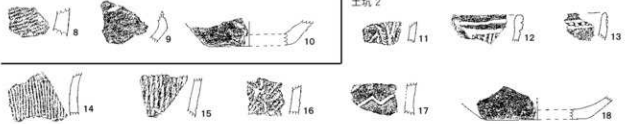


第133図 東台遺跡第51地点180号住居跡出土遺物⑤ (1/4・2/3)

土坑 1



土坑 2



土坑 3



P3



P6



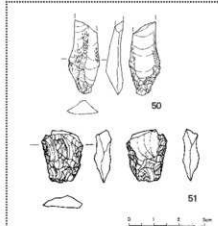
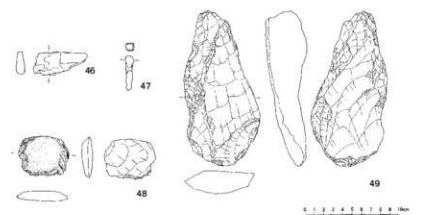
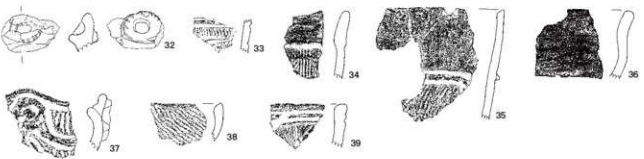
P7



P8



遺構外



第 134 図 東台遺跡第 51 地点土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

第17章 石塔畑遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

石塔畑遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1.7km、砂川堀右岸の台地奥に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は28mである。

現在徳性寺に建つ弘安四年(1281年)の板碑は「大井坂上石塔の畑中より掘り出されたもの」(「大井町の散歩道」1974)と伝わる。弘安四年の板碑が発見され、徳性寺に持ち込まれた時期は不明であるが、この板碑は「大井町念佛講中」と刻まれた台石に埋め込まれており、江戸後期には発見されていたことが伺える。また、「石塔畑」の地は地元で鎌倉街道とも呼ばれる古道が通り、この地でクランク状に曲がる。中世に係わる遺構の検出が期待される。

周辺の遺跡は、北東300mに旧石器・縄文・古代の複合遺跡である東台遺跡、北250mに旧石器と近世の大井戸上遺跡、北西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また、近世大井宿の上木戸跡が西側にある。



第135図 石塔畑遺跡の地形と調査区(1/4,000)

II 石塔畑遺跡第1地点

(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年11月5日付けて「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は2008年11月17日から20日まで行なわれた。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プランを確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、現代の溝状遺構(イモビツ)であった。他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで70~90cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

III 石塔畑遺跡第2地点

(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年11月5日付けて「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は2008年11月18日から21日まで行なわれた。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プランを確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、現代の溝状遺構(イモビツ)であった。他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで70~90cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

IV 石塔畑遺跡第3地点

(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年11月5日付けて「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は2008年11月19日から25日まで行なった。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで70～90cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

V 石塔畑遺跡第4地点

(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年11月13日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

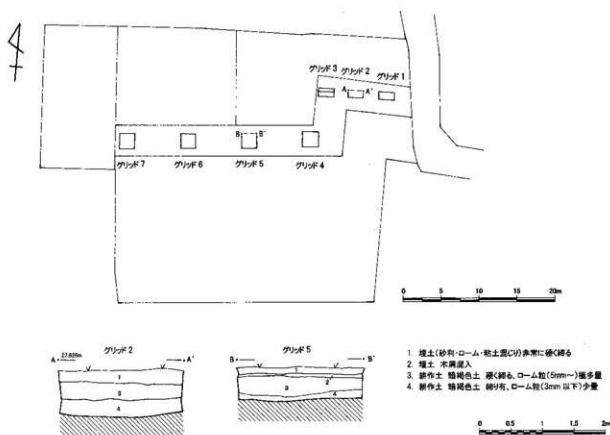
試掘調査は2008年11月20日から25日まで行なった。幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで70～90cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

VI 石塔畑遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2008年12月11日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外であるが、鎌倉街道と伝承される古道に面しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は2009年1月13、14日に行なった。道路予定地に2×2mのグリッドを3カ所、2×1mのグリッドを3カ所設定し、人力による表土除去と表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで70～90cmを測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。



第137図 石塔畑遺跡第5地点調査区域図(1/500)、土層図(1/60)

第18章 まとめ

2008(平成20)年度は、38件の試掘調査を行い、うち8件が個人住宅建設に伴う本調査、1件が公共工事に伴う本調査、3件が民間開発に伴う本調査に移行した。その他、20件の工事立会を行った。工事立会を除いた開発面積18,016㎡のうち5,164㎡を調査したことになる。前年度と比較すると調査面積は増加している。

開発の内容は、相続に伴い建売住宅や宅地開発する例が多かった。基礎工事が遺構面に影響を及ぼさないため宅地部分は保存し、道路部分や削平部分を発掘する等、部分的な発掘であった。

以下、本年度に行なった調査について、時代別に概観する。

【旧石器時代の調査】今年度は川崎遺跡第26地点で尖頭器1点、松山遺跡第45地点で剥片1点、神明後遺跡第34地点で縦長剥片1点、東台遺跡第51地点でナイフ形石器1点を検出した。いずれも表土や攪乱中からの検出であった。このうち松山遺跡第45地点、神明後遺跡第34地点、東台遺跡第50地点の3ヶ所で旧石器時代調査のため深掘りのグリッドを設定し調査したが、旧石器時代の遺構は確認できなかった。

【縄文時代】川崎遺跡は舌状に張り出した台地の突端で、そのまま緩やかに沖積地となる。1928年には川崎貝塚として報告されており、縄文時代早期から後期にかけての住居跡等を検出している。川崎遺跡第25・26・28～30地点では早期～中期にかけての土器片や石器が奈良・平安の遺構内や遺構外から出土していたが、縄文期の遺構は検出しなかった。

ハケ遺跡C区第8地点と亀居遺跡第63地点では中期の住居跡を検出したが、盛土保存の措置をとり本調査は行っていない。なお、亀居遺跡の住居跡は16号住居跡として隣接する第61地点で1/4を調査しており、阿玉台Ⅱ期古相の埴体土器を伴う。

東台遺跡第51点では中期の住居跡を6軒検出した。住宅の建設予定地に入る住居跡4軒と土坑・ピットの調査を行ない、残り2軒は盛土保存の措置をとったが、サブレンチを入れて深さや時期の確認を行なった。住居の時期は勝坂末3軒、加曾利EⅡ期3軒である。

180号住居跡は多量の土器が廃棄されていた。床上の土器もあるが、レンズ堆積した土の上に土器を廃棄した、いわゆる吹上パターンを示す。出土土器は阿

玉台1b式から加曾利EⅠ期までで、勝坂3式が大半を占める。出土した土器には内面に文様が塗彩された浅跡があった。(180頁第132図35)文様は半円形と斜めに垂下する線の組み合わせで、さらに右側の文様は不明であるが、半円形については明確に朱色で塗彩されていた。その他にも17点の破片に塗彩の痕跡があった。有孔鈔付土器(180頁第132図42)の内外面も塗彩されていた。塗彩された土器の破片は以前から多数検出していたが、文様の描かれた土器の検出は近年頻度が増えている。(高崎2008)破片の場合特に注意が必要である。また、黒曜石の剥片が覆土中から54点出土しており、石器製作の場、もしくは廃棄場所と思われる。

177号住居跡と180号住居跡では埴体土器を検出したが、いずれも2個体の土器を埋設し、埴の補修を行なっている様子が伺われる。

【古代】奈良・平安時代の住居跡は、川崎遺跡で11軒、松山遺跡で2軒調査した。川崎遺跡は8世紀代4軒、9世紀代6軒、不明1軒である。

川崎遺跡第25地点では平安時代の掘建柱建物跡を1棟検出し、P3からは灰釉陶器皿が出土した。川崎遺跡の中では北端に位置し、隣接する第17点では平安時代の竪穴住居跡が1軒検出されているものの、住居跡の密度が低い地域である。

川崎遺跡第30地点H61号住居跡から灰釉陶器皿が、H62号住居跡から「用」字が書かれた墨書土器が出土した。また、H61号住居跡と、第26地点H54号住居跡からは竈内から支脚が出土した。

煤の付着した容器が川崎遺跡の各住居跡から出土している。第26地点H52号住居跡から須恵器環2点と皿1点(31頁第18図9・10・19)、H54号住居跡から須恵器環1点(33頁第20図48)、第29地点H59号住居跡から須恵器環1点(53頁第37図6)等である。灯火具として利用された可能性が高いが、H52号住居跡出土の須恵器皿(31頁第18図19)の場合、煤が付着した破片と付着していない破片が接合しており、「芯押さえ」としての使用が考えられる。(坂野2005)

川崎遺跡28地点遺構外出土の円盤状土製品は用途不明の遺物である。埼玉県中堀遺跡出土の円盤状土製品より若干小ぶりであるが類似する。鍛冶や鋳造、製

鉄関連の遺物と報告されており、(岩瀬 1997)川崎遺跡でも今後注意が必要である。

松山遺跡第 45 地点 H 35 号住居跡は焼失家屋と思われるが、幅 10cm 前後、長さ 220cm (一部途切れる)の「クリ」の炭化材が出土した。住居跡の中央から角に向かう対角線方向に位置し、垂木と思われる。その他、萱と思しき「イネ科」の炭化材も出土しており、屋根などの部材や家屋内で使用していた調度類であった可能性がある。

【中世】駒林遺跡第 5・7 地点で時期不明の溝・堀跡を検出した。

駒林遺跡は広範囲で溝跡を検出している。(121 頁第 91 図参照) 南北方向に 130 m、第 1 地点で東方向へ曲がる。その延長方向に当たる 6ヶ所の調査地

点で同規模の溝跡を検出し、第 7、第 5 地点を経てさらに東へ続く。連続した溝と仮定した場合、第 1 地点の曲がり角から第 5 地点までは東西 275 m を測る。

第 1 地点では、溝跡の覆土中に茶毘跡が構築されており、茶毘跡 1 で検出した炭化材の年代測定を行なったところ、中世 (AD1316 - 1606) の結果を得た。

最後になりましたが、埼玉県埋蔵文化財調査事業団の田中広明氏には灰釉陶器について、富士見市立難波田城資料館の早坂廣人氏には縄文時代前期の土器について、川越市教育委員会の平野寛之氏には須恵器・土師器について御教示頂きました。また、同僚の鍋島直久、越村篤各氏には調査・整理にあたって助言を頂きました。誌上をもって謝意を記します。(高崎)

第 6 表引用文献

- ②安孫子昭二 1988『勝坂式土器様式』『縄文土器大観』2 小学館
- ②鈴木保彦・山本暉久 1988『加曾利 E 式土器様式』『縄文土器大観』2 小学館
- ③植木弘 1994『行司免遺跡出土の中期土器群の変遷』『比企郡市における埋蔵文化財の成果と概要』
- ④黒尾和久 1995『縄文中期集落遺跡の基礎的検討(1)』『論集 宇津木台』第 1 集 宇津木台地区考古学研究会
- ⑤谷井彪他 1982『縄文中期土器群の再編』『研究紀要』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ⑥小林達雄他 1981『シンポジウム 北関東を中心とする縄文中期の諸問題』考古学協会

第 1 図引用文献

- 堀口萬吉 1980『埼玉県の地形と地質』『新編 埼玉県史 別冊 3 自然』埼玉県
- 参考文献
- 今井亮・小泉功・坪田幹男 1989『大井町史 資料編 I 原始古代 中世』大井町教育委員会
- 今井亮・坪田幹男・鍋島直久 1996『西ノ原遺跡』大井町遺跡調査会
- 岩瀬謙 1997『V 1 (10) 円盤状土製品』『中堀遺跡 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団』
- 大川清ほか 1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
- 大橋康二ほか 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 川名広文ほか 1999『上福岡市史 資料編第 1 巻 自然史・考古』上福岡市教育委員会
- 國平健三 1986『相模型環の成立過程をめぐる土器様相』『神奈川考古』第 22 号 神奈川考古同人会
- 河野喜映 1986『8 世紀前半代の環形土器の実年代について』『神奈川考古』第 22 号 神奈川考古同人会
- 小林達雄ほか 2008『総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション
- 酒井清治 1987『埼玉県の須恵器の変遷について』埼玉の古代窯業調査報告書 埼玉県歴史資料館
- 桜井準也 2006『ガラス瓶の考古学』六一書房
- 高崎直成 2008『神明後遺跡出土の縄文時代中期塗彩土器について』『市内遺跡群 3』ふじみ野市教育委員会
- 田中広明 1997『V 1 (7) 灰釉陶器』『中堀遺跡 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団』
- 寺島孝一ほか 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- 長谷古真也ほか 1996『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題 II』江戸陶磁土器研究グループ
- 藤澤良祐 1986『瀬戸大窯発掘調査報告』『研究紀要 V』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1987『西茨第 1・2 号窯発掘調査報告』『研究紀要 VI』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1988『本業焼きの研究 (2)』『研究紀要 VII』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1988『本業焼きの研究 (3)』『研究紀要 VIII』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1991『瀬戸古窯址群 II - 古瀬戸後期様式の編年 -』『研究紀要 X』瀬戸市歴史民俗資料館
- 坂野千登勢 2005『再利用された土器群の考察』『若菜台遺跡発掘調査報告書 VI』坂戸市教育委員会
- 水本和美 1998『陶磁器・土器 分類・計数基準』『伝中・上富士前 II』豊島区教育委員会
- 渡辺一 1990『船山窯跡群 II』船山町教育委員会

附編 自然化学分析

松山遺跡第 45 地点における放射性炭素年代 (AMS 測定)
(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

松山遺跡第 45 地点は、埼玉県ふじみ野市築地 3 丁目 4-7 (北緯 35° 52' 21"、東経 139° 31' 51") に所在する。測定対象試料は、35 号住居跡から出土した炭化材より採取した炭化物 No.1 (IAAA-90421)、No.22 (IAAA-90422)、合計 2 点である。

2 測定の意義

住居跡の構築年代を推定する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃ で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃ で 30 分、850℃ で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (%) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ¹³C/¹²C を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C 年代に対応する較正曲線上の暦年較正範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ¹⁴C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データ

の蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6 測定結果

松山遺跡第 45 地点試料の ^{14}C 年代は、炭化物 No.1 が $1270 \pm 30\text{yrBP}$ 、炭化物 No.22 が $1360 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、No.1 が 7~8 世紀、No.22 が 7 世紀となった。両試料は同じ焼失住居跡の構築材と考えられており、 2σ の範囲で暦年較正年代が重なる。

いずれも炭素含有率が 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり		
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)
IAAA-90421	炭化物 No.1	松山遺跡第 45 地点 35 号住居跡	炭化物	AAA	-27.13 \pm 0.56	1,270 \pm 30		85.32 \pm 0.30
IAAA-90422	炭化物 No.22	松山遺跡第 45 地点 35 号住居跡	炭化物	AAA	-11.54 \pm 0.51	1,360 \pm 30		84.45 \pm 0.27

[#2978]

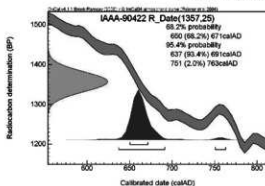
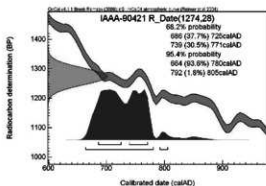
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし			暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)		pMC (%)			
IAAA-90421	1,310 \pm 30		84.95 \pm 0.28	1,274 \pm 28	686AD - 725AD (37.7%) 739AD - 771AD (30.5%)	664AD - 780AD (93.6%) 792AD - 805AD (1.8%)
IAAA-90422	1,140 \pm 20		86.80 \pm 0.26	1,357 \pm 25	650AD - 671AD (68.2%)	637AD - 691AD (93.4%) 751AD - 763AD (2.0%)

[参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

[参考] 暦年較正年代グラフ



松山遺跡・本村遺跡出土炭化材の樹種

1. 松山遺跡第 45 地点

はじめに

松山遺跡は、新河岸川右岸の台地上に立地する。第 45 地点の調査で検出された 35 号住居跡は古代の焼失住居であり、住居構築材と考えられる炭化材が出土している。

本報告では、出土した炭化材を対象として、木材利用を明らかにするための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、35 号住居跡から出土した炭化材 2 点（炭化物 No.1,22）である。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）および Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3. 結果

表 1. 松山遺跡第 45 地点の樹種同定結果

遺構	試料名	用途など	樹種
35 号住居跡	炭化物 No.1	住居構築材	クリ
	炭化物 No.22	屋根材（萱材）	イネ科

樹種同定結果を表 1 に示す。炭化材は、クリとイネ科に同定された。解剖学的特徴等を記す。

- ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔洞部は 3-4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

- ・イネ科 (Gramineae)

試料は、厚さ 1 mm 以内で、中空の円筒状、あるいは破損して薄い板状を呈する。横断面では、原生木部の小径の道管の左右に 1 対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。放射組織は認められない。

4. 考察

35 号住居跡から出土した炭化材のうち、炭化物 No.1 は住居の隅から住居中央に向かって直線上に延びる 5 点の炭化材内の 1 点である。5 点の炭化材は、同一部材に由来すると考えられており、合計で長さ 215 cm である。炭化物 No.1 は、住居の隅に近い試料で、長さは約 73 cm あり、床上 5 cm の位置から検出されている。出土状況から、垂木などの部材が推定される。樹種は落葉広葉樹のクリであり、重硬で強度・耐朽性に優れた木材が利用されていたことが推定される。一方、炭化物 No.22 は、住居東端の床上 5 cm から出土しており、出土状況から屋根材として利用された萱材の可能性が考えられている。炭化物はイネ科に同定されており、同定結果からも萱材であることが裏付けられた。萱材に利用される種類としては、ヨシ属やススキ属などが考えられ、これらのイネ科植物が屋根材に利用された可能性がある。

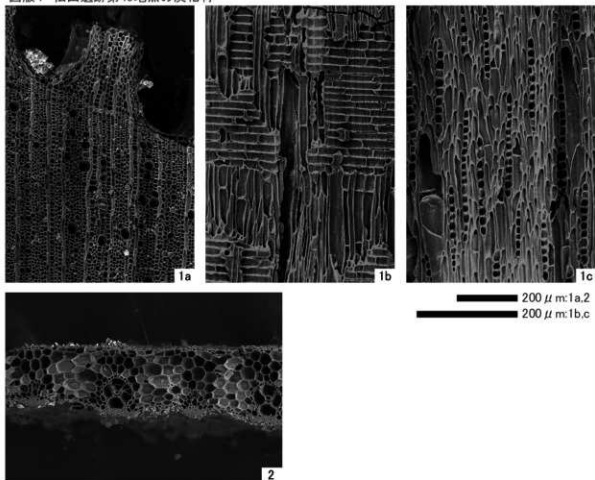
埼玉県内で、古代の住居構築材と考えられる炭化材にクリが確認された例は、勝呂庵寺（坂戸市）、谷津遺跡（富士見市）、鳩山窟跡群（鳩山町）、西久保遺跡（狭山市）、中道遺跡（志木市）、泉水山・下ノ原遺跡（朝霞市）等の報告例がある（パリオ・サーヴェイ株式会社,1989; 藤根,1990; 鈴木ほか,1993; 藤根・吉川,1995; 植田,1999; 鈴木,2003）。

勝呂庵寺では、8世紀頃と考えられる資料に、針葉樹のカヤ、広葉樹のオニグルミ、クヌギ節と共に確認されている。谷津遺跡では、平安時代とされる資料にクヌギ節とコナラ節を主体とした種類構成が認められ、クリが僅かに混じる。鳩山窯跡群では、主に8世紀後半～9世紀前半の資料にクヌギ節とコナラ節を主体とした種類構成が認められ、アカガシ亜属、クリ、モクレン属、サクラ属、ヌルデ、エゴノキ属が少数混じる。西久保遺跡では、9世紀とされる資料にクリを中心に、針葉樹の複雑管束亜属、モミ属、カヤ、広葉樹のオニグルミ、クヌギ節、コナラ節、アカガシ亜属、ケヤキ、モモ、サクラ属が少数混じる組成である。中道遺跡では、10世紀前半とされる資料にクリを中心にコナラ節やトチノキが混じる。泉水山・下ノ原遺跡では、奈良時代とされる資料の6点中5点がクリ、1点がクヌギ節であった。これらの結果から、クリは住居構築材として比較的良好に利用される木材の一つであったと考えられる。これまでの結果では、クヌギ節やコナラ節を主体とすることが多いが、クリを主体とする事例も西久保遺跡や泉水山・下ノ原遺跡で認められる。本遺跡の35号住居跡においても、他の試料の樹種を調べ、組成を検討することが望まれる。

引用文献

- 藤根 久.1990.谷津遺跡の炭化材樹種同定.「宮脇遺跡・谷津遺跡発掘調査報告書(2)」,富士見市遺跡調査会調査報告第34集,埼玉県富士見市遺跡調査会,50-54.
- 藤根 久・吉川 純子.1995.西久保遺跡出土炭化材及び炭化種実類.「狭山市 西久保/金井上 首都圏中央連絡自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告-V」,埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第156集,埼玉県埋蔵文化財調査事業団,293-297.
- 林 昭三.1991.日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫.1995.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東 隆夫.1996.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫.1997.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫.1998.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫.1999.日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- バリノ・サーヴェイ株式会社.1989.1号住居跡出土炭化材同定.「勝呂庵寺 勝呂庵寺F地区(西入間警察署勝呂駐在所)発掘調査報告書」,坂戸市遺跡発掘調査班,45-47.
- 島地 謙・伊東 隆夫.1982.図説木材組織.地球社,176p.
- 鈴木 三男.2003.泉水山・富士谷遺跡第16地区焼失住居跡の炭化材.「埼玉県朝霞市 泉水山・下ノ原遺跡Ⅱ 1981年度発掘調査報告書 第二分冊」,朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会,763-766.
- 鈴木 三男・渡辺 一・能城 修一.1993.埼玉県比企郡鳩山窯跡群(8-9世紀)出土炭化材の樹種と燃料材の用材. Ann Sci Kanazawa Univ,30,金沢大学,65-88.
- 植田 弥生.1999.城山遺跡第35地点から出土した炭化材の樹種同定.「志木市遺跡群9」,志木市の文化財第27集,埼玉県志木市教育委員会,120-126.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編).1998.広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 松山遺跡第45地点の炭化材



1. クリ(35号住居跡:炭化物No.1) a:木口,b:柁目,c:板目
 2. イネ科(35号住居跡:炭化物No.22) イネ科